

神苑の紅葉

日本は「モミジの国」
 燃えるような赤から黄色まで
 深く微妙な色合いで魅せる
 万葉の「もみち」は黄葉
 黄葉 黄変 黄色 黄反 と記す
 春日山 竜田川 三笠山
 縦糸も横糸も定めず織りなす黄葉
 秋の陽に透き通るように映える
 紅葉黄葉の綾錦あやにしんに包まれた堂塔
 粧いをこらした山々 錦の里
 秋は七絃琴の全音階を奏でる と
 画家のゴッホは手紙に書いた
 林間に酒を暖めて紅葉を焼き は
 白居易（白樂天）の有名な詩句
 時よ止まれ 美しい時を

東福寺の紅葉



Photo essay

神苑の秋



題字 中田 蘭石
 撮影 由井 収
 文 松永 恵一

春日大社神苑（水面に浮かぶ樹）





白川・紅葉谷

季節の



釣人

秋風



実景

宇治川ライン

晩秋

撮影 武市通治



興聖寺

野鳥





イブネ新雪（鈴鹿） 一芝 義雄



遠見尾根より鹿島槍ヶ岳（北アルプス） 松田 敏男

霞沢岳新雪（上高地） 吉沢 栄一

武奈ヶ岳西南稜からロノ深谷（比良） 中川 光郎





さとりの人々(羅漢岩)



燃えるように



紅葉は今が盛り

●目次

表紙：松田敏男「錦織の雨飾山」(信越国境)

●著者プロフィール ●1949年、京都生まれ。京都市立芸術大学卒。1967年より山岳作家、山岳部の指導多数回帰。(京都平安通社、南アルプス伝水小説、東京キャリアー百号、地) 京都山と野に親しむ会代表、日本山岳会会員

新刊作 別冊 関西の山
03年11・12月 晩秋 第73号

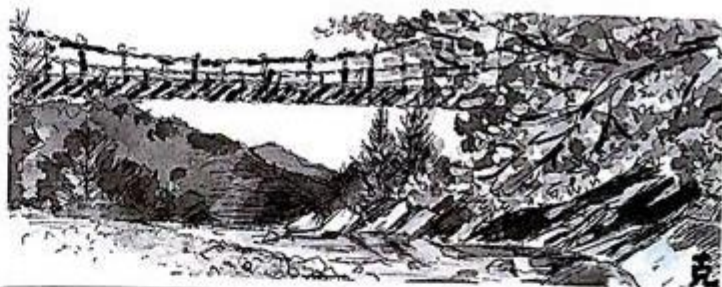
沿線ハイキングガイド サービスチェン	新ハイ関西山行計画 編集後記・広告案内	コース ① 城山・岩倉山・松明山(近江・美濃) ② 鴻尾山(美濃野山)(北摂) ③ 仙ヶ岳・御所平・ペンケイ(鈴鹿) ④ 五輪池山(美濃)	長坂 文男 中村 昭彦 松永 恵一 西尾 寿一 紀平 龍雄 長宗 清司 榮田 昭彦 藤部 昭彦 金谷 昭彦	46 65 54 74 72 68 84 82 78 76	●エリヤ別徹底研究 高野参詣道を歩く(第二回) ③三谷道 ④天野・立木道 山口・福岡ルート	長坂 文男 中村 昭彦 松永 恵一 西尾 寿一 紀平 龍雄	46 65 54 74 72 68	●旗振り通信の研究 山口・福岡ルート	長坂 文男 中村 昭彦 松永 恵一 西尾 寿一 紀平 龍雄	46 65 54 74 72 68	●南山城の里山歩き 熊倉孫神社から甘南備山 ●文学歴史探訪ハイイク 元禄の三大スターを巡る	長坂 文男 中村 昭彦 松永 恵一 西尾 寿一 紀平 龍雄	46 65 54 74 72 68	●「山のレポート」山の地名を歩く(俊美女山) ●「山のレポート」山の地名を歩く(俊美女山)	長坂 文男 中村 昭彦 松永 恵一 西尾 寿一 紀平 龍雄	46 65 54 74 72 68	●紀行 縄文杉周遊(前久島) 上根来から百里ヶ岳(香狭) 白馬山と露門山(紀北) 細川から細川越へ(比良) 連立 標高による山の紹介シリーズ13 △△73の山 経塚山・音波山・高畑山 愛鷹連峰縦走(静岡) 玉山と雲山(台) 滋賀東北の山 音波山(湖北)	生駒 賢峰 木村 太郎 中島 仁志 小山 誠次 松田 敏男 鷺見 守康 金谷 昭彦 藤部 純	18 13 26 22 12 10 32 34 38 61	●グラビア 神苑の秋……………撮影 由井 収 文 松永 恵一 季節の実景(晩秋)「宇治川ライン」 武市 通治 松田敏男 中川光郎 一芝義雄 吉沢栄一 奥田英一郎 随想(山のエッセイ) 鞍馬山の旧跡(巻下し) 若狭の山々雲谷山と庄部谷山	4 2
-----------------------	------------------------	---	---	--	---	---	-------------------------	-----------------------	---	-------------------------	---	---	-------------------------	--	---	-------------------------	---	---	---	---	-----

巻頭言

山を歩くのに欠かせない情報のひとつは、交通機関の時刻です。集客時間から解散後の帰宅までおおよその時刻を設定して山歩きにかけられる時間を決め、コースや休憩時間の配分を決めます。JRは書店に時刻表が売ってありますが、私鉄はその会社の駅売店に行かなければなりません。関西では、近鉄・南海・京阪など主な私鉄はそれぞれの時刻表を発売しています。

しかし、私の知る限り、今年になってから、近鉄が3月に、南海が7月に、京阪が9月に、JRは3月とこの10月にダイヤ改正がありました。これはほぼ毎年のごとで、そのたびに時刻表を購入しなければなりません。新ハイキング関西のリーダーは約4ヶ月前に計画を立てますのでこのことは大変です。実施の前になってダイヤが改正されていることがよくあります。バスにいたってはしばしばです。路線によって工事や新道の建設などで不定期に改正され、また路線の廃止もあります。山を歩かれる方は常に新しい時刻表を手に入れ、バスは前もって会社に問い合わせることをお勧めいたします。

新ハイキング関西代表 村田 智俊



克

鞍馬山の旧跡 「谷下し」

編本 逸雄

京都市左京区の鞍馬山では、近世、正月の初寅詣でや第二寅の日詣でに、土地の人が名産の燧石（火打石）を売ったが、その方法は崖の上から釜（番・草などで編んだ籠）を下し、客がこれに銭を入れると吊り上げて、燧石を釜に入れて再び下して販売した。釜は賈とも記し、「もっこ」とも呼ばれる運搬具のことである。

鞍馬寺の年中行事は竹伐り会式（6月）がよく知られるが、かつては「初寅詣で」も有名で、この緑日には洛中洛外の人たちは毘沙門天（鞍馬寺の本尊）に参る風習があり賑わった。狂言・毘沙門天にも「初寅でござるにやうて鞍馬へ参詣いたそうと存

ずる」とある。毘沙門天は七福神のひとつ。速水春曉著「大日本年中行事大全」（1832年）に「初寅」今日参詣して福徳を祈るに驗ある由縁を以て今日を緑日とす」とある。

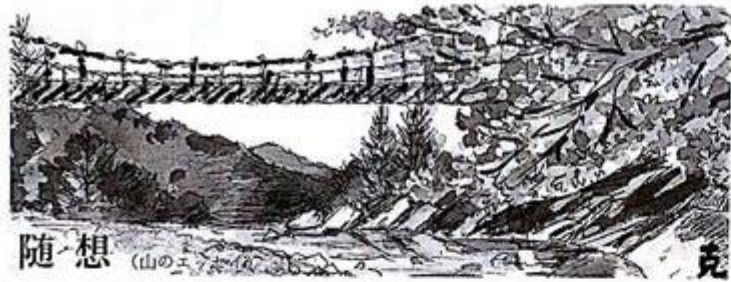
江戸前期の京都を中心とした年中行事解説書『日次記事』（黒川道裕著、1676年）によると「第二寅日に、鞍馬近郊の往還路辺の西山岸に、（土地の人が）小籠を高く構え、その内より、縄をつけて賈を路辺に下し、参詣男女に燧石を欲しがる者あれば、銭を賈に納めさせ、これを上げてその銭の多少に応じて燧石を入れて再びこれを下す。いわゆる賈下」という。その賈を操る者は鞍馬地出生の地下人（土着の人）にして、鬻髮を利（切り）し者父（代）して勤む。世に鞍馬坊主と稱す（中略）燧石はこの山の名産なり（原文は

漢文）とある。

ただし、初寅や二の寅詣でばかりでなく、地誌『京雀（3）』（浅井了意著、1665年）には「みぞろ池、いちほら（市原）など行て、ふごろしこそをかしき（風情がある）物なれ。はつとら二のとらなどにはばかりある事かと思へば、いっとも所のよし（縁）あるものにいへば、おろしてまうでの人にみせしむる也」と年中売っていた。

「谷下しは、俳句の季語にもなった。江戸前期の俳人で、蕉門の十哲の一人である宝井基角は、「花さかば告げよ尾上の釜おろし」と詠み、江戸後期の一茶も「引き下す釜の中より雀かな」と詠んでいるほどである。

初寅参りは室町時代に入り、民間信仰として盛んになり、毘沙門天は福を授ける七福神の一となる。室町後期の屏風絵「洛中洛外図」（谷野水徳筆・上杉本）には「ふこおろし」として紹介



克

随想

（山のエッセイ）

谷下し（京雀・五山より）



されており、この頃にはすでによく知られていた。絵図には鞍馬川の崖上の石置き小屋から、地下人が対岸の小屋へ二筋の縄を下し、燧石を参詣人2人が受け取ろうとしている。縄を結んだ武士である。後にやはり3人の武士が続く。前述の「京雀」や「都名所図会」（1780年、鞍馬寺の項）にも谷下しの挿図が載る。転じてその地の名もなっていた。

地誌「雅州府志」（1686年）には谷下しの場所を示した挿図がある。鞍馬街道は貴船口で貴船方面（貴船川沿い）と鞍馬方

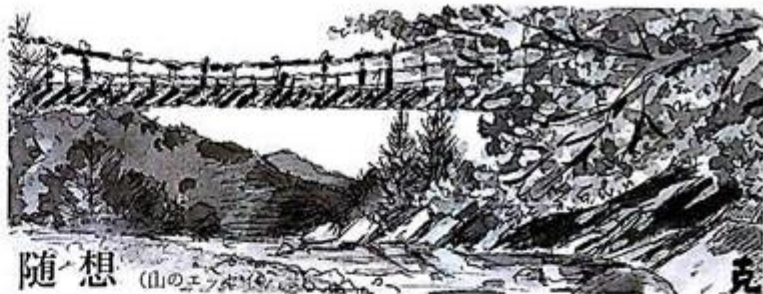
面（鞍馬川沿い）に分岐するが、鞍馬方面を少し北に上がった現鞍馬小学校あたりの西側の崖上に、「賈下」と記されている。『京雀要誌・下』（1895年）によると、「鐘降（ふこおろし）鬼一塚（一ノ瀬の北、貴船社）ノ鳥居傍ラノ権取社ヨリ半町バカリ北」北二町許に在り」（一町は約109町）という。

火打石は、鉄片と打ち合わせで火花を出し、火をつけた。古くから火打道具として利用され、石器時代には石器の材料となった。

石質は固いチャートが使われている。チャートはもともと、ガラスの欠片、という意味で、石英の微粒子がびっしりモザイク状に詰まっている。石英は二酸化珪素でできており、その正体は微生物の化石である。

この微生物の多くは放射線虫（放射線虫）という石質の殻を持つプランクトンである。つまり微生物の化石が無数に集まってチャートをつくっているのである。地学団体研究会京都支部編「新京都5億年の旅」によると、2億数千年前、赤道付近の海に生息していた放射線虫などのプランクトンが繰り返して大量に発生し、遺骸は海底に積もった。それが海底の岩盤（プレート）の動きによってベルトコンベアのように日本列島にくっつき丹波山地を形成した。火打石は、丹波山地がもと海底だったという列島形成の歴史を語る化石であり、東山・西山でも露出している。

谷下しは、江戸時代後期には、伏見稲荷の祭りで、高い柱の上から人を吊り下す余興となり、京都の地産では近年まで、福引の景品を一階から吊り下していた。



随想 (山のエッセイ)

若狭の山々 雲谷山と庄部谷山

山本 久雄

福井県美浜町、その心地よい響きをもつ町の近くに、雲谷山と庄部谷山が深い谷をはさんで双子のように、また仲良しの友達のように並び立って若狭の海を見ている。この二つの山は共に山頂が広い平長峰で、複雑に入り組んだ地形となり、そのため上部まで水流がある。北の山らしく大きなブナが多く、しつとりと潤いのある山となっている。

一方の雲谷山は庄部谷山より人里に近いせいでだろうか、登山道もいくつかあり人気は高いようだ。私より後から生まれ、急いで人生を送り、先に旅立ってしまった人に、かつてホールド、スタンスのとり方を教え、ロープをつなぎながら今古谷を通行し、裏見の滝で遊んだ思い出がある。雲谷山の名前を聞くとその人の顔を思い浮かべ、なつかしさがこみ上げてくる。

うな標高にあるようだ。屏風の流から主稜線までは急登となるが、道形はしつかりとついていて通る人も多いようだ。主稜線はブナの木が多く、とてもいい雰囲気をもたらし出していた。庄部谷山と同じように雲谷山にも清楚な夏エビネがあちこちに咲き、登りの苦勞を癒してくれた。ひととき大きなブナの木には熊の爪あとがくっきりと残っていて山の深さを教えてくれる。

降水確率90%の予報の中、幸運にも残りの10%に入り、以前はやぶの中だった山頂は切り開かれ、雲の切れ間から三方五湖が姿を見せてくれた。「あの日もきょうと同じような天気だった。下山の途中では同じようにちょっとだけ海が見えていたなあ。」

海の見える若狭の山は言葉にならないせつない思いが胸をよぎる大好きな山々である。

世界遺産の島

縄文杉周遊

屋久島は世界の自然遺産にも登録され、大勢の人が訪れる。世界遺産は日本にも何ヶ所があるが、自然遺産はことと白神山地の二ヶ所だけである。屋久島の自然遺産の目玉は、屋久杉と水で、巨大な杉は他に例を見ない。また、一月に35日雨が降るといわれる屋久島は、白谷雲水峽・花之江河を始め、千尋の滝・大川の滝等、数多くの名勝を持っている。

山も日本百名山(日本最南端)の宮之浦岳を始め、永田岳・黒味岳・モチヨム(本意)岳、一等三角点のある志戸子岳、天皇陛下のお孫さんと同じ名の愛子岳もある。

島で一番人気のあるのは縄文杉見学コースで、二回訪れていて縄文杉も見ているが、

生駒 聳 峰

屋久島

スで、百名山を目指す人には宮之浦岳登山だ。幸いなことに、宮之浦岳から縦走すれば縄文杉は見られるが、無人の小屋泊まりとなるので、本格的な装備がいる。もっとも縄文杉日帰りコースでも、往復9時間くらいの歩行が必要で、単なる観光というわけにはいかない。

島に渡る交通機関としては鹿児島から飛行機・高速船・フェリーといろいろあるが、登山や縄文杉見学ではフェリーが一番安く、時間的にも都合がよい。毎日一便が往復している。

私はすでに百名山と一等三角点の山行

縄文杉



今回は島が始めての妻と三たび訪れた。私の旅は細かい予定のない行き当たりばったりで、車泊ばかりで宿に泊まることとはない。フェリー代は高かったが、宿泊費や車のレンタル料を考えればまずまずだろう。

鹿児島港を朝8時45分に出港した船は、桜島や佐多岬・開聞岳を眺めながら、12時30分に宮之浦港に到着する。まだ観光シーズンではないので船客は少ない。外海も静かで、ゆっくりと船旅を楽しんだ。宮之浦港に到着すると、まず観光案内所で島の地図を手に入れる。この地図は島の名所が詳しく記載されている。

到着した午後、白谷雲水峽を訪ねる。宮之浦から林道を30分、雲水峽は大変高い所だ。すでに20台程の駐車場は満杯。定期的なバスも駐車していた。駐車は無料



紀元杉

1時間程で荒川ダムに到着した。もう18時に近い。空はまだ明るさを残しているが、すでに太陽は山陰に没している。2、3台の車と10人ばかりの若者の姿があった。私と同じ考えの人たちかと思っただらう。次々と車に乗り込み走り去っていった。細文杉から下山してひと休みしていたら、夕暮れが周りを包む。トイレは自動点灯するが全くの暗闇で、妻は怖がった。しかし夜半には満月に近い月が煌々と輝いていた。

翌朝5時過ぎに空が白んでくる。気温は10度。起き出しているともうライトを点けた車がやってきた。朝食をとり、登山準備をしている間に車は10数台になり、出発する6時には満杯になった。

木の上を歩く。枕木の間隔に歩幅を合わせる。歩きづらなところが多い。また足元から目が放せずひたすら下を向いたまま、付近の景色など見る暇がない。二、三度鉄橋を渡る。鉄橋には足場板が張られ歩行に危険はない。45分程で小杉谷の学校跡に出る。休憩舎には小杉谷の歴史が示されていた。さらに軌道が続く。軌道は急な傾斜もなく敷敷きの所もあり、枕木にも慣れて少し歩きやすくなった。白谷からの道を合わせ三代杉のあたりになると、伐採された杉の古株が周辺に埋まり、苔むして二代目の苗が茂り、林立していたときの壮大さがしのばれる。時代の違いとはいえ、伐採したことが本当に悔やまれる。

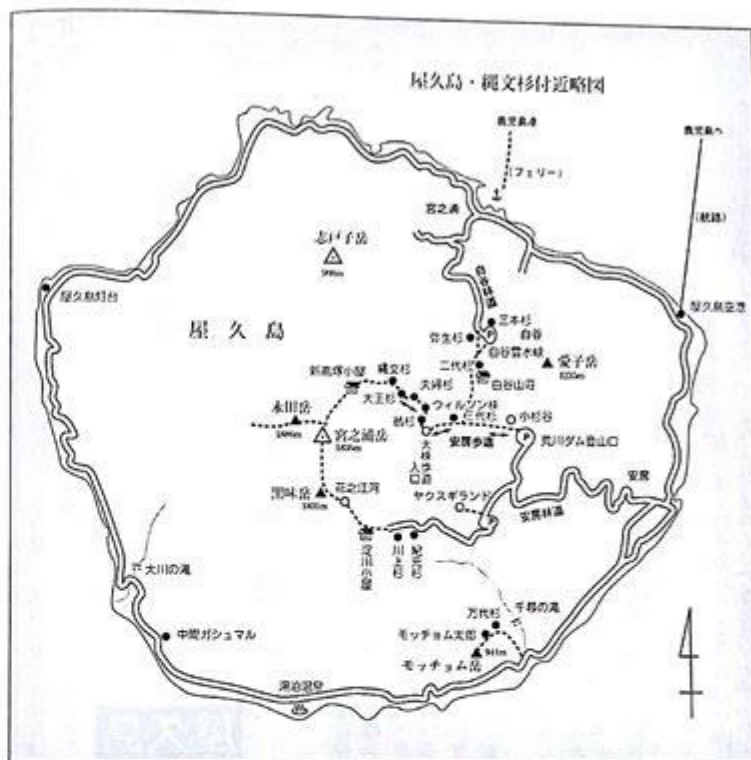
やがて大株歩道入口に着く。軌道の終点には立派なトイレが建設され、今年から使用できるようになっていた。全く汚水を流さない循環式のこのだが、荒川口からここまでトイレはない。

ここから登山道に入る。道は各所に木製の階段や棧橋が設置され、森のなかに遊歩道が整備されている。しかし、縄文杉まではけっこう登りがあり、宮之浦岳を三分の一くらいは登ったことになるだ

ろう。翁杉を通り、先ずウィルソン株に到着する。巨大な古株で、内部は八畳敷くらいもあり、小さな祠と清水が流れていた。もし生きていたら縄文杉より大きく、屋久島一番の大ききだろう、残念なことである。

夫婦杉、大王杉を過ぎる。夫婦杉の大きさは横に繋がり、どちらの樹から生えたのかわからない。夫婦杉とはうまく名付けたものだ。やがて腰望台が見えると縄文杉到着である。以前はその樹肌に触れることもできたが、今は欄で遮られ縁台からの見学である。私は二回目だが、見れば見るほど巨大で、まるで一つの建造物だ。これが一本の樹木とは考えられない。言葉ではうまく表現できない。やはり百聞は一見にしかずで、見てもらうほかはない。縁台は杉から10層程離れているが、カメラにはその全体像が収まらない。縁台に坐り、ゆっくりと眺めながら早目の昼食をとる。眺めれば眺めるほどその巨大さが迫ってくる。ここまで来た人の特徴と言っべきだろう。

宮之浦岳登山の人たちも下山してくる。新高塚小屋には20人程が泊まっていたそう。下山にかかるにつれて人が登って



だが、溪谷に入るには300円が必要。雲水峽には溪谷と屋久杉を巡る周遊路と、白谷山荘から縄文杉・宮之浦岳の登山路が通じている。

1時間程の周遊をする。溪谷を沿々と流れ落ちる水はあくまでも白く透き通り、留まることがない。数人の客を案内していたツアーガイドは、この水でコーヒールを立てて、客をもてなすと言う。この景観と相まってさぞうまいだろう。二代杉から引き返し弥生杉を見る。島に来て初めて見る巨木である。その後もたくさん屋久杉を見たが、杉は杉でも屋久杉は、本州の杉とは種類が進うのではないかと思う。

先刻のツアーガイドが「縄文杉への荒川ダム登山口は駐車場が狭く、朝の6時頃には車で満杯になる。行くなら早く行ったほうがよいですよ。私たちもあす早く行きます」と言う。こちらはどうせ車泊なので、それなら登山口で泊まろうと車を走らせる。宮之浦から安房を通り林道に入る。夕刻も近いので下山する車はあっても登る車はない。この林道も整備されているが、まだ車の対向できない狭い所も多い。

12月・年末年始の海外ツアー お申込はお早め!!

初心者のためのニューゼaland 南島・北島周遊ハイキング 10日間

南島ではミルフォードトラックの白樺コースを、北島ではトンガリ口国立公園を訪れます。

出発日 12月1日(月)~10日(水)
代金 438,000円

憧れのミルフォードトラック ハイキング 9日間

世界一美しいといわれるミルフォードのトレッキングコースを3泊4日かけて歩きます。

出発日 12月2日(火)~10日(水)
代金 433,000円

ゆったりキリマンジャロ登山と ンゴロンゴ自然保護区サファリ13日間

キリマンジャロを登頂し、タンザニアを代表する世界遺産のンゴロンゴで十分にサファリを楽しみます。

出発日 12月2日(火)~14日(日)
代金 588,000円

ミルフォードトラックと マウントクックハイキング 12日間

ミルフォードトラックと白銀のマウントクックを即見ながらのトレッキングを楽しみます。

出発日 12月5日(金)~16日(火)
代金 478,000円

ロッジ泊で歩く ブーンヒルトレッキング 9日間

アンナプルナ・ダウラギリ山群の素晴らしいVナラマを見ながら歩きます!

出発日 12月27日(出)~1月4日(日)
代金 373,000円

ランタン谷 ヘリトレッキング 9日間

ヘリコプターを使って一気に、「世界で最も美しい谷」と言われるランタン谷へ。

出発日 12月27日(出)~1月4日(日)
代金 438,000円

パプアニューギニア最高峰 ウィルヘルム山登山 9日間

パプアニューギニア最高峰ウィルヘルム山(4509m)を目指します。

出発日 12月27日(出)~1月4日(日)
代金 408,000円

雲南省 少数民族の里 麗江と大理 5日間

奇峰の連なる風景で有名な桂林へ、冬でも暖かくコートも必要になる日はめったにありません。

出発日 12月30日(出)~1月3日(出)
代金 185,000円

詳しい資料も
取り揃えております!
お問い合わせください。

低酸素室設置!

大阪支店オフィス内
高山病はこれで解決!

「低酸素室」とは、人工的に高所環境をつくり、高度障害に耐性することを目的とする装置です。設定高度も3000m~4000mに調整することができます。山岳会やグループでの高所登山を計画されている方もお気軽にお問い合わせください!

●利用料(1回1時間)
メンバー 1,000円
非メンバー 2,000円

2003.11~2004.04 **新海外カタログ 完成**

中南米 ネパール
ニュージーランド

上記カタログご請求ください!

お問い合わせは... 山旅専門旅行会社
アミューストラベル株式会社 国土交通大臣登録旅行業第1368号
日本旅行業協会正会員 ボンド保証会員
〒530-0001 大阪市北区梅田1-11-4 大阪駅前第4ビル7階
ホームページ http://www.amuse-travel.co.jp
E-mail: amuse@amuse-travel.co.jp
06-6456-3366 FAX 06-6456-3377

来る。若い人が多いが、観光のつもりでは少しづらい。早い人でも到着まで4時間は必要である。

下りに軌道敷を歩いていると、汽笛の音がして気動車が走って来た。この森林軌道は、とくに廃線だと思っていいたら現役だった。後で聞くと、新しく出来たトイレの管理のために走っているとのことだった。登山口に降り着くと車が溢れていた。まだシーズンに入っていないのだが、これでは駐車も大変だ。

屋久島では縄文杉・宮之浦岳・白谷雲水峽を案内するツアーがインターネットにも登場するが、バス便もあり人も多く、コースはどこもよく整備されているので、個人で参加しても何の心配もいらない。

通常、縄文杉コースは往復10時間くらいとみられているが、その時間に合わせ定期バスが走っている。宮之浦を朝の5時頃出発し、荒川ダム登山口には6時頃到着する。夕方も帰り便がある。

下山後、淀川小屋方面に車を走らせる。ヤクスギランドは手軽に屋久杉を味わえる。さらにその先に紀元杉があるが、狭い林道に大型の観光バスが入り、大勢の観光客がいて驚いた。歩かないで見られ

る唯一の巨大だろう。この紀元杉周辺には、高さが10階建てのビル程もある大杉が林立し、ドライブだけでも十分に屋久杉を見ることが出来る。淀川小屋口の狭い駐車場にも、10台程の車が止まっていた。

宮之浦岳登山では、淀川小屋の登山口下の紀元杉までバス便があり、15時頃に到着する。たぶん、鹿島からフェリー便と連絡しているのだろう。登山口は狭くてバスは回転・駐車もできないので紀元杉止まりと思われる。紀元杉からならゆっくり歩いて、1時間程で淀川小屋に到着できる。そうすれば翌日は宮之浦岳を登頂して、高塚小屋泊まり。さらに縄文杉を見て白谷雲水峽や荒川ダムに下山することになる。けっこう登山者のためにバス便が運行されている。また宮之浦岳なら10時間余りで往復できる。民宿にでも泊まり、レンタカーを利用すれば、少し強行軍だが日帰りも可能である。

縄文杉も宮之浦岳も、駐車している車はレンタカーばかり。運転できる人はレンタカーを使用したほうが何かと便利である。島には何軒もレンタカー屋があり、軽自動車なら1日5000円未満で借り

られる。タクシーやツアーを頼むより安くても自由に活用できる。

その後モッチョム岳に登ったり、島を一周して滝や温泉を訪ねた。屋久島は先年のNHKドラマ「まんてん」のふるさととして、撮影地点が新たな観光名所として売り出していた。

屋久島の観光地図には、名称のある屋久杉が記載されているが、縄文杉のほか今回は左記の杉を見ることができた。

- (1) 二大杉 (白谷雲水峽)
- (2) 弥生杉 (白谷雲水峽)
- (3) 三代杉 (縄文杉コース)
- (4) 翁杉 (縄文杉コース)
- (5) ウイルソン株 (縄文杉コース)
- (6) 夫婦杉 (縄文杉コース)
- (7) 大王杉 (縄文杉コース)
- (8) 紀元杉 (安房林道)
- (9) 川上杉 (安房林道上)
- (10) 万代杉 (モッチョム岳)
- (11) モッチョム太郎 (モッチョム岳)

△問い合わせ先▽
屋久島観光協会(宮之浦案内所)
☎09974(2) 1019
(平成15年4月歩)

海と京を結ぶ鯖街道を歩く

上根来から百里ヶ岳

木村 太郎

若狭

海のない京の町へ若狭湾で捕れた魚介類を運んだ、鯖街道(鯖の道)と呼ばれてきた道がある。若狭を発つと「京は遠ても十八里」と数えられ、飛脚で一塩した鯖が京の食卓にのるころ、ほどよい塩加減になる道程にあった。鯖街道で運ばれてきた塩鯖をしめて、京の町屋では祭りの時などに鯖ずしが御馳走としてつくられた。

祇園祭の山鉦巡行の日に、紫陽花に埋まる花折峠を越え、道の駅「くつき木陣前」を過ぎ、若狭「熊川宿」を抜け、JR東小浜駅前から上根来へ向かう。幾通りか伝えられている鯖街道のなかで、小浜と京とを最短で結ぶ根来坂峠の道と、

上根来鯖街道入口



若狭の母なる百里ヶ岳(931m)を歩くために私は車を走らせてきたのだ。百里ヶ岳を源にする遠敷川沿いフォレスト・ロードには、「海のある奈良」の別称にふさわしい小浜の史跡が立ち並ぶ。若狭国分寺跡、若狭彦神社、若狭姫神社、若狭神宮寺をやり過ごし、白石神社そばの鶴の瀬公園を散策がてら運転の疲れをとった。

春を呼ぶ奈良東大寺二月堂のお水取り修二会に、香水を送り出すお水送りの舞台下根来白石にある鶴の瀬の水源は、百里ヶ岳の森林が生み出しているといえる。

鶴の瀬河原のしぶきに濡れる岩頭は、

源の森へさかのぼる山間の道に車を進める。木地山峠から百里ヶ岳への登山口、上根来の集落まで来てみると人影が見えない。古びた萱葺きの民家は崩れ落ちそう、住居者のいない廃屋ばかりが目についた。

遠敷谷の奥まった高地集落をさらに上りつめた平地に立つ畜産団地の牛舎は、屋根も錆び鉄骨がむきだし、廃墟と化していた。地形的にも耕地面積は広くなく、生活がきびしく住人の過疎が進んでいるのだろう。団地前の広場に車を置き、葉を聞いた合歡の木に薄紅色の花が見える

林道を行くと、鯖街道入口と書いた魚を形どった道標を見つけた。

林道には「行き止まりあり」の看板が立つが、間もなく小入谷まで貫通する見通しで、若狭街道の梅ノ木へ抜ける日も近い。林道と分かれて待望の山道に取りつく。林野庁から「水源の森百選」に選ばれた森の道には、川の水音が聞こえ、冷んやりした空気が流れている。

薄暗い植林帯の道が明るい自然林に変わると、広葉樹林に薄日が差しこんできた。ただ寡黙に立ちつくしていた木々たちが、光をあびて饒舌になっていくような気がする。



稜線に近づいて木々がそよぎ始めたせいなのか、私の気分が弾んできて木の話が聞こえ出した感じが、いかもしれない。神々の依代であったという大きなゴザ岩を過ぎ、足下に木立

がひろがる斜面につけられた細い道を抜ける。いったん離れた林道がふたたび近づき山道と合流する。振り返れば梅雨晴れの空に、役の行者が若狭の修験道場にしたという多田ヶ岳が眺められた。

林道をまたいで魚の形をした道標を見てふたたび山道に入り、弘法大師が掘られたという古井戸を発見。長年旅人に安らぎをあたえてきた池ノ地蔵がまつられている。数え切れない人々の往来で深くえぐれた道は、長雨のために落ち葉が腐葉土と化して歩きづらかった。

林道奥側からの登山道と合い、大谷をへだてた木の間越しに百里ヶ岳が見え隠れしてくる。緑色が濃く、山は青い森に包まれているようで、下界で汚された私の肺機能もよみがえる気分がしてきた。峠ノ地蔵がまつられている根来坂峠にやっとたどり着いたのは、14時に近かった。実はこの日、登山口へ10時頃に着くはずだったが、名神道の事故による大渋滞で吹田から京都を抜けるのに手間どってしまった。中国道から若狭道への西小浜廻りにすればよかったと悔やみながら、12時直前に登り始めることになった。峠には、大乗妙興一石一字と読める古



青菜のなかの根来坂峠

道の証明でもある寛政期の石碑が立っている。その石碑よりなお古い時代から生きてきたブナの大樹に向き合い、ここで遅い昼食をとる。去年の晩秋この峠上で葉を落とした樹木の透き間から雪をかぶって白い森に変貌した百里ヶ岳を眺めたことが思い出された。

その時は途中から雪を敷いた林道奥側まで車で入り、根来坂峠から百里ヶ岳へは1時間そこそこで登頂できた。その時の百里ヶ岳の白い頂は写真に撮ったが、1等三角点の標石をコンロ台にしていた

先客があり、三角点を写してこなかった。いうなれば今回、忘れものを取りにきた山行だったが、突然に山頂へ登るのをあきらめる心境になってきたのだ。
百里ヶ岳再登頂は、別の機会に小入谷から針畑峠(根来坂)越えて歩く時のために残しておこうと考えた。歩いたついでに鯖街道起点の若狭の海を見てみたいという、心変わりの気持ちで峠のブナの大樹に話しかけてみた。出立をうながすブナの声に決心して、御食園若狭の象徴でもある海を見るため、峠を背に足早に引き返した。

カーナビに道案内させて、青い海にいだかれた「人魚の浜」へ車を急がせた。マーマイドテラスの人魚像にも、翼のテラスの白鳥像にも陽が輝き、夕陽に彩られるまでには十分に時間があるようだった。人魚の浜の対岸には久須夜ヶ岳がそびえていたが、陸側に振り向いても「万葉集」の後瀬山にふさがれて多田ヶ岳は見えなかった。

海水浴の少年らを眺め、熱せられた砂浜を歩いてみた。海の家白い車を囲み談笑している水着の娘さんが目にまぶしい。なつかしい海の風景と潮の香りに満

たされてのち、青井崎の小浜公園へ足を向ける。緑におおわれた公園で、福井県遠敷郡竹原村(現小浜市)に生まれて夭逝した、「明星」の歌人山川登美子の歌碑にめぐり合った。

髪ながき少女と生まれしる百合に
額は伏せつつ君をこそ思へ

この歌は、与謝野晶子・増田雅子との共著「恋衣」の「しろ百合」の章の巻頭を飾った登美子の名歌である。与謝野鉄幹の創立した東京新詩社の機関誌「明星」第二号に、登美子が登場したのは、明治33年5月で彼女が20歳の時である。

鳥籠をしづ枝にかけて永き日を
桃の花かずかぞへてぞ見る

大阪のミッション・スクール梅花女学院に学ぶため若狭を離れた登美子は、「明星」に登場してまもなく結婚した。だが夫が結核で病没、その時に夫への挽歌を詠んでいる。夫と死別後、東京女子大学に入学したが、自身も発病した。京都で病臥中に故郷の父が重態となり、雪の降るなかを帰郷する。

頼るべき父を亡くした登美子は、「父君の喪にこもりて」の詞書をした挽歌を「明星」に載せて一年後、明治42年4月

15日に若狭で眠りにつく。よりどころの「明星」誌が百号で終刊したのを見届け、登美子自身も消滅した。師鉄幹は登美子の死に、「君なきか若狭の登美子しら玉のあたりに君さへ砕けはつるか」と歌を献じた。

後世は猶今生(なほいま)にも願はざる
わがふところ(わがふるところ)にさくら来て散る
晩年の登美子は、自身への挽歌を綴る



小浜公園の山川登美子歌碑

ように歌を詠み続けていた。夫をおくり、父をおくり、そのちは自らをおくるがための歌づくりであった。「世々の歌びと」を著した折口信夫は、「女流短歌史」の文中に、登美子にふれて「寿命もいますし長かつたらと惜しまれる」と評価した。そして、とくに京の町を背景にした登美子の「しら玉」の歌を賞讃している。

しら玉の数珠屋町とはいづかたぞ

中京こえて人に問はまし

高野川と賀茂川とが合流する出町柳に近い今出川通り寺町交差点角に、鯖街道終点になる大原口(大原ノ辻)の道標が立つ。そのあたり平安京の京極大路を歩く登美子が、上京から中京をこえ下京の数珠屋町を訪ねて行くというだけの歌だが、「しら玉」の数珠をもとめて歩く登美子の姿に、神仏への折りを感じた折口信夫は琴線(ことづな)を揺り動かされたのであろう。京都から若狭への登美子の最後の旅は、おそらく鯖街道を自らの足で往くことはできなかったはずだ。琵琶湖西岸を北上し敦賀から若狭湾沿いに、雪に吹かれる列車内で細い体をふるわせながら帰郷したのだろうか。

登美子の遺品の小ノートには、「好きなもの」や「つくってみたい料理」のページがあり、「寿し」「伊勢及び」「鯛の子」などが挙げられている。清少納言の「枕草子」風の海の幸の列挙に、やはり登美子の婦人ゆく所は若狭の海だったという思いがする。

幾ひろの波は帆を越す雲に笑み
北国人とうたはれにけり

小浜公園の青井川にかかる佐久良橋を渡り、展望台のある「星の広場」へ上る途中にも、もう一つの登美子の歌碑が立つ。哀しみ色の北国の海に、次々に小波が寄せてくる。あの「明星」を光らせた山川登美子の航跡を曳いた美しいさざなみが……。(平成15年7月17日歩く)

△コースタイム▽

番産団地広場(10分) 登山口(1時間)
林道出合(10分) 古井戸(40分) 根来坂峠(1時間) 登山口(10分) 番産団地
(平成14年11月29日) 林道奥側登山口
(25分) 根来坂峠(1時間) 百里ヶ岳
(50分) 根来坂峠(15分) 林道奥側登山口

△地形図▽2万5千1古屋

白馬山と龍門山

北紀

中島 仁志

て30分の有田オレンジY日に泊まった。

白馬山

白馬山(957呎)は「白馬山脈」の中央部に位置し、最高峰の護摩壇山より400呎も低いのに山城の代表たる名を冠せられている。また千年のうちに訪れたかった山でもあった。

湯浅駅から早朝の列車で御坊駅に行き、ロッカーに余分な荷を入れ、予定通り福井行きバスで登山口の鳥原に到着。

広い県道194号線を日高川に沿って東に進んで奥皆瀬集落を過ぎ、道なりに歩いて行くと、「新桂木トンネル」に出ってしまった。ガイドブックには「桂木ト



白馬山山頂

ンネル」の手前から左に入ると書かれていますが、そのような道は全くない。ともかくトンネルを抜け、先の集落での頼りない情報に従い、テープにそって家の間を抜け、杉林の作業道のような所をジグザグに登って行く。少し離れた杉の木の下で、何とイノシシがわなにかかって声を上げていた。気持ちのよいものでないで早々にその場を去り、現地点が確認

私の住んでいる関東と比較して、西日本の山は概して標高が低く雪が少ないから、青春18きっぷの時期に夜行快速列車を利用すれば交通費も安価で都合がよい。この年末は関西でもなじみの薄い和歌山県の山を訪れようと考え、白馬山と龍門山を選んだ。いずれの山も1000呎に満たないが、この時期ならば手頃な日帰り山行が楽しめると思った。

夜行列車のアプローチでは初日から和歌山の山に入るのは無理なので、岐阜城のある金華山(稲葉山・標高329呎)に寄った。山は前夜の雪化粧で、曇天の下に濃尾平野や長良川を見下ろした。

この日はJR紀勢本線湯浅駅から歩いて

できないまま道跡を探って椎茸の栽培地で薪が積まれた場所に出た。左にゆるく上がる道跡があるのでそれをたどって行くと、舗装路に出た。少し左にくだった所にやや明瞭な道跡が上がっているのだからと観音堂に着き、ほっとした。

お堂の左側を巻き気味に登り、未舗装の林道を横切って反対側の斜面の踏み跡を行くと、しばらくして尾根を乗り越して道跡はずっと明瞭になり、尾根を廻るように進む。標高578呎ピークの北を捲きながらゆっくりと高度を上げる。いつの間にか雲が空をおおっていた。鉄砲を持った人が1人降りてきて、この先のコースを聞いたのでひと安心。ジグザグに登って尾根を乗り越してから、左側を

捲いて再度尾根に出ると、道に雪がかぶるようになってきた。その先は立派な杉林で、尾根の右を捲いて尾根に出た所に、目立たない小さな石標があり、「左川原みち、右高野みち」とかすかに読める。高野辻である。

ここから右コースへ新雪のなかを進む。林から抜けると尾根上の伐採地で、幸いにも天候も好転して少し登ったあたりで展望が開けた。正面に待望の白馬山方面のカヤのスロープが現れ、その山腹には林道が横切っている。反対の両方に立つ、あまり高くないが形のよい山が矢筈岳。この展望ピークはゆったりと細長く、東側にくだと林道で工事用車両が入っていた。林道を5分ほど行くと左手に「白



白馬山付近略図

馬山登山口」と平成13年建立の大きな石碑があり、この日初めて見た明白な道標でもあった。

登路はそこから左に入り、やや急な斜面を登る。左側は緑の杉林で雪

が積もり、右は狐色のカヤと対照的。急登をどうにかしので道形を探りながら新雪のなかを進む。ルートは尾根左側の杉林のなかに廻り気味につけられ、ジリジリ登ると東の肩との鞍部らしい地点に出て、紅白のテープがあった。そのまま左に折れ稜線を進むこと5分ほどでブナの巨木も混じるようになって感じがよい。ゆっくり登りつめた所が白馬山山頂で、山名を示す板と櫓、その真ん中雪のなかに少し頭を出した三角点がある。周囲は木に囲まれて全く遠望はない。北面への道標はあるが、道跡はなく全くの雪のなか。ともあれここで遅い昼食とした。

下山は往路をとった。雪道の下りははかどり、20分ほどで「登山口」の林道に降り立つ。車でここまで入れば往復1時間とわかると少し嫌ではあるが、昔からの道をじっくりたどってきた満足感もある。展望ピークで周囲の景色を再度楽しみ、あとは来た道をどんどんくだる。往路では望めなかった白馬山が時々木の間に越しに見られた。観音堂に戻って社に手を合わせたと、すぐ下の林道に出た。その舗装路を右にたどってガイドブックにある桂木トンネル付近の分岐に出て、

そこにある地蔵を確認する。さらに進み今朝の広い車道に出て、この日の誤りがわかった。

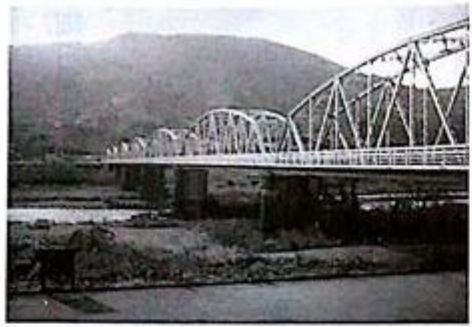
以前はここで車道が廻り気味に細くなっていたのだが、新しい広い道がそのままのびて新桂木トンネルで尾根の向こうに突き抜け、私はそれをくぐり抜けて全く情報のない反対側に出てしまったのがこの日の苦戦の原因であった。しかも先の分岐には「わなを仕掛けたので注意」の看板があり、杉林の斜面をめぐらめつぽうに登っていたら、私がわなを踏んだおそれもあったかとほっとする。ここは明瞭な道標が欲しい所だが、すでに林道を車で奥深く入るようになった今日、今回のように山麓から歩く人も少なくなり、用がないのだろうか。

ゆっくりと往路の広い国道をくだり、鳥原でバス待ちしながら地酒で無事山行を祝った。

御坊駅に戻り、この日は紀伊田辺駅から歩いて約15分の扇ヶ浜YHに泊まった。

龍門山

冬の山旅は、早朝出発が暗くて寒い時



紀ノ川を隔てて龍門山

酒で身体を温め、簡単な朝食を終えた。山頂付近は松が囲み、広い原は好ましい雰囲気である。

下山路は正面コースをとった。西に少しくだった広地から右に折れ、北に向かってくた。最初はササの間のゆっくりした下りだが、だんだん傾斜を増す。10分ほどで右に明神岩・風穴1分分岐がある。明神岩は大きな露岩の展望台であるが、ここから見上げる龍門山の姿はさ

間になるのが難だが、この日も6時過ぎにYHを出る。実はこの山旅、当初はこの日に白馬山を訪れる予定で紀伊田辺に泊まったのだが、予定変更で前日に白馬山を歩いてこの日を龍門山にしたのであった。標高は756mと低いのが、紀ノ川の南に立ち、紀州富士の異名がある。列車が進むにつれて少しずつ明るくなるが、残念ながら曇り空。和歌山駅で乗り換え、ほぼ9時に粉河駅に着いた。

南に龍門山がゆったりと立ち、紀ノ川西側の山並も少し重めの雲の下だ。まずは荷物の半分をロッカーに入れ、山に向かう。紀ノ川を渡って道なりに住宅地を抜け、果樹園の間の舗装路を登って行く。けっこう傾斜があるが、最初の目安である一本松跡までは農作業の道となる簡易舗装路で高度を上げ、最上部の家あたりで田代コースと正面コースの分岐を見た。田代峠へは、前半は淡々と高度を上げ、下が少し湿った所を登っていくと20分ほどで小さなお堂がある。その少し先から斜面の左側を廻るように入る。杉の植林帯や少しへつるような所を過ぎて雑木林

えない。下り道は明瞭だ。溝状の所を通り、山腹を平行に廻る車道に出て、東にたどると程なく田代コースとの分岐に達した。あとは往路をくだるだけだがけっこう傾斜があり、住宅地に出たときはほっとした。

時間が中途半端なので、龍門山温泉に立ち寄った。茶褐色の塩分のある湯で、平日の午後だから浴槽等は私の独占で、温泉気分を味わう。汗を流してさっぱりしたのはよいが、駅までの帰り道で寒風に遭い、列車に辛うじて逃げ込んだ。

吉野口駅を過ぎたあたりから少しずつ青空が広がりました。奈良盆地に入ればかつて歩いた大和葛城山・金剛山・龍門岳などのシルエットも望めた。奈良駅に着いたときには薄暗くなって来た。猿沢ノ池まで歩き、池を廻ると、ちょうど興福寺五重塔に光が当てられ、美しい。

あとは京都駅経由で大垣駅に戻り、「ムーンライトながら」に乗り、帰京の途についた。

(平成14年12月12〜13日歩く)

A参考タイム(白馬山から) V
JR湯浅駅6・50(電車)御坊駅7・08



に変わると稜線は低く、わずかに風花の舞うのを感じるうち、左に廻っていた道が右に折れるとすぐ先のカヤトが田代峠だった。峠は十字路になっているが、東に稜線をたどる飯盛山方面の道はヤブ道との表示であった。

龍門山へは西に好ましい雑木林のなかを行く。前方に形のよいピークが見える頃に風花の量が増えてきた。積雪はないが寒く、紀ノ川対岸の山並の姿も隠れていく。少し急な登りで磁石岩に出ると、その先はゆるい稜線でササが多く、また傾斜が出てすぐに明るく開けた三角点に出た。好天ならば気持ちのよい展望台も、粉雪が舞うのでは寒くてたまらない。発

- 57 (バス) 鳥原8・45 | 観音堂10・15
- 20 | 高野辻11・40 | 林道12・05 | 白馬山12・40 | 55 | 観音堂14・30 | 35 | 鳥原15・20 | 16・00 (バス) 御坊駅16・50 | 17・24 (電車) 紀伊田辺駅18・06 (泊)
- 紀伊田辺駅6・33 (電車) 和歌山駅8・09 | 19 (電車) 粉河駅8・58 | 分岐10・05 | 10 | 田代峠11・05 | 10 | 龍門山11・40 | 12・00 | 車道12・30 | 分岐12・55 | 龍門山温泉13・15 | 14・00 | 粉河駅14・20 | 26 (電車) 高田駅16・06 | 09 (電車) 奈良駅16・56 (散策後京都駅経由・電車) 大垣駅23・09 (電車) 東京駅4・42
- △費用(東京起点) V
- 青春18きっぷ(3日分) 6900円
- 湯浅駅(JR)御坊駅 290円
- 御坊駅(JR)紀伊田辺駅 740円
- 御坊駅(御坊南海バス)鳥原往復 2800円
- 有田オレンジYH(1泊1食)4100円
- 扇ヶ浜YH(宿泊のみ) 2300円
- YHは会員料金、会員外は1000円増)
- 龍門山温泉入浴料 840円
- △地形図 V
- 2万5千川原河・寒河・金屋・龍門山

細川越はやはり峠なのか

細川から細川越へ

比良

小山誠次

細川越は武奈ヶ岳から釣瓶岳に向かう主稜線の鞍部に位置している。さらに、細川越は東側にスゲ原を経て広谷やイブルキのコバにも通じている。

従来、細川越はその「越」という名称にもかかわらず、スゲ原から細川越を越えて西側に向かう道がないので、その名称の不合理性が指摘されてきた。実際、細川越のすぐ西側は急峻な八幡谷の源流であり、ここを通行することは、通常の山道としては不可能だからである。

しかし、突きつめて考えるに、ではない。細川と細川越とを結ぶ山道は存在しないのであろうか。もちろん、細川から武奈ヶ岳北西稜上のピーク706峰を経

て、武奈ヶ岳北面直下で縦走路に出合い、北稜をくだるルートは問題外とする。

実は今回、本タイトルの登行を計画した背景には、角倉太郎著『比良連嶺』（昭和十六年再版）の「武奈ヶ岳への登路は地図の点線路通りに部落から右岸（筆者注・八幡谷右岸）に沿って登る。洪水で道の一部が破損しているが判りやすい。道は間もなく谷と離れてカヤバのような所を通過し、一時間許で、ツルベガ岳（筆者注・釣瓶岳）から細川に向う支脊の上へ出る。支脊には石楠花が多い。やがて急坂のジグザグとなり、それを過ぎるとすぐ峠である。……八幡谷は山上の拠点たる望武小屋と人家（同時に自動車など



(図1) 新版『近畿の山と谷』より



細川から細川越
付近略図



(図2) 昭文社「比良山系」(1989年)より
地図使用承認©昭文社第03W006号

先の比良山系図にも、昭文社の「比良山系」(1989年版)(図2)にも、このコースでは対岸に渡る道筋は記述されていない。しかしながら、通

経由しているからである。6月29日、梅雨の合間をぬって出かけた。出町柳発朽木村行き(かいい)の京都バスは、増便のため定刻の7時45分を5分遅れで発車した。坊村で筆者以外のすべての乗客が降りてしまい、先行のバスに乗り移るように声を掛けられた。葛川梅の木で

は3人が降りた。三舞谷道を目指すのであろうか。そしてバスは定刻より6分遅れの9時、細川に到着した。降りてみれば霧雨が降っている。本日の降水確率は午前、午後共に10割だったのに……。帰宅後妻に聞けば、この日の京都市内は晴天で時々薄曇りだったとのこと。

さて、細川バス停から武奈ヶ岳北西稜に向かう道を見ても、八幡谷右岸を通行する。河川工事の現場を右手に眺めつつ通り過ぎると、やがて大きな堰堤にぶつかった。おもしろいことに、この付近はタケニグサがよく繁茂しているのが印象深かった。堰堤を捲くと、再び右岸に小道が続いている。そのまま歩いて10分後、突然道は途絶えてしまった。バス停からまだ20分しか歩いていないのに、もう最初の悪場に遭遇した。少々早すぎる。左手はザレ場の崩落跡で、そこそこの崖状となっている。

行できそうな感じがした。ここで思い切っ
て左岸に渡り、道を探したところ、道ら
しき踏み跡を見つけたので、それをたどっ
た。やれやれ、最初から難路を予感させ
る。

10分程歩くと、今度は垂直に切り立っ
た岩場が左岸の水際まで迫り、道が無く
なっている。再渡渉を考えていたところ、
ちょうど左岸とやうな流の右岸に青いテー
プが木に括りつけられているのを発見し
た。やれやれ、先に渡渉したのは正解だっ
たかとひと安心した。

水に濡れないよう、注意して岩伝いに
渡っていたところ、滑って両下腿下部ま
で水に浸かり、徒渉となってしまった。
このとき、ロングスパッツの中に蛭が侵
入したのか、帰宅後確認したら、両下腿
に六ヶ所吸い口が見つかった。おかげで
靴下は血だらけになってしまっていた。

再び右岸に渡ったが、ここは比較的ま
しなザレ場だったので、そのまます
ぐに頭上を目指した。実は、先の再渡渉
地点からここまでは青いテープでマーク
されていた。そして登り切った所で、よ
うやく谷と平行に走る古そうな、しっか
りした山道に出合った。

しかし、この道は八幡谷の下流方向に
もずっと続いている。そこで、コース上
は逆になるが、少し戻ってこの道をたど
って確認したところ、どうも最初の渡渉地
点では、もともと左手の山腹をトラバ
スしながら登る道があったようで、おそ
らくそれに繋がっていたものと判断でき
た。昭文社の1989年版の地図で、最初に
大きくカーブしているように点線路が描
かれているのはこの箇所なのかもしれな
い。

先のしっかりした古道に登りついた箇
所から少し先は、杉の植林地帯となっ
ている。なお、テープ類はそれ以後全く目
にしなくなるので、青いテープは仕事用
の目印なのかもしれない。この道はやが
て八幡谷沿いのユリ道となるが、10分程
たどると谷と出合っただけは全く途絶えて
しまった。

ただし、今度は明らかに大きな崩落跡
があり、これによる破壊であることは明
白である。高度計は標高5300位を指
している。おそらく、(図2)で点線路
が途絶えているのはこの地点であろう。
さて、どうするか、対岸に渡るかどう
か検討するが、先の二種類の地図を参照

しても、このあたりからはむしろ、この
支脊の尾根筋に近づくコースが本来的だ
と思われたので、このザレ場の崩落跡に
取りつくこととした。

崩落しやすい地形だから崩落したので
あり、梅雨時期という水気を充分に含ん
だザレ場を登るといことは、後で考え
れば非常に危険な行動だった。実際、軟
弱な地盤の上で、重いリュックザックを
背負いながらの体重移動の困難さに加え、
霧雨で濡れた樹幹は滑り止め付きの手袋
でも把持できず、今思ってもヒヤッと戦
慄を覚えることがあった。幸いにも事故
はなかったが、単独行のときはもっと注



本コースの縦走路との出合

意する必要がある。いったん道を戻って
も、大きく高捲いたほうがはるかに安全
である。向後の反省材料となった。

なんとか登り切って、溜木帯の自然林
を過ぎると、広い急坂に再び杉の植林地
帯が出現した。地形的には支脊の中央部
が植林地、谷沿いのほうが自然林という
植生である。ただし、道は見当たらない
ので、尾根上をジグザグに進みながらも、
ユリ道を期待して谷沿いに寄って行っ
た。

一見道らしいように思えた箇所も、や
はり崩落して完全に破壊されている。そ
こで、道をたどることを全面的に諦め、
正しく尾根の中央部を目指すことにし
た。

そして、出発から2時間後、地図上の
ピーク7130位と思われる地点に到達し
た。筆者の不確かな高度計も、細川バス
停で標高2600位に合わせ、気象条件は
同じ霧雨というなかで、7200位を指し
ている。これはほぼ正確といえよう。

このピーク7130位に続く地形は、ちょ
うど、羸瘦いちじらしい人の背中の棘
突起のような形状で、その中央に踏み跡
が認められる。先ず第一の目標は達成し

私達におまかせ下さい。待っています!



●詳しくはホームページを見て下さいネ。
http://www.yoshimisports.co.jp/

登山用品専門店
とスキーのヨシミ
〒543-0054 大阪市天王寺区南河堀4-70
TEL 06 (6772) 7231

JR天王寺駅北出口
より東へ徒歩5分

た。後は急坂に対する忍耐力・持久力の
勝負となった。

八幡谷とアラ谷・ツルベ谷に囲まれた
この釣瓶岳の西方尾根は、武奈ヶ岳北西
稜とよく似ている。コースの相違点は、
前者の出発点が谷沿いなのに対して、後
者は出発点から尾根筋という点である。
しかし、それぞれのピーク7130位とピー
ク7060位より上部は、全体の形状と印
象が類似している。

ピーク7130位以後は踏み跡が消えて
いたり、かと思えば続いていたり、繰り
返して、そうこうするうちに、あえて道
を探さなくとも尾根筋さえたどればいい
という感覚で行動するようになった。

霧雨のなか、木々におおわれた前方の
山の端から、空がちらほらと見えるよう
になるともう終点は近い。ようやく、コ
アジサイやおオオカメノキが林下に咲いて
いるのに気がついた。最後はクマザサの
なかの道で、やぶ漕ぎするのはいつもの
通りである。

12時20分、無事に釣瓶岳南方の標高1
0500位の縦走路に飛び出した。すでに
霧雨は止んでいたが、あたり一面はガ
スがかかり、武奈ヶ岳も釣瓶岳も、また

郵船トラベルのハイキングツアー

ニュージーランド ハイキング

ニュージーランド、日本よりひと回り小さな国ですが、この国ほど変化に富んだ風景を持つ国はありません。南島の南西部には岩肌を雪渓をまとった 3000m 級の山々が美しい湖を抱いて連なり、その西側には北吹で見られるようなフィヨルド地形が見られ、雨の多いこの地域では太古から続く原生林が広がります。そして南島東海岸にはカンタベリー平原が広がり、羊が悠々と草を食む。『地球の箱庭』と称されるのに相応しいバラエティ豊かな景色が見られます。この国が世界に誇る美しい自然を満喫したいのなら、自分の足で歩くことが一番。弊社では、ニュージーランドにおける日本人によるハイキング・ツアー・オペレーターのパイオニアであるコロムコ・トレック社と長年一緒に企画し、ニュージーランドの大自然をじっくりと満喫できるコース作りをしてまいりました。今年もニュージーランドを代表する2つのトレッキング・コース「ミルフォード・トラック」・「ルートバーン・トラック」を企画手配するコースの他に、テ・アナウに3連泊してじっくりハイキングを満喫するコース、人気のハイライトコースにハイキングを組み込んだコース、野鳥・草花・虫達などを藤本和典先生と一緒に観察(=心で感じる自然観察のこと)するコースなどをご用意しております。お気軽にツアーのパンフレットをご請求下さい。



予告!

韓国/廣州 世界遺産を巡る4日間

2003年11月30日(日)発 予定

冬の北東 雪道びとオーロラの旅 7日間

2004年2月~3月発 予定

キナバル登頂 7日間の旅

2004年2月~6月発 予定

これらの旅行は現在企画中です。ご希望のお客様にはパンフレットをお送りいたします。

日本郵船グループ
お問い合わせ先: 郵船トラベル株式会社

ハイキングツアー専用デスク



フリーダイヤル: 0120-819-215 または 078-251-7611

FAX: 06-6251-9190 または 078-230-6488 e-mail: kog@ytk.co.jp

ニュージーランドハイキング 説明会開催

10月29日(水) 大阪会場 14:00~16:00
11月05日(水) 神戸会場 14:00~16:00
11月15日(土) 大阪会場 14:00~16:00

大阪会場/大阪市中央区本町3-2-6 7~9 本町ビル7F

西日本支店 <本町通り 大韓航空ビル向かい>

神戸会場/中央区八幡通4-2-18 郵船航空福本ビル1F

神戸営業所 <フラワーロード神戸市役所向かい>

会場の都合により、参加ご希望のお客様はご連絡ください。

国土交通大臣登録旅行業第1267号
(社)日本旅行業協会正会員 ボンド保障会員
ホームページ: <http://www.ytk.co.jp>

琵琶湖も全く視野に入らない。写真(前ページ)は、釣瓶岳側より撮影した縦走路との出合地点である。ちょうど、カーブしている所に出合う。後はここから南下して、6分で細川越に到着した。さて、目的は果たしたが、どこで昼食をとろうか。気分的にはまだ交感神経が興奮しているので、食欲はわかない。そこで、そのままスゲ原をくぐり、広谷、イブルキのコバを経て、13時35分八雲ヶ原スキー場に到着した。その頃より日が照り始めた。午前中の陰鬱な山中登りの気分を雲散霧消させるべく、傾斜地にナイロンを敷き、遅まきながらの昼食を心底から楽しんだ。

蝶採りの人たちの「ミドリ(ジジミ)」「アカ(ジジミ)！」の声を聞きながら、30分程ゆっくり寛いだ後、ササユリの咲いている八雲ヒュッテ前から北比良峠を経由し、ダケ道をイン谷口へ下行した。途中、カモシカ台を通り過ぎたが、おそらく「比良連嶺」に言うバノラマ台のことであろう。当時は琵琶湖の景色が一望のもとに眺められたのであろう。残念ながら、今は台地というだけである。16時15分

分JR比良駅に到着した。

ところで、細川越の名称のところであるが、もし縦走路を考慮しなければ、写真の出合地点こそこのコースの真の最高地点で、細川越または細川峠と呼ぶにふさわしい。ただし、「越」の意味を広義にとり、例えば箱根越という用例では、先の出合地点から細川越までを含めて、地域的に意味する場合もありえよう。一方、狭義にとれば、細川越が武奈ヶ岳と釣瓶岳との主稜線の鞍部であるという事実が、特異である点と、本コースの出合地点が、コースの廃絶により無意味となってしまう点とを考慮して、広義の「越」を細川越に凝集してしまっても考えられる。それ故、細川越は全く無意味とは言えない。そして現実には、細川から細川越に到るコースは存在するからである。本日は極めて非日常的な一日であった。(平成15年6月29日歩く)

△コースタイム▽

細川(10分) 堰堤(10分) 左岸に渡る(10分) 再び右岸へ(40分) 大きな崩落跡(50分) ピーク713m(1時間20分) 縦走路出合(6分) 細川越(50分) 八雲

観光バスなら 確実第一の 太陽観光開発(株)へ!!



- ・小型 (20人・24人)
 - ・中型 (28人乗り)
 - ・中2階 (45人乗り)
 - ・大型 (55人・60人)
- いずれもサロンカーからデラックスまで

スキーバスもあります

〒578-0971 東大阪市鴻池本町1-20 オカダビル4F
電話 06(6745) 3911・FAX 06(6745) 3983
夜間・電話 06(6242) 2371・FAX 06(6242) 2372

ヶ原スキー場(5分) 八雲ヒュッテ前(10分) 北比良峠(1時間) 大山口(14分) イン谷口
△地形図▽
昭文社「比良山系」(1989年版・2003年版)

新ハイ関西73号
標高△△73mの山

経塚山 (1373m・奥羽山脈)
音波山 (873m・湖北)
高畑山 (773m・鈴鹿山地)

経塚山

岩手県の西南部に位置する焼石岳を指したときに登った山である。この一帯は奥羽国定公園に指定されている。その中の代表的な焼石岳・栗駒山・虎毛山の三山を、山頂付近の避難小屋と東北本線の駅前のビジネスホテルとに交互に泊りながら登った山旅の、最初のピークが経塚山だった。

夏油温泉という、これまでにを行った温泉のなかでも筆頭のひとつに挙げられる味わい深い温泉に入ったあと、経塚山を越えて、その日の宿泊地である金明水遊

難小屋を目指した。

1300m台なのに森林限界を越えた山頂は、夕方の日差しに変わりつつある頃だったので、傾き始めた光線が山頂の花々を鮮やかに赤味に染めて、浮き上がらせていた。快晴の爽やかな夏の夕刻だった。

また、山頂近くの風穴から吹き上げていた涼風には、もう驚くばかりだった。岩と岩との間の草むらに腰をおろし、その涼風に汗ばんだ身体を休ませた時の驚きと喜びは、今もって鮮明な思い出だ。

温泉と、快晴の夕映えの花畑の山頂と、風穴の涼風がブレンドされた経塚山の印象は、焼石岳への登路中の山にもかわ

だ。

山頂からの展望は最高だった。北方に白山と部子山と金草岳が重なり気味に、前山の間から見える。東には雪を落とし、樹林の屋根の上に、雪の山裾が美しい上谷山が1200mの山とは見えない崇高な姿で望まれた。

山頂付近だけは霧水が残っていて、気温の低かったことを示しているが、登った時は早春の陽気に包まれていた。雪の中からテーブルをスコップで掘り出し、イスもセットして、宴会付きの長い昼食タイムをとることができ、最高の早春日だまり雪山山行だった。

(平成14年3月3日歩く)

▲コースタイム▽

橋ノ木峠(3時間) 音波山(2時間) 橋ノ木峠

▲地形図▽2万5千||板取

高畑山

山の会に入った年の秋に登った。その年は今では考えられないほどの雪の多い年で、11月なのに名神道が通行止めとなった。当初は湖北の横山岳へ行く予定だった。

らず、私にとっては想定外のいい山だった。(平成6年7月27日歩く)

▲コースタイム▽

夏油温泉(4時間30分) 経塚山(1時間30分) 金明水避難小屋

▲地形図▽昭文社||「栗駒・早池峰」

音波山

滋賀と福井の県境にある山だ。ただし山名は一般化されているものではなく、山本武人著『湖北の山』に記載されているのを引用した。このピークからそのまま県境を東に進めば、上谷山を経て三國岳に達している。

奥深い山城だが、登山口の橋ノ木峠には、反対側に余呉高原スキー場があるので、滋賀県側は常に除雪されている。だから手軽に奥深い雪山を日帰りで味わえる、なかなかいい山である。

残雪期に二度行っただが、二度目は快晴だった。初心者を含めて6人のパーティで行った。登山口は登りやすい雪の斜面で適当に見当をつけて取りつくと、すぐに県境尾根に出られて、そのあとは尾根上の切り開きを歩けばよいだけで、天気

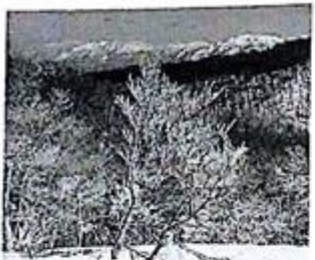
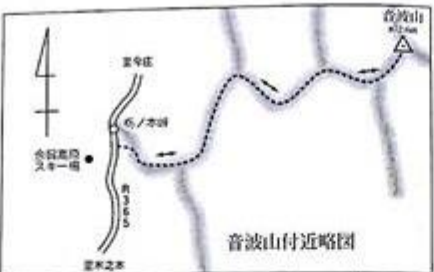
だが、通行不可とわかり、鈴鹿山脈のどこか、まず鎌ヶ岳に決めて目指そうとしたが、それもかなわなかった。遠出の予定だったから夜から出かけたものの、滋賀県の南部を行きつ戻りつしながら、どうしたものかと思案しながらの蛇行となった。テントを張る場所を探しながら車を走らせるが、突然の大雪で、どの道も雪で埋まり、なかなか張る場所を見つけれなかった。結局近江鉄道バスの停留所の中で寝ることになった。戸のないごく小さな待合所である。その後の長い山行歴のなかでも、こんなことはこの時だけである。男6人が狭い待合所の中で夜を明かすこととなった。

次の日は降雪もおさまり、鈴鹿峠の南にある高畑山へ登ることとなった。まだ雪山は初心者だったので、スパッツを着けるのも、他の人より手間どったりしたが、低山でも雪が大量に降ると、こんなに楽しい山行になるのかという経験が味わえて、遠い昔の山行だが、今でも鮮明に思い出す。(昭和58年11月27日歩く)

▲コースタイム▽

熊野神社前(3時間) 高畑山往復

▲地形図▽昭文社||「御在所・霊仙・伊吹」



音波山より
白山 (左奥)・部子山・金草岳 (右)

が安定していれば、快適な道である。細かいアップダウンはあるが、橋ノ木峠が539mだから山頂までの高度差は330m程度で、散策気分

愛鷹連峰縦走

鷲見守康

静岡

愛鷹連峰は、富士山の南に位置する山塊である。壮大な富士山に比べればこじんまりしたものだが、沼津市街から眺めると、大きな山体が思いがけない迫力でせまってくる。

名前をもつピークは、主脈上だけでも六個あり、最高峰の北の越前岳や二百名山に選定されている南の愛鷹山にはいくつものハイキングコースが整備され、多くのハイカーが訪れている。

そんなハイキング向きのおだやかな顔の一方で、連峰を縦走するときには、鋸岳から位牌岳間の険しい岩場ルートがある。この岩場ルートの存在について知っているが、ガイドブックの記述やハイ

キング向きの越前岳や愛鷹山の雰囲気から、私は、ごく楽観視していた。要するに、愛鷹連峰をナメていたのだった。

越前岳の登り口の一つである十里木高原には早朝4時前に到着、6時頃までバス車内で仮眠した。今回、食事・トイレ・洗面の場所を確保することがかなわず、各自で用意した弁当やパンなどで朝食を済ませ、駐車場の観光トイレで洗面等の用を足した。

6時半出立。空には全面に雲が広がり、期待の富士山はほとんど姿が見えない。電波中継所を頭上に見ながら草原のなかの道を登って行く。いったん登りつめる

目に入るようになると、ほどなく越前岳山頂だった。

越前岳から南側へくだり、呼子岳へと進むとツツジの木が目立つようになった。葉はヤマツツジに似ているが、きつとアシタカツツジに似ていない。この年の4月末、新ハイ例会で天子ヶ岳から長者ヶ岳を歩いたとき、初めて出会ったツツジで、富士山周辺のこのあたりだけに分布する。裾野市の天然記念物に指定されているそうだ。

割石峠に至ると、大きな立札が現れた。ここから先、鋸岳から位牌岳の間は危険

なので、立入りはご遠慮ください、との地元遭難対策協議会のメッセージだ。立札の右上には「クサリもあてにはならない」という文意の落書き(?)もある。

立札の背後の斜面の土砂が崩壊したのか、これまで鮮明だったルートが、ここではっきりしなくなっている。立札の意味はこのような斜面のことだろうと勝手に解釈し、左に不安定なトラバースするかすかな踏み跡を登った。ルートが本当に不明になってしまえば、その時点であきらめればいい、と考えたのだった。

蓬萊山に着くと、ルートははっきりしてきた。ところが、立札は再び出現した。



呼子岳から望む鋸岳 (仲谷礼司氏撮影)

と、コンクリート製の展望台がある。天気さえよければ富士山がすばらしいのだろう。

ゆるやかな登りとなり、二つ目の電波中継所を過ぎると、3等三角点の笹峰だ。

やがて雑木の疎林に入った。広い尾根には踏み跡がいくつもつけられ、歩きやすい道を選びながら進んで行く。ブナが

ここから先は危ないから帰れ、と言っているのだ。ガイドブックの記述からは、こんな状況に直面することなど予想もできない。「どういふことなのだろう。地元遭難協会は、よほど横着なハイカーたちに苦労したのだろうか」

私は前進した。もしガスがなく、ルートがもっとしっかり確認できていれば、判断は違っていたかもしれない。

蓬萊山からくだり、鋸岳の岩稜帯に入ると、私の脳裏には正直なところ「しまった……」という思いがよぎっていた。けれど、隊列はすでに大きく踏み出してしまっている。それに、地元遭難協が設置してくれたクサリやロープは非常に頑丈だ。「立ち入るな」との警告を発しつつ、もし立ち入ってしまったのなら最後までしっかり歩け、という叱咤激励の気持ちがかみとれるのだ。「みんなががんばってもらおうしかない」と私は意を決した。メンバーの中には、これまでにない緊張感が走ったようだ。

岩峰の南面を何度か捲いてキレットに至った時、私が手をかけた岩が大きくぐらついた。岩は人頭の二倍ほどもあり、だれもがちょうど手を置きやすい位置に



関西の沢 大峰の沢

樋上嘉秀著 四六判 一九〇〇円

近畿の沢登りの中心はここ大峰山系。吉野川水系(上多古川) 4、十津川水系(川道川、舟ノ川、旭ノ川、滝川水系) 17、北山川水系(白川、又川、前鬼川、池郷川) 10、計31の名沢を紹介。

関西の沢 台高の沢

樋上嘉秀著 四六判 一九〇〇円

谷姿美型にして水量豊富。吉野川、北山川、柳田川、宮川、鏡子川、住古川の各水系の百を超える沢から32本を厳選して、各谷ごとに詳細通行図付きで紹介する。

★表示の価格は消費税を含みません

ナカニシヤ出版

<http://www.nakanishiya.co.jp/>

京都市左京区吉田二本松町2

☎075-751-1211 〒606-8316

あったが、浮き石にも似た状態で、このままでは危ないと判断、周囲の状況を見て、私は岩を谷へ落とす。岩は他の岩屑を巻き込み、小さな土右流のようになって轟音を響かせ、落ちていった。

「驚見さん」後方で、S・Kさんの悲鳴のような叫び声が上がった。後に続くメンバーはびっくり、私が滑落したのと思ったようだ。「ハイイ」という私の返事に、とりあえず安堵したものの、この落石で生じた轟音は、私たちパーティの緊張感をいやがうえにも高め、私自身も事故のないよう、折るような気持ちで進むこととなった。

キレットから10分ほど登って左のコルに出る。このあたり、高度感もあってバランスが悪い。私はクサリに自らの体

重を預けて何度も点検し、後に続くメンバーにはクサリを使うよう助言した。山でクサリやロープには頼るな、というのはあくまでも原則、場合によってはクサリに身を預けることもやむを得ないときがある、と私は考えている。

鋸岳が終わると、いったん息のつけるササの平坦地があり、ここでメンバーが揃うのを待った。激しい緊張に不安と疲れをみせる女性陣から「険しい所はもう終わりですか」との質問を受けた。位牌岳にかけても連続してクサリ場があることを知ってはいないし、ガイドブックの「再度ロープや針金が出てくるが、どちらかというとな鋸岳の通過より手ごわい」という文面も思い出してはいたものの、私は言葉を濁した。そのことをそのまま

り聞きながら、三井さんがニヤニヤして「驚見さん、知らなかったの?」と聞いた。

時々自然観察山行のサブリーダーを引き受けてくれている三井さんは、愛蔵連峰の縦走と聞いて、正直驚いたようだ。狩野さんなどは愛蔵連峰の縦走と知り、何が何でも自分がサブを務めなければならぬ、と使命感に燃えてくれたのだと言った。三井さんと狩野さんは何も知らずに突き進む私のために、馳せ参じてくれたのだった。感激である。

位牌岳からは、安全な道に戻り、パーティの雰囲気も和やかになった。袴腰岳への稜線歩きは、天候さえ良ければ、今通過してきた越前岳・鋸岳、そして富士山の眺めがいい所なのだが、きょうは何も見えない。

展望が悪ければ、山の自然を楽しむしかない。幸いと言うべきか、馬場平から愛蔵山にかけては、ブナとヒメシャラの混交林がとても見事だった。とりわけ、ブナには樹齢数百年は数えようかという巨木が見られた。新ハイ夫婦コンビのM夫妻が「愛蔵山には驚見さんが喜ぶブナ

がある」と言っていたのを思い出しながら、私はブナを仰いで歩いた。

ニホンジカの足跡に驚かされた。とくに、足跡は登山道にかなり残されており、やぶのなかには鹿道もあちこちに見られた。位牌岳から愛蔵山にかけては、ミヤコササも分布しているの、シカの生息数はかなり多いのだから。

16時、バスの待つ愛蔵ゴルフ場に到着。夜行明けの9時間を超える縦走を終えた。(平成14年11月15日16日歩く)

▲参考タイム▼

〈15日 くもり〉JR岐阜駅23・00(貸切バス)

〈16日 くもり〉(バス)十里木高原3・55(飯・朝食)6・30―笹峰7・00―越前岳8・05―15―呼子岳8・50―割石峰9・15―蓬萊山9・25―鋸岳―位牌岳11・10(昼食)12・10―一服峠12・40―袴腰岳12・50―馬場平13・15―愛蔵山13・45―14・15―林道出合14・50―愛蔵ゴルフ場16・00―10(バス)富士市ホテル

〈地図〉昭文社「富士・富士五湖」2万5千1愛蔵山



愛蔵山山頂の例登山行

でやるべきではなかった。反省して「答える。そんなやり取

人のハイカーが死んでいる、と教えてくれた。「そうですか」と応じた後、どうせわかることだから、と半ば開き直ったような気持ちで「後から19人来ます」と言うと、相手は「エエッ!」と唸ったまま絶句してしまった。

またしても、無謀な中高年の集団と化してしまったのか。私は次々と姿を現すメンバー一人一人の顔を確認し、最後にサブ・リーダー狩野さんの到着を見て、心からほっとしたのであった。

昼食休憩時は、全員の張りつめた心が

じんわりとほぐれ、いつになく楽しいひとときであった。女性陣は「本当に怖かった」と口々に言う。そんな声に私は「新ハイは」

特別海外山行

台湾最高峰と第二峰の二名山

玉山と雪山

ユイシヤン

シユエシヤン

台湾

金谷昭

出発間際になってイラク戦争が始まり、また新型肺炎の流行で参加者が激減して5名となった。最低催行人員を下回ったが、外務省の台湾への渡航危険度は1(要注意)に留まったので、ツアー代理店のA社に御好意によって実施することになった。ツアーリーダーは同社の乾さん(女性)で、今回男性はリーダーの私1人でほか5名は女性ばかり、女性パワーがすごい最近の登山界を象徴するものであった。

(4月13日) 出発・到着して阿里山(アリスン)へ
関西空港および飛行機内は一昨年の同時多発テロ後のキナバル山・新ハイ10周

稜線に出た。しかし、ここから阿里山のロッジまで長かった。日がとっぷり暮れた19時前に阿里山青年活動中心に到着した。ここは日本の公営青年の家によく似た施設で、木造三階建のロッジ。部屋は二段ベットで8名収容であるが、シャワー・冷暖房完備の快適なものであった。夕食後、登山中に各自が持つ食料の割り当てがあったが、ガイドとツアーリーダーが大部分を背負い、われわれは申し訳程度の乾燥麺類だけであった。

(4月14日) 阿里山から玉山・排雲山荘へ

7時30分、ロッジを出発してバスで上東埔へ向かったが、Nさんが登山靴が履けなくて困っている。よく見ると靴の左右が反対になっている。これから先が思いやられる。

稜線の森林地帯を走って行くと、小さな逆のような植物が地面、いばいに広がっている。これは台湾山葵で、日本と異なり清流のなかではなく高地の普通土壌で栽培されている。やはり香辛料として食用されることであった。

約1時間走り、東埔(2600m)に到

年記念特別山行の時と同じように閑散とされていた。その代わり機内サービスは抜群であった。フライトは3時間、時差は1時間遅れと全く国内旅行と変わりない。機内では空側の空席に移動して九州霧島の大波池を真下に見ることができた。

到着した台北空港も閑散としていた。マスク未着用者もかなり見られ、入国者の健康チェックは耳たぶに当てた体温計による検査のみで、全員問題なく通過した。一步空港を出るとマスク着用者はほとんど見られず、台北市の雑踏ではあらかじめ決めていたマスク着用を、だれもしなかった。

現地ツアー会社の用意したバスは、キヤ

着した。不要な荷物はバスに置き、いよいよ登山開始となった。すぐに警察署があり、入山手続きをとってタタカ鞍部へ舗装道路を歩く。途中に有名な巨木(大鉄杉)があり、馬酔木の多いなかをゆるやかに登り(2700m)、せっかかに登ったのに鞍部に向かって大きくくだる。婦りの登り返しに気がかかる地点である。タタカ鞍部には大きな「玉山登山口」の石碑が立っている。展望が開け、玉山南峰の鋸の歯のような稜線が立ちつくし、その左奥に玉山主峰が顔を覗かせていた。ここで車道と分かれ、登山道に入っていく。玉山西峰の南面山腹の急斜面の灌木帯のなかをトラバースしてゆるやかに登っていく。下部の谷底が見通せて少し恐怖を感じるが、道はしっかり整備されていた。なお、玉山・雪山とも道はよく整備されていて危険箇所はほとんどなかった。

約1時間歩いて第一シェルター(モンロー亭)にて小休憩をとる。ガイドの洪氏は水入りボトルを山中に隠していく。これは次回以降の濁水対策らしく、生活の知恵とも言うべきか。休憩後、高度2800m付近を過ぎると、白い南湖石楠

ンセル前の人數に合わせて大型バスであった。現地添乗員は春香(子)さんといひ、高地民族出身の日本語も話せる女性で、もちろん登山家である。地元の人會長を努めるなど、名士とのことである。空港を出ると高速道路に入った。全線六車線の快適なもので、当日は日曜日でマイカーブームの台湾は車が多かった。車の多い日祝日は日本とは発想が逆で、全線通行無料となっている。車窓からの風景は工業化の著しい台湾を象徴し、工場やビルが乱立している。一方、農村地帯でも休耕地などいっさい見られず、農作物で溢れている。前李登輝總統の民主化と農工政策が台湾の発展に寄与したことがよく理解できる。

嘉義市で高速道路を降り、豊原市で登山ガイドの洪氏を乗せ、少し走った所で食料を購入し、いよいよ阿里山に入っていく。その麓の寺院のある景勝地で休憩をとったが、日曜日のため阿里山からの帰りの人で車が多かった。山の風景は日本と変わりなかったが、スケールが大きい。いつまで経っても稜線にたどり着かない。そのうち日が暮れてきてようやく阿里山からの車が少なくなった頃、山上

花が今を盛りに咲き乱れている。蕾は紅色であるが、開いて紫外線を受けると白色に変化するらしい。なかには紅色のまま咲いているものもある。女性方は花に目敏く、クレマチスの蕾を見つけたが、下山時にはもう開花していた。

西峰分岐(2823m)にて小休憩。さらにながばつて第二シェルター(3095m)にて昼食となった。ツアーリーダー乾さんから大きなバイナップルとウォーターリングの配給があったが、彼女のリュックのどこに入っていたのだろうか。日本で食べるのと違ってたいそう甘く、やはり本場ものである。昼食は大きなチマキ(2個)で、肉入りと小豆入りだった。美味しくて腹持ちがよく好評であった。

昼食後、高度が上がるにつれて石楠花は姿を消し、台湾冷杉(ニイタカトドマン)の巨木が林立する森林帯となり、まさに日本の南アルプスのような景観を呈していた。

しばらくすると一枚岩の大峭壁(3173m)が出てきて、小休憩となった。洪氏はここでもボトルを岩陰にデポした。この頃から小雨となる。それ程でもなかったが一応雨具を着ける。山荘近くになる



玉山を目指す



と出てくると聞かされていた石段を登り切ると、排雲山荘に到着した。ほぼ予定通りで約6時間を要した。

排雲山荘は木造平屋建てで二段ベットの大部屋式、トイレは男女別棟のトイレ張り、水洗式で大変きれいだ。山荘にはわれわれより少し早く出た大型バスの台湾青年のグループが先着していたが、小屋の収容人員以上の登山許可は出ないらしく、それほど混雑していない。水は天水であるが、沸かし湯のタンクが玄関ホールに置かれていて自由に給湯できた。

夕食の炊事はわれわれも協力するはずであったが、乾さんとガイドの洪氏ができばきと日本食をつくられたので、われわれの出る幕はなかった。これは登山で疲れた中高年にとってたいそうありがたかった。以後、炊事はほとんど彼女にしていた。以後、炊事はほとんど彼女にしていた。以後、炊事はほとんど彼女にしていた。

あすの玉山登頂は、日の出前に頂上に到達するため3時出発。夕食後直ちに寝袋に入ったが、同室の台湾男性の餅や登頂を前にして少し興奮したのか、うとうとしているうちに時間となった。雨がやや強くなってきたので出発を1時間遅ら

すことになった。

(4月15日) 玉山登山、そして下山
朝食にラーメンを食べ、3時45分、雨具にヘッドランプを点けて出発。最初は森林帯で風はなく、ゆるやかなジグザグ道をライトを頼りに登って行く。雨は登るにつれ小降りとなり、日の出近くになってやんだ。頂上付近の景色がぼんやりと見えてきた。日本の奥穂高岳によく似ている。要所には頑丈な鎖が掛けられ、北峰への分岐が出てくると雪国の羅木のような落石防止柵が設けられていた。これを通ると頂上への最後の岩のガラ場の登りとなり、飛び出した玉山山頂は意外に狭く、中央には岩に影り込んだ山名板と日本統治時代からの一等三角点があり、周りをコンクリートで固められて健在であった。ガスで展望は皆無であったが、雨もほとんどやみ、われわれを温かく迎えてくれたようである。

感無量でガイドやグループ全員と握手し、登頂を祝福して早速記念写真を撮る。高度3952mだけに気温が低く寒かったので頂上の少し下の風当たりの少ない所で休憩した。寒いので長居は無用と20

分程して下山となった。しばらくすると霧が降ってきたがすぐやみ、頂上部を除きガスは晴れてきた。登頂時は闇夜でわからなかった風景を見ながらの下山となった。所要時間は登頂には2時間5分、下山は1時間20分。なお、出発を1時間遅らせたツアーリーダーの判断は正解であった。

排雲山荘に帰って二回目の朝食をとりすっきり雨の上がった7時30分、山荘を後にする。少し軽くなったリュックで軽快に下山開始した。第一の目標の山を達成したので、皆の会話はいっそう弾み、冗談の飛び交う愉快な歩行となった。きのうの登山時に満開と思っていた石楠花はさらに花が増え、なかには小ピークが雪を被ったように石楠花の白い花でおおわれているのが見受けられた。

下山にはけっこう時間を要し、タタカ鞍部には13時に到着した。我ながらよくぞ登ったものであるとお互いに感心した次第であった。

鞍部では台湾の登山者から温かい歓迎を受けてお菓子等をいただき、彼等といっしょに記念写真を撮った。残念ながら山頂付近はガスがかかっていて見えなかつ

た。

上東埔駐車場には春香さんが弁当を持って待っていた。昼食後、バスは往路と違って山岳道路を北にとり、今夜の宿、東埔温泉に向かった。途中、有名な夫婦杉の巨木(大鉄杉)が、最近の山火事で黒焦げになった無残な姿をさらしていた。約1時間30分走って到着した東埔温泉には日本式温泉の看板が掲げられ、水着無しで入浴できた。屋上に露天風呂があるなど日本の温泉とよく似ていた。入浴後の夕食は台湾料理と台湾ビールで最高であった。夕食後、有名な高山茶を買いに出た人もあった。

なお、ここでガイドの洪氏は次のAL社の玉山ガイドのため夏氏と交替した。夏氏は根っからの登山家。既婚で生活費は看護婦の奥さんの稼きで、彼は主夫をして好きな登山とそのガイドをしていて完登が困難な台湾百岳の八割方を登っているという。

(4月16日) 雪山登山基地へ

バスにて梨山を経て登山口の武陵に向かう。台湾の酒といわれる梨山で休憩し、合歡山峠に向かって山中を登って

いく。途中に大きなダムがあり、日本統治時代に建設されたという。当時の発電所建設工事で日本の苛酷な労働に対して高地民族が蜂起して反乱、学校の朝礼時間に日本人が多数殺害された有名な霧社事件の現場であるが、今は何事もなかったように平和なものであった。

合歡山峠は3150m、主峰の合歡山は3416mで、峠付近はなだらかなササの高原、2月の厳冬期には台湾唯一のスキー場となり、ホテル等の施設も完備している。

少し寒い峠での休憩後、バスは峠を後にしてどんどんくっついていく。高麗野菜の広大な畑が出てきたがほとんどキャベツが植えられている。台湾料理にはキャベツが多く使われているのだが、それがよくわかる。

梨山にて昼食をとり、再び山に入っていく武陵農場の手前にゲートがある。ここから有料道路を走ることになる。ロジック風の雪山ビジターセンターに着き、雪山紹介の展示コーナーを見学する。前庭には毒蛇の注意看板があった。漢字の説明でも大体の意味がわかる。台湾には毒蛇は四種類いて、そのうちの一種類は、

咬まれたら百歩歩くまでに死にするほどの猛毒であるという。今は乱獲により絶滅に瀕していると記されていてひどい安心。

センターからは農場の中の舗装された狭い道を登っていくが、ここにもキャベツが植えられていた。道路終点が登山口で入山管理事務所とトイレがある。入山手続きをしたところ、今夜のシチカ山荘の宿泊はわれわれのみで、さらに上部の五六九山荘にも宿泊者はおらず、あすの雪山登頂は何んとわがグループのみで、全山貸し切りとのことであった。

15時37分、すっかり快復した晴天の下いよいよ全行程10・9の雪山登山のスタートとなった。ツァーリーダーの言によればシチカ山荘まで2・5約2時間の急登とのことであったが、登山道の要所は角材で階段に整備され、ゆるやかな九九折の道となっている。ここでも疲れを感じさせないよい作道であった。

途中、展望台にて休憩し、再びゆるやかな道を行くと前方に鞍部が見えてきた。登山口から2・5、そこがシチカ山荘であった。山荘は木造平屋の120名収容の大きな建物で、食堂を兼ねる炊事場があり、

男女別の水洗トイレは別棟。宿泊棟は玄関を挟んで左右に分かれ、中廊下式の二段ベットであった。

玄関の柱の気温計は12度を指していたが、ここは2463円で、今夜は晴天なのでかなり冷え込むだろう。夕食はばら寿司と味噌汁等の日本食で一同大いに食が進んだようだ。あすは長時間歩行のため3時出発。夕食後すぐ就寝となったが、夜半、屋外に出てみると空は快晴。満月に照らし出された山々がくっきりと見え、明日の晴天が約束されているようであった。

(4月17日) 雪山登山

午前2時起床。朝食のラーメンと握り飯を長時間の登山に備えてしっかりと食べた。各自行動食の配給を受け、3時シチカ山荘を後にする。

満月が出ているが、森林地帯の暗闇のなかなのでヘッドライトを点けて出発。ここからも急登と聞いていたが、ゆるやかなジグザグの道を繰り返して登っていく。登り始めは体が冷えて寒かったがすぐ暖かくなってきて一薄着となった。Tさんはそれでも暑いと言う。これは就寝の

際の発熱カイロをそのまま身に付けたままとわかり、これもお笑いの種となった。Nさんの靴の左右の間違いの件といい、先が思いやられた。

1時間30分をかけて森林地帯を抜けた。ほんのりと明るくなってきてライトを消す頃に展望所に着き、小休憩する。ここから先は小さなアップダウンが出てくるが、疲労した下山時の登り返しがいやられる。東峰へあと1.5の地点から台湾鉄杉と満開の石楠花が出てきた。ここで初めて主峰が3690の峰の横に顔を覗かせた。空は快晴無風でいやがうえにも登高欲を駆り立てられる。5時30分、東峰に到達する。ここにも日本統治時代の3等三角点が埋められていて、今も有効に使われているらしく、その周りには航空測標識が置かれていた。小休憩してしばらくすると、遠来の客を歓迎するかのよう快晴の東の空から太陽が顔を出し、台湾の山々が照らし出された。異国で見る日の出の瞬間だ。本山三に来てよかったと思った。

東峰を後にするとすぐヘリポートがあり、このあたりから尾根直下のトラバース道となる。台湾冷杉と乱れ咲く石楠花

の点在する草原となり、気持ちよいプロムナードが出現した。石楠花の花に一同歓声を上げ、思わず歩行がゆっくりとなり、三六九山荘には到着予定時間よりかなりオーバーしてしまった。

ササの高原に佇む三六九山荘の名前の由来は背後の山が高度3690mからだという。頑丈な木造平屋建て、炊事場と



トイレは別棟である。屋根にはそれぞれソーラー発電装置があり、照明設備が設けられている。この水源は時どき濡れることがあるらしく、今年は雨が少なくて給水栓を開いても水が出なかった。本日の宿泊者はなく、ガランとした山荘で休憩をとり、行動食のスナック菓子を食べてから雪山頂上核心部に向かって出発する。

低いササの見晴らしのよい広大な高原をゆるやかにジグザグを大きく繰り返して登って行く、すぐ北峰への分岐が出てきて、立ち枯れの白骨木の散在する四国の瓶ヶ森のような所を抜け、やがて玉山凹(ニイタカヒョクシン)の森林地帯に入った。

地表が苔におおわれた疎林となっており、付近の岩肌や木々の間越しに望め、そう陰鬱な感じはしない。どこか日本の奥秩父か大峰の奥駈道

に似ている。道はゆるやかに山腹をトラバースし、1時間程歩くと水場が出てきた。大きな岩壁より湧き出ている雨の少ない今年でも濡れない。いわゆる金名水とでも言うか、飲んでみるとけっこう冷たくておいしかった。リスカテンのような小動物も見られ、彼らにとっても貴重な水場なのであろう。

水場から約1時間森林地帯を歩くと、カール底から流れ出す小沢が出てきて、付近が突然明るくなった。展望のカール底に飛び出したのだ。

カール上部は残雪のある岩壁、中腹以下は背の低い玉山石楠花がハイマツのように広がっている。例年なら満開の頃であるが今年は雪解けが遅れ、残念ながら開花には少し早かったようである。もし開花していればすばらしい光景となるであらう。

カール底から見上げて、頂上は中央右にある鞍部のさらに右にある高く見える岩峰かと思っていたら、ガイドの説明によると、頂上は中央の平頂の奥にあり、右の見えている岩峰は北稜角(3880m)と呼ばれ、主峰より600m低いと言う。いずれにしてもここまで来れば頂上は



雪山山頂にて

射程距離である。急登はなく逸る心を押えつつゆるやかにカールを左より抱いて行く。山火事による石楠花の枯木帯が出てくると間もなく雪山山頂(3886m)であった。

頂上では全員いっせいに歓声をあげ、登頂を祝福した。正直言って私は泣きたいほどに嬉しかった。頂上はゆるやかな広場となっていて、その中央に日本統

治時代からの一等三角点の標石が置かれている。今も測量に使用されているらしく、標石の周りに航空標識の白い板が置かれていた。

快晴無風の下、日本からの客を歓迎するかのよう360度の大展望で、台湾の高い山々の初見となった。北方には台湾五岳の一つ大霸尖山の親指のような異様な形がよく目立った。しかし、玉山は少し霧が出てきて球念ながら見えなかった。

われわれが写真を撮っている間に、夏氏が担ぎ上げた西瓜を切ってくれ、早速御馳走になった。東南アジアの名山をわれわれで全山独占し、そのうえ頂上で西瓜をいただくとは最高の幸福であった。いつまでもいたい気持ちであったが長い下山路を考え、周囲の景色を目に焼きつけ、去り難い思いを胸に下山する。

カール底までは念願の重荷を下ろしただけに早かった。振り返ると頂上にはガスがかかり始め、われわれの登頂にはよいタイミングであった。森林地帯に入って水場に戻って見ると、登りの時より少し水量が多い。気温の上昇による融雪の加減であろうか。森林地帯を抜けるには疲

れのせいか登りより少し長くかかったようである。明るい立ち枯れの白骨木の点在する草原に帰ってくると、快晴の空に雲がかり始めた。

五六九山荘にはきょうは登山者が無かったらしく、ひっそりと静まり返っていた。山荘を後にしてしばらく行くと、きょう始めて他の人の声が聞こえてきた。軽装の地元の方らしき2人の青年が現れたが、登山者ではなく山荘と登山道を保守管理する人であった。彼らは歩道の修理と山荘の点検に登って行き、作業後山荘から引き返し、足早に鈍足のわれわれを追い抜き、たちまち姿が見えなくなった。

東峰に戻るアップダウンの登り返しは、疲れた体にこたえたが、その頃湧いてきた霧をバックに満開の石楠花が幻想的で、その風景に魅められた。シチカ山荘へは登りの際は暗闇でわからなかったが、松林のなかをくぐっていく。日本のように松喰虫の被害は皆無であった。展望台を過ぎてから山荘までは疲れからか大変長く感じられ、中には「小屋は引越したのか」と言う人も出る始末。

シチカ山荘の屋根が見えたときは、一同ほっとした様子だった。山荘到着は16

時40分。登山開始は3時で、休憩時間を含めて13時間40分。長時間の登山であったが、全員足の疲労に反して口は疲労しないのか、終始冗談が飛び交う和気藹々の一日だった。

山荘到着後、しばらくして台湾の青年グループが登ってきた。登山の疲れで熟睡したわれわれの中に、彼らが夜中3時頃、山荘を出ていったのに気づく者は少なかった。

(4月18日) シチカ山荘より下山、台北へ

6時、お世話になったシチカ山荘を後にする。ガイドの夏氏は三六九山荘の際と同様、山荘のゴミを背負ってくれた。山を愛する台湾登山協会員として、さすがであり、われわれも大いに見習うべきところである。

登山口へは足も口も軽快に飛ばし、45分で降り立つことができた。登山口には台湾登山協会の重鎮・周文氏が待っており、氏はきわめて温厚な紳士で親戚の家。日本語はわれわれ以上に堪能で日本の山もかなり踏破されている。台湾では日本の登山者が大変お世話になっている

とのことで、われわれも帰国までいろいろとお世話になった。ガイドの夏氏とはここで別れた。次のガイドまでしばらくは主夫業に就くこと。

きょうはマイクロバスにて武陵農場を後にする。しばらく走り、台湾五岳の一つ南湖大山の登山口にて車を止め、周氏から台湾の山についていねいな説明があった。台湾の山には名前の付いている3000以上の山が133山ある。台湾の人口2300万人のうち、登山人口は300万人といわれ、登山は盛況である。日本と違って、若い人が大部分を占めている等の説明があった。話の締めくくりに、彼はすでに70代半ばを過ぎ、若いときのように高い山には登ることはできなくなり、今では「登山家ではなく愛山家に徹している」と言われた。長い年月に培われた登山家の謙虚な心境が滲み出た言葉として、一同感銘を受けた。

バスは峠を越え一路東北方向に走り、東海岸に出た。離漢温泉で入浴し、登山の汗を流した。さきほど海岸線を北上して亀山島が見える頭城に行き、海鮮料理と台湾ビールの昼食をとり、一同堪能。午後は台北到着後、故宮博物院・忠烈

祠を見学してホテルに入った。なお、台北の雑踏の中ではマスク着用を申し合わせていたが着用者は皆無で、われわれも着用しなかった。

(4月19日) 台北より帰国

午前中は台北市内観光とし、中正紀念堂・孔子廟を始め各所を見学したので、空港に向かう。途中で昼食となったが、ここでもやはり台湾料理である。何度食べても飽きないものがあった。

空港でお世話になった周文氏とも別れ、機上の人となった。空港・飛行機とも往路と同じくガラガラであった。20時、関西空港に全員無事帰着した。

今回多数のキャンセルが出たにもかかわらず、山行を実施していただいたAL社と周文氏を始めとする現地旅行社の方々、また登山中はきわめて鈍足のわれわれに付き合ひ、安全登山の労をとっていただいたツアーリーダーの乾さん・登山ガイド諸氏に感謝する次第である。

* コースタイムと参加者氏名は、山行報告(71号・104ページ)参照。
* 台湾の地名ルビは現地地の読みによった(編集室)。

エリア別徹底研究

高野参詣道を歩く(第二回)

③ 三谷道

長坂 文男

この参詣道は、慈尊院(町石道の出発点)の西3kmにある三谷(かつらぎ町三谷)から三谷坂を登り、笠松峠を越えて天野の丹生都比売神社(天野大社)に至る古道で、天野街道とも呼ばれていた。天野からは東側を通る町石道に連絡し、天野参詣道となる。町石道の脇街道の一つである。

町石道に連絡する道は、二ツ鳥居へ登る道、神田から掛谷を経て矢立への道、真国川沿いに南下し、上志賀から梨子ノ木峠を越えて、矢立への道の三コースがあった。

この道をたどった記録として、『御室御所高野山御参籠日記』がある。平安後期、久安三年(1147)から久安六年

(1150)の4年間に五度、高野山に登り参籠された賢法法親王(白河天皇の第四王子で、京都・御室仁和寺門跡)の日記で、久安三年(1147)5月、一度目の参詣登山の復路で、三谷道をくだったことが記されている。二度目以降は往復ともこの道を利用している。

また江戸初期の儒学者、本草学者として有名な貝原益軒が著した『己巳紀行』の中で、元禄二年(1689)2月17日(新暦4月6日)にこの道をたどり、天野の丹生都比売神社を訪れ、その後二ツ鳥居を経て町石道を高野山に登ったことが記されている。

しかしながらこの二つの記録は例外的なもので、三谷と天野を直線的に結ぶこ

丹生都比売神社の楼門



の道は、地元住民の丹生都比売神社や高野山への参詣道であったと思われる。遠国からの参詣者は町石道を経て丹生都比売神社を訪れ、その後高野山へ参詣したという。

コースガイド

南海難波駅から極楽橋行きの急行に乗車、橋本駅でJR和歌山線に乗り換え、

妙寺駅で下車する。難波駅から約1時間15分。

駅前から国道24号線を横断し南へ5分程歩き、かつらぎ公園手前のT字路を左折する。東へ少し歩くと、公園内に大きな「平和祈念像」が見えてくる。昭和59年に建てられた地藏菩薩の形をした祈念像の脇を通り、紀ノ川北岸の堤防沿いを進むと三谷橋がある。

「三谷の渡し場」があった所で、明治44年に初めて木橋が架けられ、渡しは廃

止された。現在の鉄橋は昭和30年に完成したものである。

橋を渡ってすぐ右折し、狭い旧道を行く。右に「大師堂」の小祠を見て道なりに進み、県道と歌山橋本線を斜めに横断する。200m程進むと十字路があり右折する。50m程先の十字路を左に、石の鳥居と「鎌八幡」と刻まれた石標があり、左折して参道を進むと「丹生酒殿神社」がある。

『紀伊統風土記 天保十年(1809)』



三谷道付近略図

に、崇神天皇(第十代天皇)の御世、丹生明神(丹生都比売大神)が神を持ってこの地に降臨し、初めて神酒を献じたので「酒殿」の名が生じた」と記されている。境内の右奥に「鎌八幡宮」がある。昔は三谷の西隣の兄井にあったが、明治42年に合祀されたものである。社殿はなく、イチイの太木がご神体で、折願する者がこの木に鎌を打ち入ると、成就するものは深く入り、成就しないものは落ちるといふ。現在も多くの古い鎌がイチイのご神木に打ち込まれたままになっており、大変にめずらしい光景である。

神社を出て、左(西)へ50m進むと三谷坂入口で、右角に明治18年に建てられた「天野大社参道」と刻まれた石道標がある。

果樹園(ミカン・梅)の中をゆるやかに登ってゆくと、谷沿いの道からやがて尾根道となる。登るにつれて紀ノ川流域の展望が広がるようになる。途中まで簡易舗装された三谷坂は、現在も農道として利用されている。221m標高地点手前に、左から教良寺からの道が合わる四叉路があり、右端の谷沿いの道を進むと果樹園や水田の広がる谷を右下に見な

から登って行くが、次第に急坂となる。教長寺分岐から25分程登ると三叉路(標高3400付近)があり、左へ尾根を捲いて行く。谷を左下に見て登るようになると、道の両側は果樹園から杉の植林地に変わる。「平成の町石道ウォーク」と書かれた真新しい道標の所から少し登った所で簡易舗装は終わり、地道となる。10分程右へ進むと「頬切り地蔵」の道標がある三叉路で、道標にしたがって右へ進む。50分進むと小平地があり、右隣のあずまやの下に「頬切り地蔵」がある。

高さ70m、長さ2分余りの岩の三面に大日如来・阿弥陀如来・釈迦如来が浮彫りされている。正面(北)の大日如来の頬が少し切れている(岩の割れ目)ことからこのように呼ばれているが、地蔵尊でないのに何故「頬切り地蔵」と呼ばれているのか不思議な気がする。いつ頃彫られたものか史料もなく不明だが、傍らに立つ常夜燈に江戸後期、文化六年(1806)の年号が刻まれていることから、江戸後期以前ということになる。三叉路まで戻り、杉の植林地のなかを20分ほど急登すると笠松峠に着く。県道

志賀三谷線(昭和55年完成)が横切っており、昔は大きな一本松があったというが、今はない。

ヘアピンカーブの県道を右へ半周すると、右に旧道入口がある。「山火事防止」の標識と赤テープが目印で、10分程登ると明瞭な山道と出合う。道標にしたがって左(南)へ10分程くだると、のどかな田園風景の広がる天野の里に出る。

天野は標高450〜480m、紀伊山地北縁の盆地で良質な米の産地である。近年は高原野菜・切花用菊の栽培なども盛んである。また天野は高野山と関係の深い「歴史の里」であり、物語・伝説も多く伝わり、旧跡も多いが、詳細は「④天野・笠木道」で述べる。

水田脇の小道をくだり、県道を右へ200分程進むと、左に丹生都比売神社入口の大鳥居が見えてくる。

丹生都比売神社は天野大社(神社、丹生四所(四社)明神社とも呼ばれ、延喜式内大社である。祭神は丹生都比売大神(丹生明神)・高野御子大神(狩場明神)他二神で、高野山の守り神として信仰され、高野山と深い関わりをもっている。鳥居をくぐり、境内に入ると、朱塗り

の太鼓橋がひときわ目を引く。さらに参道を進むと、正面に威風堂々とした二重入母屋造・檜皮葺の楼門がある。室町中期の様式を示し、国の重要文化財に指定されている。楼門の後方には、室町中期に再建された極彩色の四棟の社殿(国の重要文化財)が立ち並んでいる。

また境内の北東端に「石造五輪卒塔婆群」がある。中世、山伏が峠入り修行を終えたしるしとして建てられたもので、修験道史研究の貴重な資料である。鎌倉後期、正徳六年(1293)から南北朝初期、延元元年(1336)に建てられた四本の石造五輪卒塔婆は、県の指定文化財になっている。

丹生都比売神社から県道に出て、南へ進むと三叉路がある。左の旧道を5分程歩くと、「平家物語」や「源平盛衰記」の悲話の主人公「有王丸の墓」がある。少し先に二ツ鳥居分岐があるが、そのまま直進する。100分先にT字路があり、左折する。紀伊高原ゴルフ場へ続く車道を横切り直進、左に工事中の農業用溜池の堰堤を見ながら進み、山裾のやや右寄りの所から左上する山道(高野参詣道の旧道)がある。

支尾根を15分程登ると、再びゴルフ場に続く車道に出る(右にゴルフ用品の大きな看板あり)。5分程車道を進むと、左の小谷に「大師の水呑」と呼ばれる水場がある。

現在は伏流水が少し湧き出ている程度である。傍らに江戸末期、安政六年(1859)に建てられた自然石を加工した大きな石碑(高さ2m超)がある。参詣者の道中安全を願って立てられたもので、「高祖弘法大師、為参詣安全」と刻まれている。

この先旧高野参詣道は峠を越えて、神田から掛谷へとくだるが、ゴルフ場の中を通るため通行不能、ここから引き返すことになる。5分程戻ると、先ほど登ってきた旧道分岐があるが、曲がりくねった車道をくだって二ツ鳥居分岐へ戻ると、分岐から100分程進んだ左に「待賢門院の墓」の案内標識がある。

林のなかに、待賢門院(平安後期の鳥羽天皇の皇后)の墓と伝えられる、素朴な一石五輪塔が二基ある。最奥の茅葺きの民家の所で舗装道は終わり、よく踏まれた山道となる。20分程登ると町石道の二ツ鳥居に着く。傍らの展望台からのどかな天野の里が一望でき、心がやすまる。二ツ鳥居から左へ町石道を5分程進むと、二四町石の立つ古峠で右へくだる。杉・檜の植林地のなか、しばらく急な下りが続くが、果樹園(ミカン、柿畑)が見れると傾斜はややゆるむ。やがて地道から簡易舗装された道となり、小滝のある谷を渡り、谷沿いの道をくだる。上古沢の集落が現れ、左上には上古沢の駅が見えている。

集落の中の小道をくだり、国道370号線に出て少し左へ行くと、右にガードレールのある道があり、その道をくだる。不動谷川に架かる上古沢大橋を渡り、道標にしたがって集落の中の小道をジグザグに登って行くと、南海上古沢駅に出る。(平成15年3月29日歩く)

Aコースタイム▼
JR妙寺駅(30分) 丹生酒殿神社(1時間) 頬切り地蔵(20分) 笠松峠(25分) 丹生都比売神社(40分) 大師の水呑(25分) 二ツ鳥居分岐(30分) 二ツ鳥居(10分) 古峠(1時間) 南海上古沢駅
△地形図V2万5千II橋本・高野山

新製品紹介
◆ウォーキング◆
2気室切替式短期軽走モデル

オリジナルザック & 登山用品専門店
神戸ザック
http://www.h2.dion.ne.jp/~kobezac

イモック山遊行くらぶ
○11月18日(日) 数珠の大きな山登 鳥ノ山(1309.9m)
○12月21日(日) 忘年登山 六甲山系を歩く
詳細はお問い合わせください。イモック 山遊行くらぶ

★32/★
カラー ミントグリーン×モノクロ
マゼンタ×モノクロ
重量 1500g
素材 高密度ナイロン
価格 ¥15,000

★28/★
カラー マゼンタ×モノクロ
ネイビー×モノクロ
レッド×モノクロ
重量 1400g
素材 高密度ナイロン
価格 ¥13,000

・両面内ジッパー付き小ポケット
・P&Aフレーム内蔵により体型に合わせて形状を
変えることが出来る。ザックの型くずれを防ぎます。
・右サイドファスナー付片側は
内ポケット、もう一方は内部への
アクセス用
・フロントポケットはメッシュと
ゴムコード付
・内部の仕切りフラップの開閉に
より1〜2気室に切り替えて
使い分けを可能に。
・立体裁断により体にフィットし
疲労感を軽減します。

TEL (078) 621-5851
FAX (078) 621-3528
営業時間/10:00-20:00 日曜日不営業

高野参詣道を歩く

④ 天野・笠木道

今回は町石道沿いの名所旧跡と、高野山と関わりの深い物語・伝説が伝わる天野の旧跡を訪ねて歩く。南海高野線の九度山駅で下車、坂道を下り、五ツ辻を直進する。丹生川に架かる二つの橋を渡り、少し歩くと右にガソリンスタンドがあり、その傍らに「真田庵」入口の案内標識がある。

真田庵（善名称院）
真田庵は、関ヶ原の戦いで敗れた真田昌幸・幸村父子が高野山に流罪になり、その後この地に隠棲した真田屋敷跡である。江戸中期、寛保元年（1741）に、地元九度山出身の大安上人が屋敷跡に一堂を建立し、地藏菩薩を安置したのが寺の始まりである。

大安上人亡き後、代々尼僧が住職になったことから通称真田庵と呼ばれているが、正式名は善名称院である。白壁の築地塀を左へ進むと、長屋門（表門）がある。門をくぐると、左奥に城郭を思わせる重厚な八棟造（八棟は棟が多いの意）の本堂がある。

その前庭、玉壇の中にこの地で亡くなった昌幸の墓があり、その後方に元和元年（1615）、大坂夏の陣で戦死した幸村とその子大助の供養塔（宝篋印塔）がある。その右に、真田家の守り本尊毘沙門天と、昌幸・幸村・大助三代の霊が祀られている真田地主大権現の堂がある。また真田庵はボタンの名所として知られ、真田父子をしのんで、毎年5月3日

5日行われる真田祭に彩りを添える。真田庵を後に丹生橋を渡り、20分程歩くと慈尊院がある。

慈尊院
慈尊院は平安初期、弘仁七年（816）に空海が高野山開山のおり、山麓の寺務所として建立された寺で、「高野政所」とも呼ばれていた。またこの寺は空海の母公が亡くなった所と伝えられ、女人禁制の高野山に対して「女人高野」と呼ばれ、現在も女性の参詣客が多い。

北門（表門）をくぐると、左に弥勒堂（御廟）がある。檜皮葺、宝形造の優美な堂で、内部に本尊の木造弥勒菩薩坐像が安置されている。平安初期、寛平四年（892）の銘がある秘仏で、昭和36年、文部省の調査で初めて存在が確認され、昭和38年国宝に指定された。秘仏で普段は見ることができないが、高野山開山1200年祭に合わせ、2016年に御開帳の予定だという。

弥勒堂の前に、大正十三年（1924）に再建された拝堂（本堂）があり、その右に江戸初期、寛永年間（1624～44）に再建された多宝塔がある。均整のとれた安定感のある塔である。多宝塔横から

百十九段の石段を上がると、丹生官省符神社がある。

丹生官省符神社
弘法大師が慈尊院を開く時、鎮守社として丹生都比売大神・高野御子大神の二神を祀ったのに始まる。拝殿の後方に三棟の極彩色の本殿がある。室町後期、天文十年（1541）に再建されたもので、一間社春日造、檜皮葺の本殿は国の重要文化財である。

江戸時代は「神通寺七社明神」、明治以降は「丹生神社」と呼ばれ、「丹生官省符神社」と呼ばれるようになったのは、第二次世界大戦後のことである。丹生官省符神社の横から町石道に出て2～3分歩くと、右手の低い尾根上に、勝利寺の朱塗りの楼門（仁王門）が見えてくる。

「鬼瓦に江戸中期、安永二年（1773）の銘があることから、その頃完成していたと考えられる」とある。本尊十一面観世音菩薩は、弘法大師42歳の時、厄除けのため彫刻したと伝えられている。境内の北側に、九度山町の伝統ある手漉き和紙、高野紙製法の伝承を目的でつくられた「紙遊苑」があり、手漉き和紙の体験学習もできる。

町石道分岐まで戻り、町石道を南へ進む。広城農道を横断し、谷沿いの道はやがて果樹園の尾根を捲く道となる。展望台を過ぎ、山崎からの車道を横切り、果樹園と植林地が混在した雨引山山腹を捲いて行くと、雨引山分岐がある（勝利寺から約1時間）。左へ少し登るとT字路の鞍部があり、左の尾根沿いのよく踏まれた山道を10分程登ると、疎林の雨引山山頂に着く。

雨引山
「かつらぎ町史 1968年」に「雨引山は（大目山）ともともと呼ばれ、大日如来像を祀っていた。昔は高野先達（高野聖）が毎年四月、護摩修行したと伝えられている」とある。神域を囲む鉄柵の中に自然石の石碑があり、石碑に「バン（大目如



天野・笠木道付近略図

来の梵字、善女龍王」と刻まれている。

雨引山は双耳峰で、30分程低い北のピークに、4等三角点(山名雨引山)がある。雨引山分岐まで戻り、町石道を南へ進む。40分程歩くと、六本杉峰に着く。

道標にしたがって、左前方の八町坂と呼ばれた天野への参詣道をくだる。よく踏まれた捲き道はやがて尾根道となり、南西に15分程くだると天野の北東端、県道志賀三谷線に出る。県道を左へ30分程進むと「貧女の一燈・お照の墓」の案内標識がある。

貧女の一燈・お照の墓

高野山奥の院、燈籠堂に「貧女の一燈」と呼ばれる(消えずの火)がある。お照という貧しい女が養父母の菩提を弔うために、髪の毛を売ってつくった金で献じたという伝説により、このように呼ばれている。

史実では「貧女の一燈」は、別名「折親(待賢燈)」と呼ばれるように、雷火で壇上伽藍の多くが焼失し、人が住めないまでに荒廃した高野山を復興するため、平安中期、長和五年(1016)、大和国(奈良県)長谷寺から登山した折親

(待賢)上人が、復興を祈念するため献じた一燈である。なお、「お照の墓」は高野山僧が供養のため建てたものといわれている。

県道を南へ進むと、丹生都比売神社がある。この神社については「③三谷道」で記述したので、ここでは省略する。神社の少し南、三叉路手前左にかつらぎ町観光協会が建てた立派な「歴史の里」天野」の案内板がある。実際現地を歩いてみると、個々の旧跡の場所がわかり難く、説明板も半ば文字の消えかけた古いものばかり、何とか整備してほしいものである。

三叉路を右へ150分程進み、県道左側のコンクリートブロック被覆の終わったところで、左の畑のあぜ道を進む。案内標識がないので注意。前方の小丘の茂みのなかに「西行妻娘の宝篋印塔、鬼王団三郎の墓」がある。

西行妻娘の宝篋印塔、鬼王団三郎の墓
小丘の頂上部に、塔身の四面に仏が刻まれた二基の宝篋印塔がある。基礎の銘文から、南北朝時代に、西行(平安末期の僧、家集(山家集)で有名)の妻娘を供養するために、比丘尼(尼僧)によって

建てられた供養塔であることがわかる。

宝篋印塔の後方に四基の五輪塔がある。鎌倉初期、建久四年(1193)富士の裾野で、父の仇工藤祐経を討った曾我兄弟の家来、鬼王と団三郎の墓と伝えられている。県道に戻り、南西に300分程進んだ丁字路手前、左の高台に西行堂がある。

西行堂、西行妻娘の墓

平安末期の有名な僧、西行(俗名佐藤義清)は23歳で出家、高野山を拠点に全国を旅したという。西行の出家後、2年程して妻も出家、天野で庵を結んだ。娘も15歳で出家し、母の元で仏道修行に励んだという。

西行堂は、西行および妻娘亡き後、その徳を慕って天野の里人が建てたものである。現在の堂は「紀伊国名所図会第三編 天保九年(1838)」の押絵を参考に、昭和61年に復元されたものである。

西行堂の傍らに西行妻娘の墓と伝えられている小ぶりの二基の五輪塔がある。西行堂から50分進むと、左に「横笛の恋塚」の案内標識がある。

横笛の恋塚

小高い丘の中央、畑の傍らに「平家物

語」の滝口入道(平家重盛の家臣、俗名斎藤時頼)と、横笛(建礼門院の侍女)の悲話

で有名な横笛の供養塔(宝篋印塔)がある。滝口入道が高野山に登ったことを聞き、高野山の麓天野の里で庵を結んだが、ほどなくして19歳で亡くなったという。現在ある供養塔は昭和56年に建てられた新しいものである。

県道を南へ150分程進み、三叉路を左折、旧道を東に進む。二ツ鳥居分岐から120分程丹生都比売神社方向に進むと、「有王丸の墓」がある。

有王丸の墓

「平家物語」や「源平盛衰記」の悲話として知られる、有王丸の墓と伝えられている。有王丸は平家を滅ぼそうとした策略が漏れて、鬼界ヶ島に流された俊寛僧都の召使である。主人を尋ねて島に渡ったが、俊寛は苦惱のため亡くなった。有王丸は主人を弔り、遺骨を持ちかえり、高野山に登って納骨したのち出家、全国を修行して歩き、主人の菩提を弔ったという。

二ツ鳥居分岐に戻り、二ツ鳥居方向に100分程進むと、左に「待賢門院の墓」の案内標識がある。

待賢門院の墓

左へ30分程進んだ林のなかに、待賢門院(平安後期の鳥羽天皇の皇后、崇徳天皇、後白河天皇の母)の墓と伝えられている。二基の素朴な一石五輪塔がある。西行の家集「山家集」に「待賢門院の侍女、中納言の局、小倉を住み捨てて、高野の麓天野と申す山に住まれけり」とあり、また「ふるさとかつらぎ(かつらぎ町役場編)1988年」も、「里人は待賢門院の墓といっているが、院に仕えた女官、中納言の局と考えられる。」と記しており、中納言の局の墓である可能性が高い。

ここから30分程東へ登ると二ツ鳥居があり、さらに町石道を南へくだり、神田の地藏堂を経て、笠木峠まで約1時間かけて行く。笠木峠で町石道と別れ、左へ進む。薄暗い植林地の道は簡易舗装されているが、半ば落ち葉におおわれている。急な道を10分程くだると笠木で、不動谷川の左岸、急斜面の山腹に民家が点在している。車道を東へジグザグにくだって行くと、やがて園道377号線に出る。

園道を左(北)へ400分程歩くと、右に細い車道(ガードレールに3・3キ

ロ)と書かれた小さな標識がある)があり、くだって行く。鉄塔の傍らを通り、不動谷川に架かる不動橋を渡る。右に不動明王を祀る小祠があるが、左の山道(旧道)をたどる。5分程進むと三叉路があり、道標にしたがって左へ進む。右に二軒の物置小屋を見て、少し進むと左に民家が現れる。地道から舗装道になり、南海高野線に沿って歩くと、上古沢駅に着く。(平成15年4月6日歩く)

▲コースタイム▼

南海九度山駅(10分)真田庵(20分)慈尊院(15分)勝利寺(30分)展望台(45分)雨引山(40分)六本杉峰(20分)天野・旧跡巡り(1時間)二ツ鳥居分岐(30分)二ツ鳥居(1時間5分)笠木峠(10分)笠木(1時間10分)南海上古沢駅

▲地形図▼2万5千=橋本・高野山

▲問い合わせ先▼

九度山町観光協会
☎0736(54)2019
かつらぎ町観光協会
☎0736(22)0300

山口・福岡ルート

柴田昭彦

【山口県内ルート】

★山口県立図書館に依頼して、多数の郷土資料を調査してもらったところ、県下ののろし場についてふれた資料は多いが、旗振り伝承の記述が見つかかったのは、『小郡町史』のみであった。さらに、筆者は、相場通信にのろしを用いたという別の資料をかううじて見つけることができた。

●『小郡町史』(昭和54年)には、旗振りについて「相場の変動を早聞きして、取り引き上の駆け引きにする必要から行われたものであった。明治中ごろに、下関の期米相場がこの方法で各地の業者に知らされたことがあり、本町では山手の山

上でこの旗振りがよく見受けられたものであった」とある。

★小郡町文化資料館の武重久氏によると、「商人の旗による通信について、下関(火の山)―厚狭(本山)―岐波(日の山)―阿知須(火の山)―嘉川(千見折山)―小郡(雨乞山)―山口へ、嘉川(千見折山)―陶ヶ嶽(火の山)―大阪へ、およそ、海沿いののろし場と同じ位置であったろうと思います。大阪―下関コースの場合は小郡は通過したと思います。『小郡山手の山上』とは雨乞山だと思います。山口へのコースの場合のみ利用したと思います。見晴らし良く、新年に町民が御光を迎える山です。執筆者、森重氏は他



雨乞山(左・小郡町)

ある。

★『防長風土注進案 小郡宰判之部第二』(防長文化研究会、昭和十二年)には、「一狼煙場山之事 白鹿大明神前 但陸地狼煙場東は陶村観音山より受夫より西の方嘉川村雨乞山へ受次里数凡三十丁位尤津市白鹿社前受るは御茶屋へ通達のため御座候」とある。津市は小郡町の中心

部の地名である。

★小郡町文化資料館の武重氏の指摘によると、「下関市前田の火の山(268・2丁)―小野田市の竜王山(厚狭郡西須恵本山。北峰の番屋ヶ辻がのろし場、136・2丁)―宇部市東岐波の日ノ山(地元では象山と呼ぶ。146・1丁)―阿知須町の火の山』は、同じピークを小郡方面から見て呼

んだもので、日野山、日の山とも言う)―山口市嘉川の千見折山(186・6丁)―山口市陶の南方に位置する陶ヶ岳(観音山、252丁)または火ノ山(303・6丁)―大阪方面―千見折山―小郡町の雨乞山―山口」という通信ルートが想定できることになる。これらのポイントは、のろし場としては用いられたであろうが、旗振り場であるかどうかの確認はできていない。中継の基点は、下関の相場会所であったであろう。

●下関市前田の火の山(268・2丁)は、角川地名大辞典によると「山名は敵の来襲を都に知らせる烽火場があったことに由来」とあり、明治23年、一般人立入禁止の要塞地帯となり、戦後、長期計画で公園が整備されていったという。明治6年当時には、ここが旗振り場であったのであろう(福岡県内ルートを参照)。

★『下関の伝説』(下関市教育委員会、昭和46年)には、のろしの経路として「下関の火の山から殖生(はぶ)の火の山、厚狭(あさ)の日の峯山、小野田の番屋ヶ辻、宇部の宇部岬、吉敷郡東岐波の日野山、秋穂の火の山、というぐあいには山づたいに知らせていきました」とある。



山口県内ルート

日の峯山は、山陽町日峰山(日ノ峰山、1483)である。その南方には、山陽町津布田の火ノ山(114・6)もある。秋穂町の火の山は菅倉の北にあり、菅倉山ともいう。

●井上祐「萩往還の狼煙山」(山口県地方史研究)第70号、1993年10月、58、62頁には「青海の農家には、明治の頃に米相場連絡の爲、三角山が狼煙山で、鳳山と結び、山口―萩間を狼煙で連絡をしたと、口伝が残っている」とある。青海は萩市橋の字名である。三角山は青海の南方にあり、標高354・0。三角点が置かれたので、この名がある。鳳山とは、山口市の北西境の東鳳山(734・2)と西鳳山(741・9)を指している。立地から三角山と通信できるのは東鳳山である。山口市教育委員会に問い合わせたが、市域には米相場通信に関する文献も伝承もないとのことであった。

★福岡県下には、相場通信の伝承が残る。服部英雄「景親にさぐる中世」の589頁によると、明治6年におきた筑前竹槍一揆の発端は、高倉村(嘉穂郡庄内町高倉)の村民が、高倉山(実際の地点は金園山)で米相場を通信した「目取り」に反発したことにあるという。目取り(旗振り通信)は、昼は紅白の旗で、夜は烽火を上げる数で、上方の米相場を通報したという。

★福岡県下の金園山でも、夜間は烽火(狼煙)を用いたことになっているが、山陽ルート同様、夜間には、無駄が多くて実用的でない烽火の数を用いたとは思われず、松明の火振りを用いたものと思われる。松明なら、昼の旗と全く同じ番号で送信できるからである。わざわざ違った方法をとる必要もない。こういった誤伝は、当時の史料の記録者が、旗振り

古老に知るものがあるとの事を伝聞して知人を介して調査したが其の目的を達し得なかつた」とあるが、福地「江戸時代の交通文化」(刀江書院、昭和6年)の82頁には「下関の古老は炬火をも使用せし由を物語れり」とある。炬火(たてあかし)は松・竹・葦を束ねた「松明の火」をい、篝火(かがりび)は木や竹を四角に組んだ「粗木の火」をいう。この古老の証言は重要である。すなわち、山陽ルートがやはり、狼煙ではなく、松明の火振りであったことを示しているからである。色薄(色彩篝火)というのは、硫黄・樟腦等の発光剤を加味して、色の区別を以て符号とした火煙・火焰のことであり、狼煙による相場通信の方法と見られるが、そのような方法が実施されていなかったから、福地氏は目的を達しえなかつたのではあるまいか。小野秀雄編「新聞資料明治話題事典」(東京堂出版、昭和43年。新装版、平成7年)の「狼火」の解説では、「青・白・紅・黒・紫の五色の煙りで信号にしたこともある」と述べているが、筆者の印象では全く実用的ではない(無駄が多すぎて不経済である)。やはり、山陽ルートにおいても、昼は旗振り、夜は松

火振りの仕組みについてほとんど知識を持っていないために起きたのではないかと思われる。伝聞のため、炬火(松明の火)と篝火(粗木の火、烽火・狼煙)を混同してしまつたのだろう。

★紫村一重「筑前竹槍一揆」(葦書房、昭和48年)の45、46頁には「馬関の日の山から始まり、順次小倉の足立山、黒崎の帆柱山、福岡と小倉の県境にある福知山それからここ金園山へ、さらに秋月の古処山を経て、遠く筑後の箕山に受け継がれ、若津の米相場所へ送られていた」とある。服部「景親にさぐる中世」では、「馬関(相場会所、あるいは日の山)」とあり、足立山へは相場会所から直接、送信された可能性もあるようだ。

★上杉聰・石瀧豊美「筑前竹槍一揆論」(海鳥社、1988年)には「農民は、近くの金園山山頂で米相場を操作するためにのろしをあげる目取りに憤激、代表を送って交渉することになった」とある。

★「日本庶民生活史料集成13」(三一書房、1974年)には「明治六年嘉穂騒動」の史料が取り上げてあって、その解題に、事件の導火線となつた一言が次のようにある。

明の火振りであつたものと思う。島本得一編「株式期米 市場用語字彙」(文雅堂書店、大正6年)には、「旗振り」「火旗」の解説があり、「火旗 昔時相場の通信をなすに炬火を以て旗の代りに使用せしを云ふ」とあることも、裏付けとなるだろう。昼は旗、夜は火の旗であつた。

●赤間関(下関)の米相場の取引所は、「米会所」の名で神宮司町に創設されたのが最初で、文久元年(1861)には「物産会所」と改称して西南郡町に開設、さらに文久三年(1863)には「諸荷物会所」と称して、東南部町(第二次大戦以前の米商會所の地、現在の下関市役所付近)に開設している。明治初期には赤間関内各所に米会所が設けられたが、短期で移転・改称を重ねたあと、東南部町に米西会所が設立された(下関市史)。

★「ハク」という呼称を持つことから、旗との関連を考えられる山を「山口県百名山」の巻末の山名リストを参考にして、次に示そう。同じ町内に高畑山と高旗山が存在するケースが二つもあるのは注目値する。必ずしも、相場通信と関係があるとは限らないが、詳しい調査が必要

「何処の者ともしれぬ輩が高倉山の頂上で、昼は旗を振り夜は烽火をたいて上方の米相場を筑後若津に知らせている。東方小倉の足立山の信号を仲介して西方冷水峠へ送っているものであるが、この者共の行為が山神の怒にふれたのであるまいか。」

●冷水峠(283)とは、筑穂町・筑紫野市境にあり、長崎街道の難所であったという。筑紫野市歴史博物館によれば、冷水峠の旗振り場についての史料は見当たらないとのことである。

★史料「明治六年嘉穂騒動」の解題には「以上九人が動揺する農民を慰撫するため、相場火の停止を一決、金園山上の目取の詰所に登つたが、当日は休業で、不在だったので目取の宿所猪腰に到り、相場火の中止方を談判したが応ずる色はなかつた」とある。

★「日本庶民生活史料集成13」の「明治六年嘉穂騒動」に収録された「福岡県覚民秘録」には次のようにある。

「嘉穂郡猪ノ鼻村ヨリ豊前田川郡猪ノ膝村ヘノ中央ニ高山アリテ猪ノ膝山ト号ス。豊前ニ属ス。此山峯ヨリ馬関ノ米相場ヲ登ハ旗ヲ上ケ夜ハ篝火ヲ焚テ其高下ヲ博

のガイドによると、パノラマ展望の開ける山頂の西端の一番高い小台地は防人や烽火を置いた見張台だという。

★角川日本地名大辞典や『佐賀県の地名』(平凡社)によると、山名はもとは「きやま」であったが、明治22年に村名を基山としたため、区別のために山名を「きざん」と呼ぶようになったという。現在では両方が通用している。

★基山からは古処山・耳納連山・筑後川が見晴らせる。基山に旗振り山説は多田氏の想像の産物であったが、立地からは中継地点の候補地となりうると思う。ただし、基山町教育委員会によれば、地元には旗振りの資料や伝承はないとのことであった。

●大川市向島には若津の地名がある。筑後川の河口から約8km上流である。宝暦元年(1751)に久留米藩が築いた若津港があり、後に筑後米の積出港としてにぎわった。若津には米相場所があった。若津米穀取引所は明治26、30年に開設されている(上林正矩「商品取引所の知識」昭和29年、50頁)。

★福岡県下の旗振り場については、筑前竹槍一揆に関する資料以外には、現地で

の目撃証言などの記録を見つけることはできなかった。金国山以外の場所では騒動にならなかったのだろうか。筆者にとっては、福岡県内の郷土資料の調査は限定的にならざるを得ない。地元の人々による調査に期待したい。

【旗振りに関する資料の補遺】

●岡弘俊己「関西 里山・低山歩き」(実業之日本社、2003年)には、阿武山が「かつて旗振り山とよばれた」ことについて紹介されている。紹介されている山のうち、高取山、小富士山、岩戸山(其作山の項)、ボンテン山も旗振り山であるが、旗振りの話題は取り上げられていない。小富士山の別名「麻生山」を「あそうやま」と誤読しているのは、『兵庫県の山』(山と渓谷社、1999年)の影響であろうが、『姫路の山々』(中島書店、1996年)にあるように「あさおさん」が正しい。

●清水正弘・吉田尚・蒲田知美「イラストで歩く 関西の山へ行く」(南々社、2002年)にも阿武山が「旗振り山」であったことが紹介されている(51頁)。

03年)には、天狗山、西大平山が旗振り山であったことを紹介している。操山の項目では、「旗振台」とあるが、旗振りについての説明はない。この本は、本誌70号で紹介した守屋益男編『岡山山の百選』(山陽出版社、平成4年初版、平成8年改訂版)の新版であり、西大平山の旗振台についての記述が引き継がれている。天狗山については、本誌69号で紹介した中島篤巳『岡山百名山』(葦書房、2000年)の記述とはほぼ同じであり、参考にしたことがうかがえる。

●岡本良一・脇田修監修、大阪民主新聞社編『地名は語る 大阪市内篇』(文理閣、1982年)には次のようにある(酒井一執筆)。「米相場を広く伝達するために、いろいろな方法がとられたが、蔵米値段をかきあげた木版づくりが連日速報、配付されたが、幕末からは一メートル四方の旗をふって知らせる旗ふりの通信がはじめられ、明治末年まで名物の一つでもあった。」(つづく)

(平成13年5月11日成稿、11月13日補訂)
(平成14年2月17日追補、8月27日追加)
(平成15年6月28日補遺)

三角点を訪ねて ②5

連載

滋賀県最北の山、音波山

おと なみ やま

湖北

磯部 純

山行前夜に天気予報を聞くと、午前午後共10%であった降水確率が、朝には午前50%、午後60%へと変わっていた。これまで金谷さんと2人だけで出かける山行の日は、どうしたわけか降水確率が高く、山行中止になることが多かった。

「金谷さんは雨男かなあ……」と言うと、「自分の方が雨男じゃあないの」と、うちのの人に言われてしまう。本来ならこの日は、山本さんの希望で美濃の五蛇池山へ登ることに決まっていたのだが、彼は都合が悪くなり不参加。それにいつもいっしょに登ってくれていた彼女たち2人も駄目。結局、金谷さんと2人の山行になってしまい、音波山へ登ることに変

更したのである。時間があれば栃ノ木峠の西にある初ヶ岳三角点をも訪ねることにして……。

音波山は滋賀県最北に位置し、福井県との県境にある山である。山といっても、県境に連なる盛り上がりの一つに過ぎず、もともと山の名前は無かったが、そこに設置された三角点、点名「音波」から、一部の岳人に音波山と呼ばれるようになったようだ。もっとも、この山頂が余呉町半明の東から北へのびている大音波谷の源頭に当たることから、音波山と呼んでも、何らおかしくない。有名な山でも展望がすばらしい山でもないが、滋賀県の三角点を訪ねている三角点病の私にとっ

ブナ林の巡視路を歩く



ては、見逃せない山の一つだった。

7時にJR山科駅で金谷さんの車に乗り、走り出すとフロントガラスに雨が……。いつもなら経費節減と高速道には入らないのだが、午後には雨になる確率が高かったため、できるだけ早く着けるようになど、名神・北陸道と走り継ぎ、木之本へと向かう。名神を走る間も水滴は落ちていたが、空には薄雲が広がっているだけで、

大降りになる気配はない。権坂峠、中河内の集落を過ぎると栃ノ木峠も間近。送電線が見えた所で、巡視路の取りつきを探すために右手のベルク余呉スキー場への道を登るが、巡視路らしい道が見つからない。仕方なく引き返し、峠南の道広場、お堂の前へ駐車した。

金谷さんの古い記憶を頼りに、お堂の脇から右手の道もないやぶの尾根に取りつく。雑木林のやぶをかき分け斜面を登っていくと、すぐに古い道跡に出会う。取



付口のわからなかった地形図にある破線の道らしい。道はやぶにおおわれ、落ち葉が厚く積もっている。足元にはチチタケ・ベニタケ、その他食べられそうなキノコが顔を覗かせていた。その道を登っていくと、やがて1分幅もあるような立派な道へ飛び出す。どこへ行き着くのか、道にそって電線がのびている。登って行くと送電線鉄塔が現れ、この道が地形図の破線道だとわかった。この破線路が送電線巡視路になっていたのである。傾斜がゆるくなり尾根にのると、低い木々の間から、右手にのびる尾根の先に、ベルク余呉スキー場の削り取られた山肌が痛々しく広がっているのが見えている。巡視路が北を向くと、雑木林の間から県境の山々の連なりの上に、チョコンと音波山が頭を出していた。

ゆるく登ると送電線鉄塔。西方の展望が開け、目の前に今庄365のスキー場が広がっている。その右奥には木ノ芽峠の西にある鉢伏山が横たわり、その左に西方ヶ岳から蝶ヶ岳・野坂岳が薄曇で描いたようにボンヤリと霞んで見えている。

足元にはアキノキリンソウが点々と黄色い花を咲かせ、時折、ツルリンドウの赤い実が色をそえていた。リンドウやセンブリも咲いている。道が北へのびる尾根にのり、Uターンして東南へ向かうと、その北斜面は美しいブナ林。その林に見えながら歩いて行くと、突然、目の前に電波塔の不気味な姿が現れる。こんな人里離れた山の中で、自然林を見るのは心が安らぐが、人工物に会うと不気味な感じがするのはなぜだろうか。

再び、送電線にそって歩く。尾根は高い木が切られた明るい尾根。しかし、やぶが丈をのばし、あたりの景観を見る術はない。やがて、最後の鉄塔へ着く。「ラッキー、巡視路が尾根にのびている」と喜んだのも束の間、巡視路は斜面をくだったってしまっただけだった。

ここから巡視路と離れ、やぶ尾根へ突っ込む。地形図には県境の破線にそって道の印の線が入っているが、道のある様子は全くない。尾根にのると、ササの生い茂ったゆるやかな尾根が東へのびている。しばらくの間、ササをかき分け進んで行くとブナの林に入る。30〜40cmもあるブナの林で、その中に何本かは二抱えもある

る太い立派な木が混じっている。写真に残したいような情緒ある林だが、ポイントとなるものがなく、写真にしてみようと平凡になってしまいそうだ。そこだけは古い道か、かすかに道らしい跡も残っていた。

尾根が東から北へ曲がり込む鞍部からは猛烈なやぶ尾根になる。ササばかりではなく、冬に雪で押しつけられ斜めに生えた細い木が、すだれ状に行く手に立ち塞がる。そのやぶや木をかき分けて行くが、遅々として進まない。まさに湖北にありながら、美濃のやぶ山そのもの。話に聞いた高丸のやぶとどちらが厳しいかと思いつながらの登りであった。

傾斜がゆるくなり、長いピークのはずれにのると、やぶはいちだんと濃くなる。右に左と廻り込みながら北東へと進む。ふと気がつく、やぶのなかに古い赤いテープが下がっているではないか。私たちと同じような物好きが、この尾根のやぶを漕いで三角点へ向かったのだと思うと、なぜか嬉しくなってくる。

やっと三角点が近くなったと思われる地点に来ると、やぶも薄くなり太いブナの木が目立つ林へ入る。最高点へ近づくと

と直径が2分近くもありそうなブナの木が一本あり、堂々とその偉容を誇っている。その木を廻り込み、南の林の切れ目からササをかき分け南へ出ると、ポッカリと2層四方程の広場があり、三角点はその広場の中央に立っていた。広場の南側は1層程の丈のササで、その上から見える南に広がる展望は最高。

点名「音波」、標高872.6分である。三角点の等級は3等、標石は3等、標石の南を向いている。角もすっかりしたきれいな三角点標石だった。

広場に立つと、南に大黒山が墨で描いたように影を浮かせ、左には県境尾根が連なっている。その間から頭を出しているピークは上谷山だろうか？ 右手には山肌を削ら



山の版画家・松田敏男が10年の歳月をかけ、日本の山々を明澄な色彩で、豪快かつ繊細に表現した珠玉の版画集。
 高アルプス・北アルプス・大雪山・白根地域の山々……また、樹林や山の花など、日本の山の季節の移ろい。山への愛情に満ちた目で一筆に描いた自然の息づき。
 シルベスタリアン4点と動物4点に加え、四季折々の心情を吐露した4本のエッセイで構成。
 A4判・上製本・カバー・28ページ 定価・本体2,800円＋税 (東京新聞出版局刊)
 サイン本を定価2,940円で販売いたします。ご希望の方ははがきにお名前・ご住所・お電話番号を明記の上、下記まで申し込んでください。「光る山山」に郵便局払込取扱票を入れてお送りいたします。
 〒610-0121 城陽市寺田今堀52-97 松田敏男

れたベルク余呉スキー場があり、かなたに行き山・野坂岳・西方ヶ岳が霞んでいた。
 まだ日時を過ぎたばかりだが、昼食とする。空は春霞みのようにボンヤリしていたが、幸いにして雨はまだくる様子もない。この2人だけの山行の時には、いつも昼食時間が短い。食べるものを食べ終えると、もうザックの中へしまひ込み、

歩く準備を2人のどちらかが始める。わずか25分の食事時間をとれば、もう出発だ。なかに守山の彼か女性たちがいっしょだったら、もう少しゆっくりできたに違いないが……。

帰りは登ってきたルートに戻る。猛烈なやぶも、尾根をはずして下を歩くと少しはまし。それでも登りとあまり変わらない時間を費やし、巡視路まで戻る。巡視路に出たらその道に戻るだけ。途中、往路で位置を確認し損なったバラボラアンテナの北にある4等三角点、点名「栃ノ木」、標高765・0がへ挨拶する。上を見ると壊れかけたトンボがあり、三角点があるとわかったはずだが、ここを通った時にはアンテナに気をとられ、全く三角点の存在を見逃していたのだ。三角点を撮った後、巡視路を引き返す。先程のやぶと比べると、何と歩きやすいことか。最後の鉄塔でゆっくりあたりを眺めながら休んだが、栃ノ木峠の駐車場へ下山したのは13時25分。雨もまだ来ておらず、帰るには早過ぎる時間だった。

二度とこのあたりの山に来ることはないだろうと、栃ノ木峠の西県境、初ヶ岳にある三角点、点名「恋谷」を訪ねるこ

とにした。三角点はスキー場の最長リフトの降り場あたり。スキー場管理事務所の女の方に許しを得て、シート滑降コースに付けられたコンクリートの道を登る。フウフウ言いながらコースを登りつめ、一番高い地点を探すが三角点はない。よく地形図を見ると、三角点の位置はリフトの降り場から20分程西に当たるが、ピークが削られ広い平坦な広場になっていった。移設されていないかと、念のために広場の隅から隅まで探し廻るが、全くそれらしいものを見つけない。これはできなかった。おそらくこのスキー場を建設する時に、山を5分程削り取って、その折にどこかへやってしまったのだろう。帰宅したら移設先を国土地理院へ問い合わせることにして、探すのはやめて下山。

せっかくなら「もう一つの三角点を見ることができる」と勇んで登ってきたのに、三角点が無いとわかった途端、疲れがドツと出てきた。おまけに雨まで降り出してきて、まさに踏んだり蹴ったりとはこのことだった。

駐車場へ14時45分に戻る。木之本まで帰ると雨は本降りとなった。もうこの山

へは再び登ることはないだろうと別れを告げたのだが、まさか翌年に新ハイの例会で皆さんといっしょに歩くことになるとは、夢にも思っていなかった。

帰ってすぐ国土地理院へ、初ヶ岳にあるはずの点名「恋谷」について問い合わせたところ、「3等三角点・点名恋谷は平成5年9月1日に測量会社から不明情報があったが、現在まで復旧作業を行っていない。原則として3等三角点は廃点処理を行わないので、今後いつかは決まっていけないが、復旧作業を行う」との返事が来た。国土地理院も三角点が消失したことは聞いていたようだが、9年も経つのに、まだ現状調査もしておらず、今後の計画も決まっていないうらかった。いずれ新しい三角点標石が設置されることだろう。その時を楽しみにしよう。(平成14年10月19日歩く)

△コースタイム▽

栃ノ木峠(20分) 尾根巡視路(1時間) 最終送電線鉄塔(50分) 音波山(1時間) 点名栃ノ木(45分) 栃ノ木峠(40分) 初ヶ岳(25分) 栃ノ木峠
△地形図▽2万5千II板取

南山城の里山歩き

たなくらひこ 棚倉孫神社から甘南備山

コースとコースタイム 近鉄新田辺駅(10分)→棚倉孫神社(60分)→西光寺前経由登山口(45分)→甘南備山(甘南備神社(昼食含め1時間15分) 展望台)(1時間)→一休寺(15分)→甘南備寺(10分)→JR京田辺駅(5分) 近鉄新田辺駅(徒歩10分、約5時間)

中村敏文

① 棚倉孫神社(京田辺市田辺)棚倉近鉄新田辺駅西口のバス発着前に集合し、北側の歩道伝いに西へ歩き、府道八幡・木津線に突き当たると右折して少し北へ行くと、丘陵先端に郷社に昇格した棚倉孫命を祭る棚倉孫神社が鎮座する。

延喜式の大社で祭神はニギハヤヒノ命の子で高倉下・手栗彦とも呼ばれ、手栗が変じて棚倉孫となったという。当社の由緒は不詳だが貞観の神位は従五位上に叙せられた。古代に中国大陸より渡来した秦氏らが米作と養蚕を広めたとされ、棚倉は養蚕用の棚のある小屋ともいう。

東面する本殿(重文)は一間社流造の松皮葺、拝殿は三間二面の柿葺入母屋

造で唐破風の向拝付である。稲荷・春日・八幡・多賀・天照大神等の末社は八社。明治初年に廃寺となる松寿院の一部分が広い社務所となっている。以前は天神社らしく、本殿前右手の石灯籠には「奉天神御宝前城州田辺南因幡守祐海」と天正二年(1574)の銘がある。

② 西光寺前経由登山口(京田辺市新)甘南備山頂で昼食をと、一休寺・新能金春芝跡を素通りして西光寺へ向かう。市道は西南方向に向きを変え、甘南備山2・3の道標を見て、薪小学校の下を過ぎ京奈和高速道の下を抜ける。右手は見事に管理されている立派な竹林が続く、

棚倉孫神社



棚倉孫神社から歩き続けて50分で甘南備山の北登山口に到着する。

③ 甘南備山(京田辺市新)近世の新村は百数十戸の農林業の村で古代は石清水八幡宮の荘園、薪荘であった。村の西南部の甘南備山地は集落・耕地の二倍あり、多様な雑木が密生している。当地域は早くから開発された土地柄



甘南備山頂の展望台

洗いのある休憩所でひと休みする。休憩所の近くで多くの子どもたちが崩れた山肌で水晶を探している。甘南備山の太住に近い尾根では昔から水晶を産出した。道路工事で露出した山肌にある水晶探しは、地元の子どものためのよい遊びである。旧下山道は溪流沿いで快適だ。勾配も修復されて展望台から半時間で下山できる。

④ 一休寺 (京田辺市新ノ里ノ内)
登山口の駐車場までひと休みして新小学校の手前から一休寺へ向かう。里ノ内は旧家の多い奥ゆかしい集落だが路地筋が複雑なので、不案内の方は往路の西光寺前を経て一休寺へ向かうほうが無難である。
400円を納めて寺内へ入ると臨済宗大徳寺派の禅寺らしい雰囲気。包まれ、案内僧に従い釈迦如来を安置する本堂から拝観する。寺僧の説明では禅宗は本堂を仏殿と呼び、室町後期の唐様仏殿建築と言う。方三間単層の入母屋造檜皮葺の方丈および玄關、庫裏・東司・浴室・鐘楼ともども重要文化財である。
方丈の三面の庭園は石川丈山・松花堂昭乗・佐川田嘉六の合作といわれ、北庭は枯山水の蓬萊庭園として有名。東庭・南庭と虎丘庵庭園を併せて国指定名勝となる。寺蔵の一休禅師木造座像や墨斎筆の一休禅師画像なども重文指定である。
寺伝には、鎌倉中期に大応国師南浦紹明が靈瑞山妙勝禅寺を創建し、元弘の乱で焼失荒廃したが、一休宗純が再興に着手し、康正二年(1456)に落成する。

⑤ 甘南備寺 (新ノ山垣内)
一休寺から東南の山麓へ向かうと、耳の仏の寺という医王山甘南備寺がある。甘南備山の南斜面にあった甘南備寺は荒廃していたが、元禄二年(1689)に地元の吉川政信ら有志が旧甘南備寺を移築したという。黄檗山万福寺の鉄堂を講じて中興開山し五代南嶺、十代大心の時代に堂宇を重修している。北面する宝形造の本堂の薬師如来座像は慈覚大師作で、耳病を治す靈験あらたかな仏として近隣の人々の信仰を集めている。
甘南備寺から近鉄新田辺駅へは寺南方の国道307号線まで数分、広い歩道を東へ歩きJR線を左折するとJR京田辺駅、JR線を過ぎ直進すると近鉄新田辺駅へ自然に入る。
両駅とも京田辺市となって拡張整備され、面目を一新している。



か、山地山麓には掘切古墳群をはじめ、西山・郷土塚・石ヶ谷・天理山古墳群など30余の古墳がある。古代は石清水八幡宮へ神所用の薪を納めていた土地である。当村の小字名には城山・城の前・城の内・城屋敷など残るが、八幡宮と興福寺春日社との対立、応仁の乱、戦国時代と小城が築城されている。大坂冬の陣には加賀藩前田利常が薪村に対陣していた。海拔217mとある甘南備山へは登山口から西へ向かって上がる。10分余りで取付口に達して南西へと登り、東へ廻り込むと展望所へ着く。ベンチも置かれたこのあたりは「昆虫の森」と呼ばれ、少し南へ上がると2等三角点のある甘南備山最高所へ到達する。甘南備山は200m前後の峰が東西にいくつもあり、蟻足のように平地に向かって尾根をのびしている。三角点から少し南へくだり、東へ行くくと甘南備神社への看板がある。桜並木の尾根道を東南へ伝うと小さい神社がある。延喜式の小社に比定される甘南備神社は明治の村社で祭神は不詳とある。甘南備寺文書によると祭神月読命と記載され、式内大社の権井の月神社、大住の月読神社は甘南備山の神を祭るとある。月読命は薩摩隼人(今来隼人)が故国から請来した神で、綴喜郡の三大

社に列している。
一休寺裏の尾根に古宮があって甘南備参拝の古道はこの尾根から通じていた。明治初年に現在の新神社へ遷座したが、古宮は新築(金春座)発祥の地である。神社への尾根筋に、南西へくだる甘南備寺跡の道標もあるが、見所のない石碑だけの寺跡であり、新田辺駅へは不便なので省略する。奈良時代に役小角が柴灯護摩の秘法を習得した土地と伝承され、行基が寺を開き『今昔物語』に神奈比寺の名称もある。中世には寺勢奮わず荒廃していたが、元禄年間に新の山垣内に再建された。
甘南備神社の東北に展望台のある休憩地があるので尾根道を伝う。簡素な木造の展望台上がると北と東の方向がよく見える。比叡山から比良山、南近江の湖南アルプスから鷲峰山、東北には愛宕山も遠望でき、今までに登山した山が懐かしい。
下山道は四方へ整備されているが新田辺駅へ近い旧下山道を遊ぶ。現在は小型車通行可能に拡張されているが普段は車は通行できない。夏場は緑一色でつまらないが紅葉谷を見て下山道へ戻り、お手

元禄の三大スターを偲んで

松永恵一

元禄時代
商人・町人、庶民の文化が花咲いた江戸時代。安定した社会の中で生活力をつけてきた庶民階級の文藝的欲求とあいまって一挙に開花した。1688年から1704年までを元禄時代と呼ぶ。

町人の姿を生き生きと小説にしたのが井原西鶴の浮世草子。近松門左衛門は、歌舞伎や文楽・人形浄瑠璃の劇文学。人の愛憎や金銭にこだわり、義理と人情の板ばさみに悩む町人が描かれた。音楽的な節回しで戯曲的な内容を竹本義太夫が物語る浄瑠璃、それを演奏する三味線、これに合わせ演技する人形。俳優松尾芭蕉が俳諧を確立した。

中世になると和歌は廃れ、連歌が興る。

五・七・五、七・七、五・七・五とどんなつなげていく五・七・五だけが独立して俳諧になってゆく。一七世紀初頭、京都の松永貞徳が平易通俗を主題として俳諧の普及につとめ、「貞門」が全国を風靡した。

一七世紀後半、貞門俳諧に飽きたらさうさらに新奇を求めて、大阪天満宮連歌所宗匠西山宗因が「談林」風を開いた。難しい約束事にとらわれず、思い切った卑俗性、滑稽味に富んでいたもので、たちまち全国に流行した。後に浮世草子でスターになる井原西鶴は、矢数俳諧で一昼夜独吟二万三千五百句の空前絶後の記録をうち立て、阿蘭陀西鶴と異名された。

井原西鶴(1642-1693)

大阪鶴屋町に住まいした町人で、本名は平山藤五。15歳で俳諧を志す。21歳で俳諧の点者。点者とは俳諧の公認判者。談林派俳諧師として、目覚ましい活躍をした。

延宝八年(1680)5月7日夕刻から8日同時刻までの一夜一日、大坂生玉神社内で行われた西鶴の矢数俳諧は、天下矢数二度の大騒ぎ四句也
の発句の通り、四千句を完成させた。矢数俳諧とは京都の三十三間堂の通し矢の古式にならい、一昼夜に句をどれくらい泳めるかを競う。貞亨元年(1684)6月5日、住吉社で、大矢数一昼夜独吟二万三千五百句奉納を行なった。

それよりさき天和二年、「好色一代男」を出版した。この本は発売当初より売れに売れた。以後西鶴は流行作家となる。
元禄六年(1693)8月10日、西鶴は大坂で逝く。法名仙崎西鶴、享年52歳であった。墓は誓願寺。辞世の句、
浮世の月見過ごしにけり末二年
このような西鶴を、松尾芭蕉は「浅ましく下れる姿」と去来抄で批評している。

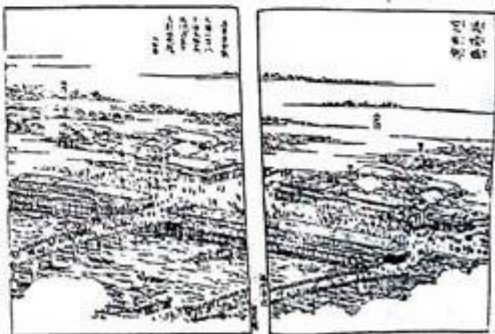
近松門左衛門(1653-1724)

越前国吉江藩士杉森信義の次男として福井に生まれる。本名は信盛。延宝五年(1677)頃、宇治加賀掾の一座で浄瑠璃を書き始める。天和三年(1683)9月京都宇治座で上演された「世継曾我」で作家としての地位を確立する。

貞享二年(1685)、大坂道頓堀に「竹本座」を旗揚げした竹本義太夫のために「出世景清」を書く。「まな板に釘かすがいを打つように、はつきりした口調で、しかも大声」義太夫論が人気を呼ぶ。
元禄八年(1695)、坂田藤十郎に迎えられ「傾城仏の原」「傾城王生大念仏」などの歌舞伎作品を執筆。「花に酔へり、其の近松の門の海老」と名作をほいほいまにした。

元禄十六年(1703)4月7日、大坂曾根崎・露天神の森で心中事件が起こる。1ヶ月後の5月7日「曾根崎心中」上演。ひたむきな恋、抜き差しならぬ葛藤がもつこい人気を呼んで大当たり。
宝永三年(1706)京都から大坂に住まいを移す。心中物を中心に色鮮やかな世界を書き続け、「冥途の飛脚」「心中天の綱島」などを次々と生み出していく。

「道頓堀芝居劇」「摂津名所図会」



れていた俳諧を高度の芸術にまで高めたのが、松尾芭蕉。庶民の日常生活の中に風雅の道を見出し、平易な言葉を用いながらも、優雅な和歌に匹敵する香り高い芸術精神を俳諧に吹き込んだ。「わび」「さび」を基調とする「蕉風」俳諧が、江戸時代俳壇の主流を占めた。

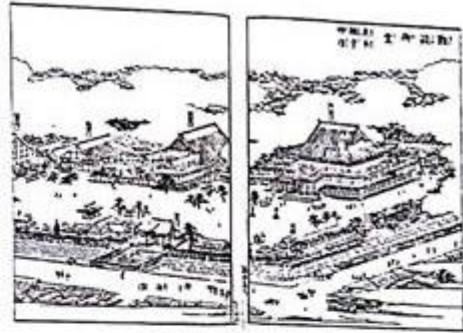
俳諧の松尾芭蕉、文楽・人形浄瑠璃の近松門左衛門、浮世草子の井原西鶴という三大スターがいたスゴイ時代であった。

松尾芭蕉(1644-1694)

伊賀国上野赤坂町に生まれる。幼名金作。号は初め宗房、後に桃青。「芭蕉」は「ばせう」となるが、本人は「はせを」と書いた。生涯に詠んだ句は10000句足らずと少ないが、よく知られた句が多い。貞門・談林俳諧を経て、蕉風と呼ばれる独自の俳諧を確立した。俳諧理念は「不易流行」、晩年は「軽み」という枯淡な境地に達している。

寛文二年(1666)藤堂鍾吟に出仕。俳諧を始める。寛文十二年(1672)「貝おほひ」を伊賀上野菅原神社に奉納。江戸に下る。延宝八年(1680)深川の草庵に隠棲。翌年春、門人李下から芭蕉の株を贈られ芭蕉庵を名乗る。

古池や蛙飛びこむ水の音
貞享元年(1684)8月中旬、「野ざらし紀行」の旅に出る。千里同行。貞享四年10月、「笈の小文」の旅に出る。翌五年8月、多数の美談の門人に盛大に見送られて「更科紀行」の旅に出る。元禄二年(1689)3月27日「奥の細道」の旅に出る。元禄七年最後の旅に出て、大坂で病にたおれる。
旅に病で夢は枯野をかけ廻る



「難波御堂」「摂津名所図会」

コース概観
江戸時代の大坂は「天下の台所」と呼ばれ、押しも押されぬ流通経済の中心地であり、独自の町人（上方）文化が見事に花開いた舞台でもあった。金銭欲や色欲に動かされる人々の生き様を余すところなく描写した井原西鶴。今に残る数々の名作を生み出した近松門左衛門。旅に生き旅に死んだ芭蕉。今に脈々と受け継がれている精神を想んでみた。



よよの栄を重ねて
民のかまどに立つ煙

地下鉄谷町九丁目駅の近くの常国寺に「塚校」の堀井基次郎の墓がある。「桜の樹の下には」の冒頭の「桜の樹の下には屍体が埋まっている」は、堀井基次郎ならではの桜の美しさの表現。

上町台地の中でもとりわけ眺望がよいのが高津神社。十返舎一九の「東海道中膝栗毛」にも登場する。十六代仁徳天皇の難波高津宮の跡。大阪市歌の石碑。

高津の宮の昔より

近鉄大阪線 上本町駅下車。近鉄本社が駅のすぐ東側にある。近鉄は大正三年（1914）上本町・奈良間を开通了した「大阪電気軌道」が母体。

上本町駅を出ると、上町筋が南北に走る。大坂城大手門前から南へ、難波宮を通り、四天王寺へとつながる道。南北に通じる道を「筋」と呼ぶ。御堂筋から東に堺筋、松屋町筋、谷町筋をして上町筋。北へ5分ほど歩くとお寺が軒を連ねる。この辺りが城・南寺町。豊臣秀吉の政策により集められた大小さまざまな寺が軒を連ねる。楞嚴寺に織田作之助が眠る。「虚弱な肉体を忘れて文学を熱愛したため、ロマンを発見したと伝説の一語を残して絶命した」と藤沢恒夫は記した。

上町筋を西に渡る。誓願寺の山門前に、「西鶴、中井一族墓所碑」が建つ。「西鶴は人文主義に徹した文豪である。中井氏は覺庵、竹山、昭軒ら父子継承して儒学を修め、私塾懷徳堂を創建運営した。」仙崎西鶴

元禄六年八月十日

下山鶴平 北条團水建

傍らに西鶴二百八十年忌の句碑が建つ。

鯛は花は見ぬ人もあり今日の月

にぎわいまさる大阪市

にぎわいまさる大阪市

生国魂神社は千日前通の南側。大坂人に篤く信仰されていた。千日前通を西にくだると国立文楽劇場。文楽はわが国が世界に誇る伝統的な舞台芸術。音楽的な節回しで戯曲的な内容を物語る浄瑠璃、ダイナミックでポリリズムのある音を響かせる太極三味線、これに合わせ演技する人形。人形を使った人形芝居・人形劇は世界各国にあるが、それは子どもを相手にしたもの。文楽は大人を対象にした大人による大人の人形劇。

堺筋を西に渡り、千日前竹林寺の前を通る。北側が道頓堀。御堂筋を北に進む。御堂筋は梅田と難波を結び、車は南行きき一方通行。秋には、銀杏並木が黄色に色づく美しい道路だ。

南御堂前の分離帯に石標が建つ。

此附近芭蕉翁終焉ノ地ト傳フ

元禄七年（1694）9月、芭蕉は、体調不良のまま故郷の伊賀上野から大坂入りする。門弟の仲蔵、住吉大社の升の市や四天王寺近くの浮瀬亭での句会など、精力的に出かける。しかし、9月29日夜から下痢を発病し、病床につく。10月5

山門の文学碑には武田麟太郎の「井原西鶴」の一節が刻まれている。

「誓願寺を出ると 夏祭り兼ねて遷宮の儀式もあるといふ生玉の方へ ひとりで足が向いてみた 季節の到来に勢ひづいた蓮池の近くの金魚屋も 大きな水桶を十幾つも並べて 郡山の金魚銀魚を浮べ 好事家を持つてみた 水も紅に染まって目のさめるやうな眺めであった。」

谷町筋に向かう。谷町7丁目の交差点からすすり南に下った所の路地の奥に、日本のシェイクスピアともいわれる近松門左衛門の墓がある。もともと妙法寺の境内であった。妙法寺は谷町筋拡張工事で大東市に移転したが、国史跡の近松の墓は現地保存された。夫婦墓で阿房院塚突日一具足居士

一珠院妙中日事信女

台石に「施主近松氏 正七」と刻む。

谷町筋を渡ると中寺町。本経寺に豊竹若太夫の墓所がある。竹本義太夫の弟子が豊竹若太夫を名乗り、独立して豊竹座を興した。師匠の竹本座は道頓堀の西、豊竹座は東に位置し、師弟が互いに競争し合い、「竹豊時代」といわれる全盛時代を迎える。

日に、之道郎から御堂前の花屋仁左衛門宅離れ座敷に移る。10月8日深更、舟に筆をとらせ

旅に病て夢は枯野をかけ廻る

の「病中吟」を書かせた。10日夕方から発熱、容体はいよいよ悪化した。11日は朝から食物を受けつけなかった。12日申の刻（午後4時頃）、51歳の生涯を閉じる。遺骸は遺言で生前好んだ琵琶湖岸にある義仲寺境内に葬られた。

辞世の句を望んだ門人に対して、芭蕉は「きのうの発句はきょうの辞世、きょうの発句はあすの辞世、一句として辞世ならざるはなし」と言ったと、花屋日記は伝える。「旅に病で」の句は、辞世ではなく、あくまでも生前最後の句に過ぎない。

▲コースタイム▼

近鉄上本町駅（5分）誓願寺・井原西鶴の墓（10分）近松門左衛門の墓（15分）国立文楽劇場（30分）芭蕉終焉の地（地形図）2万5千：大阪東北部・大阪東南部
▲問い合わせ先▼
国立文楽劇場 06（6212）2531

〈山のレポート〉

山の地名を歩く⑫
美女山

西尾 寿一

京都北部、園部の北約8kmの丹波町須知にある480mの低山にすぎないが、名前から受けるイメージが強いのか一部でよく知られている。

中世の土豪・須知氏の山城(須知城址)があった付近に古くから知られる「須知八景」があり、琴ノ滝・紅野(蒲生野)と共に「美女明月」といわれ、地元で親しまれる存在だ。「船井郡誌」は「須知八景」をもって須知の風光の優れた様子を讃えるが、八景のうちの「美女明月」で現在の美女山に出る月のすばらしさを述べる。これは「近江八景」に似た設定のように見うける。この時代の美意識には類形が多く地域の獨創性は少ない。

その美女山はすでに須知氏が城を築いた時代に存在し、寺谷の北に横たわる美女山に出る月を讃えたはずだが、山城の南山麓には、これも八景のうちの琴ノ滝

が存在する。

須知の町並の北方園地帯は「蒲生野」で「紅野」と言った。この狭い地域の低い丘陵地帯に意外にも自然美を高く評価する文化が根づいていたのである。

それでは、須知氏以前から存在したとみられる美女山の由来とはいかなるものなのか。

「地名伝説の謎」の著者で楠原佑介・本間信治両氏は「美女はいつも濡れている」と言って立山の美女平に注目するが、同じ地名学者の鏡味完二氏の説と同じく、ビジヨは湿地の擬態語でないかとするもので「地形説」の代表格である。

擬態語ではほかに「シル・ジュール・ビシヤ・ビシヤラ」などが「地名用語語源辞典」に出ており、ここでは湿地状の土地のほか崩壊地形、浸食地形などと共に特定の地方で「くず瀧」の方言をあげているが、ここでは前者をとっている。

次に柳田国男は「美女の木」の由来で「尼」といっても髪を剃ったともかざらず、姥といっても老いて醜い者のみではなかったかと思えます。立山などでは若狭のトウロの姥・美女をつれて登ったと申しま

かつては蒲の茂る野であったことを暗示している。

他の美女地名として飛騨高山の東に美女峠が、島根県横田町の西に美女原があり、共に湿地である。会津の美女峠もあって、同名の地名も思ったより多いし共通性も確認できる。したがって、美女・湿地説は80%は支持されようのだが、他の説も完全に退場したわけではない。ここでは一応湿地説に軍配をあげて、のちの研究を待ちたいと思う。

私が美女山(482・2m)に登ったのは初冬だった。須知から寺谷に入り、南に派生する支尾根に取りつき直登。松と照葉樹などの混林をすくすく小広い山頂だった。下山は尾根を東へ縦走し、横尾峠から園部へとくだった。横尾峠は今にも菅笠の旅人が通ってもおかしくないほどに古い風情だった。

なお、能登の眉丈山も付近は無数の溜池群があり、トキの棲息地として有名だった。この山は完全に湿地に由来すると思

山の本紹介

西内正弘著

『地図で歩く鈴鹿の山』

ハイキング100選

中日新聞社刊
B5版・222頁
定価1600円(税込)

前作『鈴鹿の山ハイキング』21世紀の山歩き』の第二弾。前作同様、詳しくてわかりやすいコース概念図をつけ、今回は鈴鹿のコースを100コース取り上げ、合計160山程を紹介する。右ページにコースガイド本文、左ページに参照する地図が記載されている。書店でも発売していますが、ご希望の方は直接左記の著者宛に本代同封の上申し込んでください。送料負担で御送本くださるそうです。

〒510-0302
三重県河芸町千里ヶ浜32の8
西内正弘
(TEL) 059(245)3730

あまり評価できない。このうち強いて取り上げるならば毘沙門天は都の北西に祭祀され守護する役割があり、須知城の北にある美女山がそれに当たる場合も無しとは言えない。

以上述べたように、現在までのところ、地形説と伝説の遠因説が有力として残る。しかし、立山の美女平を湿地との関連で語るのも不自然であり、丹波の美女山に立山同様の伝説があったとも思えないので同じ美女でも一個の方程式ではとても解けそうにない状況にある。

立山の美女平は他の美女石・美女木(杉)などと共に伝承・伝説のたぐいが強く影響しているとみてよいが、丹波のほうは湿地との関連でとらえるほうが無難なような気がする。

須知の城跡とみられる小山の南に琴ノ滝があり、北の寺谷は明石の先で蒲生に出るあたり一種の袋状の小野地形となっている。ここは現在すべてが田圃となっているが、かつては蒲原であった可能性が高い。しかも付近に蒲野があり、須知の町並は西の山麓線に沿って細長く張り付いている。この状況はだれがみても、

す。それは現在美女石という石のあるのを姥とは別であろうと考えて、二人に分けて説いたもので、美女石・美女木という類の名所は、結局は同じ類の旅の上の山に入って神祕の修行をした故跡にほかならぬと思います。」

柳田は美女平のことにふれていないが、これはむしろ初めに美女石や美女木があり、結果的に美女平があるとする見解のよう、どちらにしても同根のものである。

「立山と白山」を著した広瀬誠氏は美女平の由来を含むとみられる姥神の伝説を載せている。概要は、立山へ禁を破って登ろうとした若狭の尼僧止宇呂が、童女をつれて社殿建設用木材をまたいで通ったため、女人のけがれにより一夜で石となった。これが材木石でさらに神罰で美女杉となり、平が美女平になったとするものである。

この説は柳田の説と同根で、伝説の原因となったとみられる立山信仰の原形である姥神の存在のほうに注意が傾くのは自然であった。

〈山のレポート〉
《山・詩・夢》
大山

紀平 龍雄

裏大山表大山秋高し

著名な俳人のものではない。昨春秋、朝日新聞「俳壇」に選ばれていたもので、(大牟田市 古賀昭子)とあった。当時、私は健康を損ねて病床に臥し、やたらと高く青い空を窓越しに眺めていた。そしてこの句に出会い、ずっと以前、戰場の同僚たちと登った大山(1729m)を遠く思い起こしていた。

作者は福岡から車を飛ばして山陰にやって来たにちがいない。あるいは憧れの大山にも登ったのだろうか、その帰り道、大山礼賛、旅の総括の句である。山頂からの眺めは言うことなかったが、ああ、改めて見上げると平地からの眺めはもつといい。さすがに伯耆富士の名に恥じない。表からの眺めはもちろん、裏からもちいちゃんとしてほしい。雲一つない秋空が作者の心を開放した。

大山は中国地方一の名山であり、深山も百名山に選んだ。「大山」の項の冒頭で「伝説的に言えば、大山はわが国では最も古い山の一つである」と説明している。古くから信仰の山であり、中腹にある大山寺や大神山神社への参拝者は今も多い。昔から歌や詩にも数多く詠まれ、小説の舞台にもなっている。志賀直哉『暗夜行路』、主人公時任謙作は傷心の心を抱え、その整理のため、夏のはばらくを大山中腹の運浄院に籠る。そしてある夜、大山に登るが、途中で疲れ、休んでいるうちに寝込んでしまう。どれだけ眠ったか、ふと目を覚ます。末尾の、名文との評価高い叙景箇所である。

明け方の風物の変化は非常に早かった。少時して、彼が振り返って見た時には山頂の彼方から湧き上がるように橙色の曙光が昇って来た。それが見る見る濃くなり、やがて又櫻せはじめると、四方は急に明るくなって来た。晝は平地のものに比べ、短く、その所々に大きな山独活が立っていた。(略)
中の海の彼方から海へ突き出した連山の頂が色づくくと、美保の関の白い燈台

山の眺めを称して「表〇〇・裏〇〇」と言われることがある。山の顔に表裏があるのだろうか。どこからの眺めを「表」と言い、「裏」と言うのか。あるとすれば、だれがどんな基準で決めたのだろうか。美しさだけではない。その地方の中心地、例えば富士山なら静岡や伊豆からを「表富士」と呼び、山梨側からを「裏富士」と言うのだろうか。磐梯山には裏磐梯があり、私は表も裏も訪れたことがないが、しかし磐梯はどうやら裏の方が勝っているようだ。

それにしてもどうも納得できないが、大山は米子や松江方面からを「表」、あまり有力地のない山陰の海岸や内陸部からを「裏」と呼ぶのだろうか。そもそも山陽とか山陰とかの呼称にも(表日本・裏日本とかも)優劣、差別感があるように、しっくりしない。しかしこの作者は公平な人だ。裏からも表からもすばらしく、ともに「秋高し」と詠む。いや、先に「裏大山」と言うから、こちらに与しているかもしれない。

深山久弥「日本百名山」の雨飾山の項にはこんな一節がある。「あとで越後の人からの知らせによると、古い狐師の

も陽を受け、はっきりと浮び出した。間もなく、中の海の大根島にも陽が当り、それが赤鱗を伏せたように平たく大きく見えた。村々の電燈は消え、その代りに白い煙が所々に見え始めた。然し麓の村は未だ山の陰で、遠い所より却って暗く、沈んでいた。謙作は不図、今見ている景色に、自分のいるこの大山がはっきりと影を映している事に気がついた。影の輪郭が中の海から陸へ上って来ると、米子の町が急に明るく見えたので初めて気付いたが、それは停止することなく、ちやうど地引網のように手繰られて来た。地を嘗めて過ぎる雲の影にも似ていた。中国一の高山で、輪郭に張切った強い線を持つこの山の影を、そのまま、平地に眺められるのを希有の事とし、それから謙作は或る感動を受けた。

山は、とくに山の夜明けは人に何か大きなはずみを与えることがある。間もなく謙作は運浄院を引き払って京都へ戻り、また新たな気持ちで妻直子との生活を再スタートさせることになるだろう。

話では、頂上の石仏は、糸魚川地方では有名な羅漢上人という坊さんが、自身で石を刻み、それをこつこつと山へ運んだものだそうである。山にウラ・オモテがあるとなれば、雨飾山はやはり越後の方がオモテであろう。となれば、最初に開山された側が表ということになる。

大山を「だいせん」と読むのはおもしろい。近くの山を探してみると、氷ノ山・属ノ山・蒜山・人形山・船上山・鳥ガ山、いずれも「せん」と読む。本誌70号で古賀さんが紹介されているのも東山である。謙者によると、「(山)」という漢字の音読みだが、漢音ではサン、呉音ではセンである。大和の王権が強大になる以前、先進の出雲地方は中国江南の呉の影響を直接受けていたはずであり、現在のセンを使用する地域こそが、大神岳を中心とする出雲の一大勢力圏を物語っているのではあるまいか。……大山は、最も偉大な神の姿をも彷彿とさせる、文字通り大きな山の意味に違いない(谷有二「日本海を望む山の系譜」いまに伝わる山名由来)。「山の歳時記」(六所収)と説明されている。

私には小野十三郎の「山陰紀行」帰り旅に大山にかかる雲を見ながら」という詩の印象が強い。彼は大阪の生んだ詩人である。

まだ明るい空に
伯耆大山が見えた。
頂に白い雪がなだれていた。
この地で二十五年ぶりで会った友は
日本山岳会山陰支部と刷った名刺を出し
酔って呂律のまわらなくなった舌で
いまは大山が相手だ、といった。
考えると人間はいろいろな生き方をしている。
人は山を友としても生きることができ
るのだ。
大山はすでに遠く没して見えない。

日本山岳会に所属しているのだから、かつては名だたる山々を、北アルプスの山も踏破したことだろう。今は仕事も定年を迎え、故郷に落ち着いている。地方の小都市に山岳会支部があるのも、またそれを名刺に刷っているというのも微笑ましい。

(里山シリーズ17 関ヶ原)

旧要塞地帯と石灰岩の山
城山・岩倉山・松明山

一般コース(★)

長宗 清司

スタートは、JR関ヶ原駅から旧中山道を歩く。旧街道の面影が残る道を西にたどると「不破の関」跡に着く。雄然とした庭園には椿の太木や数多くの句碑がある。

さらに西下すると、藤古川に出る。壬申の乱(672年)のとき、西岸に近江軍、東岸に吉野軍が布陣し、対峙した。『日本書紀』によると、7月の初め近江軍の精銳が玉倉部をつき、吉野軍が撃退。これを機に吉野の大軍は藤古川を越えて、近江の国へ進撃を開始。この時の激戦で、この山中川は両軍の血潮で黒々と染まったといわれ、その後川の名も黒血川と変わり、激戦の様子を今に伝えていると、

関ヶ原観光協会案内の駒札に書かれていた。いまは、人通りも少なく静かな山村で、川幅からみて、とうてい当時の模様はうかがえない。

国道21号線を越え、山中の集落からJRのガードをくぐって谷間の山道に入る。小峠の近くで左手に入る道があり、道標に従って城山に向かう。

城山は、南北朝時代、清和源氏の佐竹義春が足利尊氏に追われ、ここに砦を築いたと伝えられている。また、戦国時代には浜六兵衛や杉山内蔵助がいたとも伝わる。ここに砦を築いたのは、北国街道と中山道にはさまれた大切な場所であり、自然の要塞だったからだろう。

東屋が建つ城山の山頂には、三角点の標石が芝生の小山にポツンとあった。なるほど昔から人が目をつけただけに、展望に最適な小山だった。道はこのまま西へくくっているが、途中からあやしくなり、人が歩かなくなった山道は自然に還っている。ただし、行く手の盆地には自然を観察する施設(エコミュージアム関ヶ原)があり大勢の人数がする。その騒音を目標にくぐれば心配はない。このあたり太平洋戦争時代は、爆薬庫のある要塞地帯

城山山頂には三角点標石が無造作にある



で、一般は立入禁止。地図も空白だったと聞く。関ヶ原鍾乳洞への舗装路の両側には、当時の残痕として、立脚ボックス(コンクリート製の一人立てるだけのもの)や丘の斜面には横穴がいくつも掘られた生々しい跡があり、いまは封鎖されている。

料金を払って鍾乳洞に入ると、内部は狭く石筍など見られず、所どころ手を

加えた箇所もあり、他の観光地のそれとは比べるまでもない小規模な鍾乳洞である。

いよいよ、ここからは踏み跡程度で道はなく、地図とコンパスを頼りに歩くことになる。まず北側の尾根に向かうが、鍾乳洞の出入口から少し西に行き、ゆるい傾斜のやぶのなかを登りつめると小さな鞍部に出る(この場で降りたい時は、こ



岩倉山中は石灰岩の日本庭園(地下は鍾乳洞)

のまま反対側にくぐって、国道365号線に出て、少し右へ行けば藤古川の集落外れにバス停がある。

当初予定のコースは、この県境尾根上にある岩倉山の三角点までいったん往復する。樹間に苔むした石灰岩が露出する幽玄な雰囲気はちょっとほかでは味わえない低山の魅力である。

再び、この鞍部に戻って、県境尾根を

忠実に西進する。やがて、右側の木立越しに伊吹山の雄姿が見え隠れするあたりで、ぱっと視界が開けて、パラポラアンテナ施設のある松明山に着く。ここからの展望が実によい。伊吹山の麓から頂上まで遠望できる絶好の場である。

帰路は、ここから下界に向かって舗装路があり、菜々とバス通りに出て大野木の停留所でバスを待つか、さらに南へ足をのばせばJR柏原駅にも行ける。

(平成14年3月24日歩く)

- ▲コースタイム▼
 JR関ヶ原駅(20分) 不破の関跡(15分)
 山中集落(1時間) 城山(45分) エコミュージアム関ヶ原(20分) 関ヶ原鍾乳洞(30分) 県境尾根の鞍部(往復40分・岩倉山三角点)(1時間) 松明山(20分) 大野木バス停(バス5分) JR近江長岡駅
 ▲地形図▼2万5千11関ヶ原
 ▲問い合わせ先▼
 関ヶ原町役場 ☎0584(43)1111
 湖国バス(長浜営業所) ☎0749(62)3201
 エコミュージアム関ヶ原 ☎0584(43)5724

豊野町の最高峰

このやま

鴻志山(鴻野山)

初級コース(★)

柴田 昭彦

鴻志山は地味な里山だが、豊能富士とも呼ばれる秀麗な山容を持ち、のろし山(本誌57号、48頁)でもあったようである。静寂さが好まれるのか、多くのガイドブックに紹介されていて、最近では道標も整備された。

筆者は「大阪府の山」(山と渓谷社、1995年)のガイドに従って、鴻志山に登ったことがある(1998年5月17日)。当時は道標がなかったが、寺田の栗園からの登山口はすぐわかり、頂上へは容易に到達できた。しかし、下り道の牧コースへの分岐点は不明瞭で目印が見つからず、その下方にある古い道標は牧への旧道を案内していたので、やぶ道に突入し

てしまい、引き返して寺田コースをくだった(今でもこの古い道標が残る)。
筆者は鴻志山の登山ガイド10種を調べたが、現在の牧コースの位置をガイド地図上に正しく表示しているものは皆無であった。これは国土理院の2万5千分の1地形図の山道表示が不正確なことに起因している。今回の報告で、山道の位置関係を明示したいと思う。

鴻志山に登る場合、バス利用で三つのアプローチがとれる。阪急池田駅から牧行き阪急バス利用で終点下車の方法、阪急・JR茨木駅から忍頂寺行き阪急バスで終点で乗り継ぎ、余野行きで西野下車の方法、JR亀岡駅から余野行き京都交通バスで神地下車の方法である。大阪方面からは1時間に1便ずつある牧行き利用が最も便利であろう。

阪急池田駅で下車して、出口(阪急バス西のりば)の案内に尋ねられて通路を進み、突き当たりを右に出ると西のりばである。午前10時10分発の牧行きに乗れば、10時53分に終点に着く。牧バス停北側の公民館前にトイレがあるが、水道がなく不便なので、神地の御手洗弁天(市井島神社)の見学を兼ねて、府境を越え

て弁天の里に入り、新鮮地玉子を扱う「ふる里産品直売店」の手洗いを利用するのもよいだろう。御手洗弁天には名木オオモミジとカゴノキがある。有名な「乳の泉」(鉄製の乳房から出る豊饒あらたかな水)があり、いつも水汲みの人々でにぎわっている。市井島姫命は宗像三神のうちの一神で、敵島神社の主神であり、神に齋く島の女性を意味し、のちには、弁才天と同一視され、水の神として信仰されてきた。

牧バス停近くまで戻り、梅相院の石段を上る。左手の墓地には室町中期の宝篋印塔や江戸時代の石塔群が並び、左側(左から二つ目)には紀州日高郡出身の高名な念仏行者、徳木上人(1758-1818、浄土宗)が独特の字体の筆跡で南無阿弥陀仏と刻んだ文化9年(1812)の名号碑が見られる。

梅相院の前の信号を渡り、寺田方面に向かう道をたどる。牧上バス停(東地区巡回バス)を過ぎて、すぐ左手に「牧役行者石像1000m」とある道標に従って山腹の地道をたどる。右手に再び道標があり、山中に入ると右手に両開きの石扉を持つ石室の内側に役行者像が収まって



いる。江戸時代頃、牧村の行者湯によって祀られたものという。山腹の道まで戻り、道なりに先へ進むと辻に出る。左をとって、民家の前をまっすぐ北へたどると右手にホース格納箱がある。そのまま進むとすぐ先で道は右(東)に折れ、左側の民家のすぐ右脇に道標があつて左(北)に折れる。竹林があり、すぐ右(東)に曲がって猪よけのトタン板と土嚢をま

たいで分岐ごとに右の道をたどる。「鴻志山牧登山口1000M先左」の道標があつて、その15分先の分岐(中央に石がある)は右をとり、しばらく右にトタン板が続く。次の分岐で、トタン板は和向第3池へ向かうので、道標に従って左の広い道をたどる。山腹をたどるうちに坂道となり、左に「昭和56年度水源林造成事業」の看板が現れる。その少し先で分岐がある。

左の踏み跡は北東へ向かう作業道(伐採された枝木が道をふさが通れない)ではなく、登山ルートにも出られる)なので、黄色・赤色テープの目印に注意して右手の東南東へ向かう急坂をたどって登り切ると道標の立つ場所に出て、寺田からの登山ルートと合流する。
この右の急坂道は大正11年測図の旧版2万5千分の1地形図「法費」に載っているが、現在の地形図はむしろろんのこと、豊能町発行の1万分の1地図(平成7年修正)にすら掲載されて

いない。豊能町の地図に載っているのは北東へ向かう道のほうである。現在、牧ルートは右の古道がもっぱら用いられており、現在の地形図には全く異なる位置に山道が記載されているので修正が必要である。

寺田ルートはよく踏まれた道で、植林と雑木林を見ながら登る。右にトラバースしたあと、道標に従って左に折れて尾根をたどると頂上に着く。雑木林が美しい。この山は雨乞いの山で、明治時代頃は、千束芝を焚いて祈ったという話が伝わる。山頂から少し先の赤テープに従って、北方向の尾根をゆるやかにくだると先端部に岩が散在している。展望はあまりない。ビニールひもの目印が東へ続くが先で作業道は消えるので山頂へ戻る。また、山頂から西北西へ1500ほど尾根筋をたどり、枝木がふさぐ場所を通過して、北北西へ少しくだると大岩の立ち並ぶ姿に出合える。ここは若干、展望がある。元の道を引き返し、寺田ルートをくだると栗園の横に出る。登山口は木材置き場の東側で、道標も設置されている。ガイドブックの大半は、この寺田登山口を紹介している。

頂上からくだってきて、最初の道標の所で道標の示すトラバース道に入らず、まっすぐに境界尾根をくだれば、鞍部の少し手前で左に出て、明瞭な道に出合っで右折する。山腹をからむように道は続き、ややくだってから右に廻り込んで、柚原と寺田を結ぶ峠道に出る。境界尾根の道は急だが、よく踏まれた道である。地道の林道を南へくだれば、寺田の集落に着く。集落を抜け切れば寺田公民館の前に出る。南方の山中には、850年に坂本から分祀されたと伝わる日吉神社があったが、今では入口の鳥居も社地の石灯籠も倒れて、荒廃している(楊輪千年の誓の古木と石積みだけが残る)。

公民館まで降りてしまわずに、少し手前で西側のコンクリート道を上がり、右側の赤さびたトタン屋根の小屋を目印に竹林の右端の細い山道を上がる。地形図には寺田集落の中央から道が描かれているが実際の道は西端にある(なぜ間違っているのか)。上部で植林地の作業道に出合っで左折すると、すぐ、牧ルートと寺田ルートの出合う道標分岐に出る。ここは地形図の551号標高点付近である。台地状のゆるやかな尾根で、内田嘉弘「京都丹

波の山(上)」(ナカニシヤ出版、1995年)によれば、ここが昔の寺跡だということ。ここに牧ルートの道標分岐を表示しているガイドブックは皆無である。

寺跡から南西に150号ほど尾根をくだると、黄色テープ等の目印があつて、左手に古びた板の道標があつて、まっすぐが寺田方面、右方向が牧方面を示している。右の道は、筆者が初めての鴻応山登山でたどってブッシュで引き返したルートである。この分岐は登山者の誤解を生みやすい。設置者には意図するところがあるが、できれば、道標は撤去して、テープ・ひも等の目印のみにしてほしい。以前、惑わされた経験から提案しておきたい。

この牧ルート(旧道)は「京都西山」(昭文社)で、2002年版まで紹介されてきたが、利用者は少ないようで、尾根筋を西へたどる古道部分は道型を残しつつもブッシュとなって目印もなく、むしろ、途中で南方方向の尾根にテープがついていて、ササを抜けて下山するルートに導かれる状況となっている。それでも、途中でテープから離れて、西尾根に続くササの生えた古道をくだれば、途中で直

進方向の道は草木が茂り、明瞭な道は右へ分かれてくだり、猪よけのトタン板のある辻を経て、役行者石像の東方の辻に出る。また、草木の茂る直進方向の道に突入すればやぶの部分はずかすか、荒れ気味の溝道となってトタン板を越えて麓に出ることが出来る。このあたりの道は分岐が多く迷いやすい。2003年度の新版「北摂・京都西山」(昭文社)は小冊子が現在の牧ルートを紹介しているのに、地図は旧版のまま改訂していない。

現在の地形図に表示された牧ルートはおしよ谷から尾根にとりついているが、そこには道は存在しない。実際には、和尚第3池の北北西にある道標分岐から100号東で左手に分かれる道があり、これを50号100号ほど東にずらすと表示に近いルートとなる。地形図の上では尾根と谷が逆転するほど致命的なずれである。精度が低すぎる。

和尚第3池の北北西にある道標分岐から100号東で左手に分かれた道は、谷に出合い、そこで、牧登山口の道標から15号先の分岐で左にとった道と合流している。谷の右側の道を奥に進むと、さびた古い看板が現れ、その先で谷が二俣に分

かれ、その間の上の方に大岩が連なっている。地形図の道はまさしくこの大岩を貫いているが道は存在しない。大岩の両側は通れるし、上部のやぶ尾根もなんとか登れるが、左側の谷道をさかのぼってから、右より上がると、地形図にあるトラバース道の西への延長部分に出る。東へトラバースすれば、寺田コースに出ることが出来る。

神地のガソリンスタンドの東から上ノ谷への道に入り、すぐ左折して100号ほど先で民家の木塙の左側を通り、右へは曲がらずにまっすぐ河床状の道を東へたどっていけばよい山道となり、辻を通り過ぎ、次の辻で右へ登れば、右に谷を見つ岩の立ち並ぶ場所を抜けて、谷をつめて頂上の尾根に出る。谷の上部では道はやや不明瞭だが、やぶは薄いのでそのまま登れるし、右手の尾根に出て頂上に出ることもできる。鴻応山の西側の境界尾根を登ったという報告は聞くが、その登山道をガイドしたものは見当たらない。上ノ谷ルートは境界線を横切っている。先人はこの山道をたどったのであろう。なお、鴻応山の登山道は南斜面にあり、北斜面には作業道はあるようだ

が、一般向けに利用できる道は東側の峠道だけのようである。大正期の旧版地形図にある上ノ谷から柚原へ向かう山腹道をたどって見たが、だれも利用しなくなっていると見えて廃道となっていた。

鴻応山の山名については本誌55号で考察したことがある。「コンサイス日本山名辞典」には「こうおう(こうのう)さん」とあり、内田嘉弘「京都丹波の山(上)」には、寺田の住人の話から「こうおうざん」と読むのが正しく、「こう」は間違い、とあるが、ガイドブックには通例「こうのやま」となっている。これは、どういうわけだろうか。

寺田や牧に伝わる古文書(由緒書)には、当山で、鴻の鳥二羽が舞っていたという由来が記されていて、最初は「鴻山」「鴻の山」で、のちに、牧で「鴻野山」、寺田で「鴻応山」の表記となったというつまり、もともとは「こうのやま」と呼ばれたことが明白で、「鴻応山」と書くようになってから、「こうおうざん」の読みが生まれたことが推定できる。しかし、山名の起源を由緒書にとられずに考察したものは見当たらないようだ。

「こうのやま」は一般に「神の山」の

意味であり、円錐形の秀麗な山は、三輪山などのように、古代の神奈備山として原始信仰の対象となり、神体山とも呼ばれている。

つまり、「鴻応山」は、「交野山」(大阪府交野市)、「神於山」(岸和田市)、「神野山」(奈良県山添村)などと同じように「神の山」であろう。「こうの」の読みは古くから伝わった信仰を示すもので、鴻の鳥の伝承は、「こうの」に付会して、縁起の良い話として創作されたものではないだろうか。

なお、本稿では枝道ルートも紹介したが、慣れない向きは、道標が設置されたルートだけを利用し、枝道には入らないほうが無難だろう。冬季(11月~2月)はハンターが山に入るので、登山は避けたほうがよい。

(平成15年4月29日)

・5月4日・18日歩く

▲コースタイム▼

牧バス停(15分) 牧登山口(30分) 道標分岐(25分) 尾根分岐(10分) 頂上(25分) 寺田登山口(20分) 道標分岐
△地形図V2万5千II 妙見山・法貴

一繞・近江側から登る鈴鹿の山々④
草原を行く

仙ヶ岳・御所平・ベンケイ

健脚コース(★★★)
磯部 純

この例会の集合場所は黒滝の惣王神社から田村川を500m程北へ向かった所にある道広場。ここへ置き車をして田村川林道を奥へ走る。

20分も走り、仙ヶ岳一般ルートの入口である割谷出合手前の道に駐車する。この日のルートは割谷出合の東から尾根にのって、標高点729mを踏んで奥境尾根へ登るといふ、岩野さんの例会では初めて歩くルートである。

割谷を越え、尾根の先端を廻り込むと、右手の斜面に人が登った跡があり、その入口に「仙ヶ岳へ」と書かれた小さな標識が下がっていた。ここがこの日の取付口である。



クから奥境を西南へたどり、奥境が90度東南へ折れ曲がった所、ミズナシまでの広い尾根を御所平と呼んでいる。しかし、本来はヨコネに近いカヤの多い高原を御所ヶ平、ミズナシに近いササ原を家老平と呼ぶようだ。戦国の時代、伊勢の北畠信意が信長に攻められて、従者23名と共に御所ヶ平、家老平に逃げ込み潜伏したことに由来するという。近江側は

取付きは杉の混じった林を登って行く。しばらく急斜面をあえぎ登ると、右から来た尾根へ。展望のきかない雑木の尾根をひたすら登って行くと、やがて目の前に両側が深く切れ込んだナイフリッジが現れた。その距離わずか50m程だったが、足元の岩が崩れやすく、高所恐怖症の人にとっては、耐えがたいほど恐ろしい所に見える。ここは慎重に歩を運ぼう。そこを越えると静かな雑木の尾根が続く。地形図で見ると静かな雑木の尾根が急な尾根だった。やがて広くなった急勾配の尾根を登り、右へ曲がりこむと主稜線、宮指路岳から仙ヶ岳へ至る縦走路へ飛び出す。

縦走路に出ると展望が開ける。目の前には野登山が構えていて、その右に仙ヶ岳と仙ヶ岳の山頂が、木の間から見え隠れしている。

ここから縦走路を南へ進む。小さなピークを三つ越すと、仙ヶ岳すぐ下の鞍部。小社峠と呼ばれる古くからの峠である。この峠は伊勢の小岐須から近江の黒滝へ越える峠で、主に炭焼きの人たちが利用していた。現在は伊勢側の道は登山ルートとして残っているもの、近江側の道

急斜面だが、伊勢側はカヤとササ原にアセビ・シロモジの木々が点在し、すばらしい草原となっている。カヤやササ原に付けられた踏み跡を歩いていくと、こんな所にあると思うほど、バイケイソウの群落があちこちに……。ツツジ・タンナサワフタギ・ズミ・フジの花も残っている。

ミズナシから縦走路は直角に曲がり東南へくだるが、そのまま尾根を直進して林を抜け出ると、すばらしいササ原が目の下に広がっている。グミの木平と呼ぶ所で、草原の谷を挟んだ向こうには、舟石からベンケイへ連なる尾根が横たわっていた。

グミの木平から斜面を東へトラバースし、槍の林を突っ切って行くと縦走路に出る。その道をくだると小太郎谷の源頭で、能登ヶ峰と同じようなすばらしいササ原が広がっている。けもの道が縦横に走り、ここにも鹿の楽園があった。

小太郎谷源頭から右槍、左リョウブやアセビの多い雑木の尾根を進む。ゆるく登り切ったピークに舟石がある。以前はやぶに隠され死角になっていた舟石だが、この数年の間に縦走路がこの岩の上を通るようにと変えられていた。

は消えて無い。また、この峠を近江側では最近までモハンリン峠(横箱林峠)と呼んでいたそうだ。

この峠で昔を偲んだら、仙ヶ岳への最後の登りにかかる。斜面の途中で樹林が切れ、ササ原になると、登るにつれて後方に雨乞岳・御在所岳・鎌ヶ岳が徐々に現れてくる。後を振り返りながら急斜面を登り切ると、仙ヶ岳西峰(961m)。

山頂からは360度の展望がある。仙ヶ岳は双耳峰になっているが、主峰は西峰で、東峰は仙ヶ石と呼ばれている。西峰は何の変哲もないピークだが、東峰にはモダンアートさながらの奇岩がある。野登山と仙ヶ岳開山の祖・仙朝上人の入定の地とされている。せっかく西峰まで登って来たのだから、ザックを置いて東峰まで足をはさそう(往復約30分)。

仙ヶ岳西峰から御所平への道をくだる。白谷を挟んで向かいには南尾根が荒々しい岩コブを背に突き出しているのびていた。尾根を廻り込み西へくだり、北に美しい自然林の残る小ピークを越えてくだると、割谷への下山口である鞍部だった。静かな雑木の斜面を登り返すと832mのヨコネと呼ばれるピーク。このピーク

ピークから西へくだる。安楽越への道を左に見て、手入れされていない槍の林の尾根を登るとベンケイ山頂。点名「太郎谷」で3等三角点のある山である。なお、ベンケイという山名の由来は不明。

ここから黒滝へとびる尾根をくだる。標高点637mの植林ピークまでは難しい所はない。そこからネットに沿って廻り込み、左の尾根をくだる。あたりは静かな槍の林。そこを抜け、右手のネットを見ながらくだり、槍林の急斜面をくだると、右下に黒滝集落の屋根が見えてくる。最後の下りにかかると、三度ネットに沿ってくだり、掘れた道をくだると黒滝の惣王神社の裏手へと飛び出した。

(平成14年5月26日歩く)

Aコースタイム

黒滝田村川広場(車20分) 割谷(1時間10分) 標高点729m(30分) 主稜線(30分) 小社峠(30分) 仙ヶ岳(15分) 仙ヶ岳東峰(15分) 仙ヶ岳(30分) ヨコネ(1時間) ミズナシ(10分) グミの木平(30分) 舟石(15分) ベンケイ(1時間10分) 惣王神社

△地形図V2万5千1:1土山・伊船

伝説の五蛇池がある

こじやがいけ

五蛇池山

中級コース(★★★)

金谷 昭

雨の多い奥美濃には山上に池を持つ山が多い。夜叉ヶ池と同じく五蛇池にも山頂に五匹の大蛇が棲むという伝説が語り伝えられ、かつては信仰のために登って来る村人もあったという。また、五蛇池山と小蕎麦粒山との鞍部は旧徳山村の戸入と坂内村の広瀬を結ぶ彼ら村人の重要な交通の要衝であったと記されている(振栗郡誌)。

私は平成6年5月の新緑期、五蛇池山に登っているが、紅葉の五蛇池も見たくて、また、岳友の所望に応え、個人山行として再訪した。

当日の早朝、湖西に住むY氏から「湖西・湖北地方では大粒の時雨」との報が

あり、登山実施の可否と方向転換の相談があった。ともかく、集合場所の広瀬スキー場で相談することにし、JR山科駅に集まった京都・大阪の女性3人をマイカーに乗せた。いずれ劣らぬ猛者揃い、なかにはきょうの山行を含めて四連チャンと言うから、最近の中高年女性ハイカーのパワーには恐れ入る。

名神高速道に入り、車窓から見る湖西・湖北には厚い黒雲がかかっているが、湖東は幸い晴れ間が覗いている。車中で早速、Y氏からのコース変更の場合、候補の山として五蛇池山以南の虎子山・鎗ヶ先山を提案したところ、3人全員が既登で、変更しようものなら怒りかねない意気込みで、これまた圧倒されてしまった。

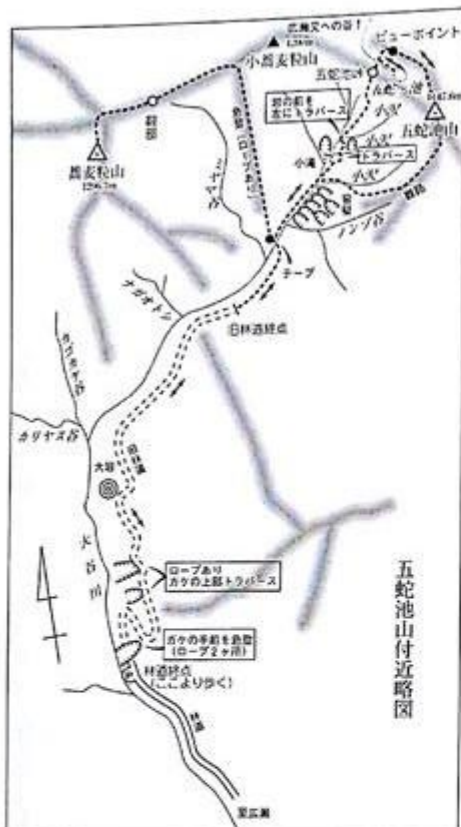
木之本インターより国道303号線に入り、八草峠の新しいトンネルを抜け、集合時間通り広瀬スキー場に到着した。新トンネルの開通によって奥美濃も時間的にずいぶん近くなった。Y氏と夜勤明けのM女史はすでに到着しており、残るT氏を待つが時間になって来ない。車を一台スキー場に置いて林道終点に行つてからさらに待つが来ない。何か参加で

てかすかな踏み跡があるのみだ。そしてすぐに大きな山崩れに出合い、道は山崩れの手前でロープ(3ヶ所)を頼りのスリップしそうな急登となっていた。なお、山崩れ斜面にはトラバースした踏み跡があったが、これとて相当危険なものであった。

登りつめると旧林道のジグザグの折り返し地点の手前で、これより旧林道のゆるやかな踏み跡を行く。しかし、ほっとしているのも束の間、再びニヶ所の山崩

れに出合う。最初のトラバースはロープも何もなかったが、次の所ではロープが二段に張られていて大いに助かった。ここからは山崩れ箇所はなく、旧林道終点まで灌木と雑草のなかの踏み跡を、周囲の景色を見ながらの歩行となった。蕎麦粒山の頂上付近を見上げると、紅葉の始まった山肌白い斑点が見られたが、昨日の時雨が上部では雪となっているのであろう。

旧林道終点(ミヤマ谷合)まで約1時



五蛇池山付近略図

五蛇池峠のすぐ上部より小蕎麦粒山(右)と蕎麦粒山(左)



きなくなつた事態でも起こつたのだろうか、遅れて来ても足の速い彼なら途中で追いつくだろう。青空が広がってきたので、コース変更を相談することもなく、五蛇池山へ6人で先行することにした。出発して驚いた。前回は大谷川左岸の狭い林道を、奥の旧林道終点のミヤマ谷出合付近まで車を取り入れたが、その林道は跡形もない。雑草と灌木におおわれ

間かかった。ここで小休憩をとる。前回はこちらまで車を取り入れ、蕎麦粒山と五蛇池山に登った。陰惨で急峻なミヤマ谷には残雪がぎっしりと詰まっていたのを感じ出す。

旧林道終点からの歩道は以前と変わりがなく大谷川左岸を行く。このあたりからの、ブナ・ミズナラ・トチの木の多い自然林も変わりなくすばらしかった。やがて右岸に渡ると蕎麦粒山への取付点の分岐となる。五蛇池山へは大谷川をさらに源流へと右岸の踏み跡をたどって行く。その後、登山者がかなり増えたのであろうか、テープが頻りに付けられている。秋の草花はほとんど見られず、道脇にユキザサがさびしく赤い実を付けていた。

源流の二股にて小休憩をとる。当初の計画では登頂後は五蛇池山の南西尾根(前回トレース)を下山する予定であったが左岸の岸壁群を見て、Y氏がルートファインディングの難かしさを指摘した。私は前回その岩壁を過ぎた所で本流に注ぐ小沢を降りたのだが、昨夜の積雪と、その後のやぶの状況を考え、登頂後にどうするかを相談することにした。

五蛇池峠に通ずる右股(トウゲノ谷)の

〈コース〉二ノ瀬駅—二ノ瀬ユリ
—渡谷峠—岸生峠—奥貫船—貫船
神社—貫船口駅(約10分)一般向
参加自由・無料、叡山電鉄鉄道部
075(781)5121

▽叡電ハイイク「八瀬・龍華山」
12月7日(日)雨天中止(集合)八瀬
比叡山口駅10時(コース)八瀬比
叡山口駅—二本松—龍華山—寒
谷峠—江文峠—龍華—薬王坂—鞍
馬駅(約11分)家族向 参加自由・
無料、叡山電鉄鉄道部075(7
81)5121

▽叡電ハイイク「二ノ瀬・貫船山」
12月20日(日)雨天中止(集合)二ノ
瀬駅10時(コース)二ノ瀬駅—夜
泣峠—大岩分岐—樋ノ水峠—貫船
山—大岩分岐—貫船口駅(約10分)
一般向 参加自由・無料、叡山電
鉄鉄道部075(781)5121

▽京都バス・比良ロープウェイ
▽京都北山三角点トレック「菅見
峠・地蔵山」 11月1日(出)・8日
(出)雨天中止(集合)出町柳駅コン
コース8時〜8時30分(コース)
出町柳駅(バス)越畑—菅見峠—
地蔵山—愛宕道分岐—水尾分岐—
原(バス)出町柳駅(約9分)健脚

向)電話申込制(一ヶ月前から)
定員各日共200名・無料(バス
代別途)、京都バス運輸部営業課
075(871)7521・75
22

▽ネイチャー・トレッキング「雄
松山荘道を登る」 11月5日(例)
7日(例)・11日(例)・15日(例)雨天中止
(集合)JR近江舞子駅8時50分
(コース)近江舞子駅—南小松—
雄松山荘道—大津ワングル道
合流点—釈迦岳—カラ岳—八雲ガ
原—山上駅(ロープウェイ・リフ
ト)山麓駅(バス)比叡駅(約7
5分)健脚向 電話申込制(一ヶ月
前から)定員各日共120名・参
加費1500円(申込迄)比良ロー
プウェイ事業課077(596)
0516

▽神戸電鉄
▽神鉄ハイキング「鬼方島・高尾
山ハイイク」 11月9日(日)雨天中止
(集合)有馬口駅9時45分(コー
ス)有馬口駅—水無川—鬼方島—
高尾山—湯谷—有馬温泉駅(約
8分)健脚向 参加自由・無料、神
鉄観光事業部078(521)0
321

▽山陽ハイキング「林崎湖・野々
池ハイイク」 11月2日(日)雨天中止
(集合)中八木駅下車(北西0・
5分)大久保浄化センター公園 10
時(コース)大久保浄化センター
公園—谷八木右岸—宗賢神社—
湊神社—林崎湖—野々池貯水池
—大久保松陰新田—藤江駅(約11
分)一般向 参加自由・無料、須磨
浦遊園ハイキング係078(7
31)2520

石踊りハイイク」 11月23日(日)雨天
中止(集合)JR藍本駅9時30分
(コース)藍本駅—白土坂—大谷
—駒子佐八幡宮(白石踊り)—岩
倉—波田—藍本駅(約12分)一般向
参加自由・無料、神鉄観光事業部
078(521)0321

▽山陽ハイキング「高取山から菊水山
ハイイク」 12月7日(日)雨天中止
(集合)西代駅下車(山陽電車西
代本駅前)10時(コース)山陽本
社前—高取山—丸山町—鶴越—鳥
原貯水池(北側)—菊水山山頂—
神鉄鈴蘭台駅(約10分)健脚向 参
加自由・無料、須磨浦遊園ハイ
キング係078(731)252
0

▽山陽ハイキング「舞子・垂水シ
サイドから鉢伏山へ」 12月21
日(日)雨天中止(集合)山陽舞子駅
下車(舞子公園)10時(コース)
舞子公園—アジュール舞子—マリ
ンピア神戸—草薙緑地公園—塩屋
—ふんすいランド—須磨浦公園駅
(約10分)一般向 参加自由・無料、
須磨浦遊園ハイキング係078
(731)2520

△山陽ハイキング「栗花のじきく・八
家地蔵ハイイク」 11月23日(日)雨天
中止(集合)大塚駅下車(大塚公
園)10時(コース)大塚公園—馬
坂峠—牛谷—西信寺—湊神社—八
家地蔵—木庭神社—八家駅(約10
分)一般向 参加自由・無料、須磨
浦遊園ハイキング係078(7
31)2520

やせらぎ

題字・小林玻璃三

六甲山のとある沢にイワタバ
コの探索に行った。山道から沢
筋に入り、さっそくイワタバコ
の葉を見つけて期待がふくらむ。
つぼみが出てきてわずかだが開
花も発見！
その先の左岸に小群落が出て
きて「咲いている、咲いている」と
と大喜び。沢をさらにつめると、
崩落により通行できなくなる。
しかたなくルートファインディ
ングをしようと思いを突き上げて
て尾根にのる。進むとやぶのや
せ尾根でコンパスは南を向く。
沢伝いの道は東から明らかに落
ち込んでいく。左右は垂直に落
落した切れ込んだガケとなり、
途方に暮れる。

おそろおそろそのガケをのぞ
くと、そこはイワタバコの大群
落の斜面で、道を見失ったおか
げで偶然にも見ることができ感
激する。こんな所へは道を間違
わない限り来ることはない。
もと来た道を戻ることにして、
よくもまあこんな急斜面をよじ
登ってきたものだと思いつつ、
ササで身体を確保しながらくだ
り、ご機嫌で帰路についた。
(向日市 湯浅康夫)

8月早々、北アルプスの常念
岳から蝶ヶ岳へ縦走した。
昨年、奥穂高岳へ登った時、
登山時や頂上にて絶えず常念
岳の優美な姿が目につけられ
た。一昨年も蝶ヶ岳登山を通

○新ハイ関西サービスチェーン

名峰・二岐登山 小白山・大白山・甲子・都賀への縦走基地 1名でも最寄り駅送迎可(要予約) 須磨温泉と内瀬(石割山・ハリモミ林)

福島・二岐温泉 日観連 大和館

〒962-0106 福島県須磨温泉 須磨温泉 須磨温泉 須磨温泉
F 02481-8412 705

富士登山・富士五湖 東海自然歩道 (石割山・ハリモミ林)

三原山の麓

ペンション コットンテール

〒401-0502 山梨県南都留郡山中村平野
電 0555-6518515

大宮駅西口から大宮駅東口まで
大宮駅西口から大宮駅東口まで
大宮駅西口から大宮駅東口まで
大宮駅西口から大宮駅東口まで

山梨県山梨市上野原 302-2
電話(山梨) 055-331-3311
(山梨) 055-331-3311

尾瀬 平ヶ岳尾瀬と約りの山小屋
後援 三山只野山小屋内

清四郎小屋

ほんもの手作りお土産は
樹海

〒956-0000 新潟県北蒲原市
電話(新潟) 025-791-2150
期間外(11月4日) 12月
025791215026

も流れ去り、振り返って前常念岳を従えた常念岳の全容を眺めることもできた。

翌朝、蝶ヶ岳ヒュッテ後方の蝶ヶ岳最高峰(2677尺)に立ち、前穂高岳の左に見える焼岳、その左に栗鞍岳、遠く雲の上に浮かぶ御嶽山を確認し、さらに、東南に霞みながらも小さく薄くそびえる富士山を見て感激した。北東遠くに妙高山を確認するという収穫もあった。

帰宅後、NHKの「百名山」ビデオなどを観たり読んだりしているのであるが、古い名著『日本アルプス—登山と探検』(ウェストン)に常念岳登山が詳しく記述されているのを目を見張ったし、新しいものでは「私の一名山」に於ける「生かされて(蝶ヶ岳)」に感激した。(枚方市 東谷 宏)

木ノ実ヤ塚、五月
君もこの山の息吹を感じずや
樹の木末を渡る駒鳥
樹雨降る道照らしたり銀竜草
小さき玻璃のランプの火屋よ
黒絵めく木立の中を抜けて行く
こんな所に矢筈紫陽花

6月21日 鏡山
傘さし車を降りた足元に
マンテマの花可憐に咲いて
7月6日 元越谷
大流は銀の瀑布轟いて
その横の岩アリの行列
エメラルドへつり泳いではい上がり
清流の沢心弾んで
7月20日 ヒミズ谷
次々とどこまで続く滝登り
V字の谷のシャワーをあびて
雨の中昼の宴はどしゃ降り
山小屋に下り飲み食い笑い
8月3日 神崎川・茶屋川沢下り
大トロはブルジュの中にエメラルド
浮輪を抱いてゆらりゆらりと
8月10日 鬼ヶ牙
絶景は赤松の峰鬼ヶ牙
松の木陰に沢からの風
(近江八幡市 若野 明)

今年には長野県のいくつかの山に行った。戸隠山は雨で麓だけだったが、森林公園には多くの植物があり、トガクシソウも5月連休なら見られるだろうと思っ
大川入山ではベニバナイチヤクソウが見られたし、木曾福島駅西の城山では思いのほか多く

山不行日
蕨喰ひ獲黒豹紋 樟を喰む
青筋揚羽ともに風し
汗流し片腋を抜く私の身に
種降り掛かり 片喰増やす
妻秋の田畑は緑に広がって
彼方に見ゆる映山紅の高原
夏に寄せて
支笏湖畔 野鳥聖域 美宙峰
車をとどめ静かに降り立つ
風の鳥礼文の夏は花に満ち
そのひと時はとわに輝く
峠道人が踏みゆく黒土を
塵頭虫も踏みしめ何処へ
蟬の音に合わせて腕を振ってみる
管絃楽を指揮する如く
(松阪市 敷木伸人)

追伸 71号68、69頁の「アテ」は、「秘」が「わたし」↓「あたし」↓「あたひ」↓「あて」と変化した人称代名詞です。
山行短歌
7月3日 大峰村ヶ岳
めぐり逢いたき熱き思いの母も
大山レンジもさかかなたに
7月9日 大峰玉置山
雨つきて来し熊野ゆえ忘れえぬ
宝冠の森の山霧の深さにも

の花が見られ、100種もの花と実を記録した。
田立の滝は台風後で爽快な滝が数多く眺められたが、植物は40種程度の記録だった。
お盆の木曾駒ヶ岳は雨で、宝剣岳へも行けなかったが、60種の花と実を記録した。
御嶽山は昨年時間切れだったので、ルートを変えて三の池から廻って剣ヶ峰まで歩いた。花は70種程度の記録、トウヤクリンドウを初めて見た。
石川県の白山は二度目で、岐阜側の平瀬道で120種、福井県の白山・三ノ峰下の刈込池周辺でも130種の花と実を記録した。
この文が載る本が出る頃には、富山県の大笠山から、岐阜・石川・富山の県境にある炭ヶ岳へチャレンジできたかどうか、結果はわかるだろう。
(南濃町 山田明男)

今夏は天候不順で山行計画に苦分されたり、山ビルに悩まされた方が多かったのではないかと。いつも、行き当たりばったりの計画で動いていて

7月17日 若狭根来坂峠
百里ヶ岳の青き森見ゆ樹間越し
敗者のごとく登らずに去り
7月27日 蝶ヶ岳ヒュッテ
今宵泊る山小屋に荷を解いて
サブゼック背に三本剣めざす
7月27日 北アルプス銀岳
雪渓を越え鎖越え岩壁登る
頂き直下に奈落ありしとも
7月28日 北アルプス立山
振り返れど鎖は見えず雲の果て
さらばわれらが岩の殿堂よ
8月10日 室生古光山
帰省した妻を見送り山に来れば
翼のかたちした雲が飛ぶ
8月18日 紀州半作嶺
飯初めに愛せし乙女にはあらず
乙女の寝顔へ愛告げに行く
8月19日 紀州法師山
いざ法師へ谷の吊橋踏み出せば
入道雲が俺を呼ぶよう
8月19日 大塔村安川溪谷
逆光をあげた谷間の百合がなぜ
裸身となりて振向きぬ女に
(吹田市 木村太郎)

山行短歌
6月28日 高畑山
パノラマは下界と空が丸くなり
さわやかな風ササユリゆれて

も、不実行が続くとイライラがつのってしまつた。
さて、昨年、皆さんに協力をお願いした「山ビル」出沒地点調査に多数の協力をいただきました。まだまだ地点不足で発表にはいたらないので、これからも連絡をいただきます。
その中で、兵庫県森林・林業技術センターの井上氏からいただいた資料の一部を紹介する。
鹿の生息範囲の拡大とともに山ビルの範囲も広がっていった様子を明示したものである。鹿の個体数の増加が生息範囲を広げ、鹿に付いた山ビルが鹿と共に移動した様子が読み取れる貴重な資料だった。
今後、鹿と山ビルの天敵が現れないかぎり、天候不順時の山行きは悩むことになる。
自然が大好きになって欲しいと願う、未来を託す子供・若者らに取りついて、山を嫌いにさせないでほしい。
(姫路市 須藤 穰)

何ということでしょうか。
8月中旬に計画した例会山行、

ハイカーの宿・池の平温泉
ナガサキロッジ
百名山を二つ登れる山小屋
黒沢池ヒュッテ
〒949-1210 新潟県中頸城郡妙高高原町池の平温泉
0255-8612261

休養食入浴も歓迎
10名以上マイクロボスで送迎
箱根仙石原温泉
福島 館
〒250-0631 神奈川県足柄下郡箱根町仙石原139
0460-419041

四季賑やかな乗鞍高原のハイク上高地・乗鞍岳へ 冬はスキーやき道りと味の宿・日観連温泉旅館 けやき山荘
〒390-1500
長野県南安曇郡安曇村乗鞍高原
0263-932555

さわやかな情州
露天風呂 山吹の湯
湯田中温泉(穂波)
日野屋旅館
〒381-0400 長野県下高井郡山ノ内町湯田中温泉穂波
0269-333578

標高2000m 山雲上の温泉
湯の丸高嶺自然休養林
ハイキングにXCスキー
高峰温泉
〒384-0000
長野県小市町高峰高原
0267-252000

ハイキングにノスキーにノ
志賀高原 石の湯ロッジ
バス 熊の湯駅平床下車
電 0269-342421
東京本社・東京都新宿区新宿3-1-20-5 新光第2ビル
03-3341-0211

塩の道 千国街道
百八十七体「観音原」
ホテル
白馬プランシエ
〒399-9300
長野県北安曇郡白馬村いわたけ
0261-7214452

八ヶ岳南北縦走の中心地
99年秋新築増築完成全館個室
木の香匂う新築温泉旅館大室宮
オーレン小屋
1泊2食付き 6000円
〒391-0413 4月来11月未開設
長野県南木曽町2720 小室勇夫

南アルプス麓三山と赤石岳が昨夏に続き、今夏も再び挫折してしまわれました。原因も昨年と同じく台風による道路通行止めで、マイカーは通行できてもバスは駄目、という点も全く同様でした。

本当にはバスは通行できないのか。現地の状況を知る術もない私には、もどかしい時間ばかりが流れ、不透明な話も耳にしたのですが、道路管理者から「通行禁止」と言い渡されては、バス会社も動きがとれません。通行禁止期間は一週間かもしれない、という情報には聞きしりするしかなく、こういうことを「縁がない」と言うのかも知れません。

「バス通行不可」の情報を得たのは出発日の3日前、目的の山を変更しようにも昨年よりさらに時間的余裕はなく、焦りと疲労のすえ、結局中止に追い込まれてしまいました。

昨夏と変わらず、何回もの連絡にも好意的に応じしてくれた東海フォレスト、夜行で到着後の早朝の食事を快諾し、いろいろな情報も与えてくれた畑輝ロッ

ジ、下山後の昼食ばかりか、携帯電話が通じないバス運転手に中継も引き受けてくれた赤石温泉白樺荘など、関係の皆さんには、ただただ申し訳ない気持ちでいっぱいです。

二回も連続して挫折すると、胸中あきらかに似た無常感が広がってしまっていますが、「また来年お待ちしています」という励ましの言葉をもらい、「よし！来年こそは」と気持ちを奮い立たせている次第です。
(各務原市 鷺見守康)

曾根高原へ「ナンバンキセル」を探しに行こうと思いついた。9月の初め、近鉄名張駅からバスに乗り中太郎生で下車。この日は残暑が厳しく、まるで夏日。それでもホホに当たる風、野の花々はすっかり秋の色に染まっている。

東海自然歩道から二本ボソ・俱留山等の特異な山容を眺めながらのんびり歩いていると、茂みの中から突然キツネが出てきた。目が合うと、慌ててまた茂みの中に引き返してしまった。走り寄って「コンク〜ん」と覗

きながら呼んでみたが、草の音すらしなかった。やがて石畳の道道に入る。十九折れの急坂を登りつめて亀山峠に立つと、眼下に雄大な草原が広がった。秋風にススキの穂が白い波のように流れている。

「まるで小宇宙」
昼食を済ませて、くだりながらお目当ての「思い草」を探した。ススキの中に潜り込み、時々顔を上げて現在地を確認しながら1時間余り根元を丹念に探したが、結局見つかることはできなかった。私にとって今年もまた、幻の花となってしまった。

残念だったが、重い足取りのまま帰路について。太良路のバス停のベンチに腰を下ろすと、それでもきょう一日の安堵感と満足感がふつと湧き上がってきていた。
(生駒市 井上久子)

北八ヶ岳の登山基地 冬はスキー JRR茅野駅・北八ヶ岳登山口まで送迎します
茅野高原
プチホテル カナール
〒399-0330
茅野市北山茅野高原町丸丸55
13の1
電話 0266-67-22558

日本百名山の宿
信州戸隠山
森の宿めるへん
高梨山・黒姫山登山口まで送迎
クロカン・コースご案内
〒388-14100
長野県戸隠村水ヶ原
電話 0266-25412081

日本唯一の女人禁制の山「大峰山」(台身山)の登山口
稲村ヶ岳女人コースもあり
温泉・名水の里
旅館 紀の国屋 甚八
1泊2食付 7,000円から
〒638-10431
奈良県吉野郡天川村南川
電話 0747-61410309

九州の最高峰・日本百名山
宮之浦岳に一番近い宿
屋久島安房登山口
屋久島グリーンホテル
〒891-4311
電話 0997-41613021

山行計画 (11・12月) 新ハイキングクラブ関西

このページの山行計画には、「会員に限る」と特記してあるほかは会員外の方でも参加できます。一人ずつ往復ハガキに記入例によって必ず出発の7日前までに到着するよう、申込み先を確認のうえ申し込んでください。電話・FAXでの申し込みはお断りします。「費用」のほかに参加名簿代その他の資料代実費をいただくことがあります。山行申し込み後参加できなくなった場合は必ず係に連絡してください。体調の悪い方、幼児と飛び入りにはお断りします。

例会の参加者全員に傷害保険がかけられています。出発直前の際、係に保険料日額50円と救護対策費日額50円合計100円(夜行日帰りの場合は2日になり200円)を支出していただきます。

傷害保険特約内容は次の通りです。(株式会社損害保険ジャパンと契約)
死亡・後遺障害保険金額 1,000万円
入院保険金 5000円
通院保険金 2500円
保険の対象は集合時から解散時まで。事故があった場合は解散までに係に申し出てください。この保険に該当しないものは次の通りです。①ピッケル・6本爪以上のアイゼン・ザイル・ハンマー・ワカンを持参することを明記した山行 ②スキー使用の山行 ③沢・岩・氷雪登山を目的とした山行 ④宿泊場所内の事故 ⑤病死の場合(詳細は本部まで)

(記入例)
(往復ハガキを使用)

山行き申込み書

山行名 (正確に記入すること)

期日

住所 〒

氏名

会員番号
(会員でない方は会員外と記入)

電話番号

生年月日

緊急時の連絡先 TEL
(山行中の連絡先を記入)

返信ハガキの宛名欄には、ご自己記入の住所氏名に「様」を必ず入しておいてください。

中国自然歩道
毛無山と大山東部半縦走
(中級向き)

期日 11月1日(土)・2日(日)
1泊2日
集合 (1日) JR西明石駅西
出口7時50分
コース (1日) 西明石駅(ハコ) 毛無山登山口→毛無山→白馬山→登山口(バス) 大山寺(泊)

(2日) 大山寺→宝珠尾根→振子山→野田ヶ山→川床(バス) 西明石駅(解散19時頃)
費用 約20000円(バス・宿泊・保険代等)
地図 2万5千1新庄・伯耆大山・船上山

◎古賀慶一◎岡田 昇
〒675-0112
加古川市平岡町山上684の33・17A403
古賀慶一まで
*定員20名(会員に限る)
*10月22日締切
大山隠岐国立公園に編入された毛無山塊を訪ねます。大山東部の山々は再探検です。雨天決行(コース変更あり)

御在所登山に
愛知川溪谷歩きに
山好き仲間集う宿
朝明溪谷 朝明茶屋
山小屋
〒510-12251
三重県三重郡野町草
電話 0593-931789

那岐山麓の奇麗な百名山の大山
二百名山の水ノ山・赤石山とあり。
三百名山 那岐山のみもと
岡山県 那岐山荘
〒708-13007
岡山県那岐郡奈義町高円
電話 0868-3614154

山行例会の実施について
山行例会は保険をかけた後、登山届けを提出しますので、実施日の7日前までに上記記入例の通り、必ず往復ハガキで申し込んでください。
お申し込みの返信案内には届目が決まり次第、山行日の10日前頃からします。早く申し込まれた方はそれまでお待ちください。
定員のある計画は先着順に受け付けています。

京都北山・沢山から桃山
(一般向き)

期日 11月2日(日) 日帰り
集合 ①JR名古屋駅中央改札口6時55分/②JR京都駅前JRバスのりば③番9時10分
コース 京都駅(バス) 山城中川
― 善長池の滝―沢ノ池―仏栗峠―沢山―古兆山―桃山―原谷口(バス) 京都駅(解放17時30分頃)
費用 約5500円(青空ラリーバス使用・名古屋から)
地図 昭文社『京都北山』
係 小出良春
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで
*集合駅を明記ください
川端康成の名作『古都』は岩下志麻主演で映画化され、一躍有名になった北山杉の村、山城中川を訪ねる。雨天中止

米原駅(車) 御池林道経
由・御池橋―伊勢尾―ヒルコバ―池巡り―T字尾根下降―御池橋―御池林道経由(車) 彦根駅(解放)

費用 交通費各自(車代1000円)
地図 2万5千―藤立・竜ヶ岳
◎山田明男 ○高原芳彦
申込み 〒503-0535 海津郡南濃町松山62の19 山田明男まで
*定員15名程度
*集合地を明記ください
*マイカーの方はその旨明記ください
今回はリクエストにより遊覧車側から上り下りします。今年の紅葉はいかがでしょうか。雨天中止
近畿百名山に登る(第64回) 鳥取側から氷ノ山と扇ノ山 (一般向き)
期日 11月2日(日) 3日(月) 1泊2日
集合 (2日) JR新大阪駅正面口7時40分
コース (2日) 新大阪駅(バス) 若桜町「氷ノ山ふれあい

の里」―キャンプ場―水ノ山越―水ノ山―仙谷分岐―仙谷登山口(バス) 湯原ふれあいの湯(入浴後・バス) 八束町「ふる里の森」(パンガロー泊)

(3日) ふる里の森―扇ノ山―山林道―登山口―南尾根コース―扇ノ山―大スッコ山―小スッコ山―関府町「水とのふれあい広場」(バス) 那家町(バス) 大原駅(解放19時頃)
*帰路に浴衣予定
費用 約10000円(バス・宿泊代等)
装備 自炊の食料(2日の夜食用)・灯具
地図 2万5千―水ノ山・若桜・扇ノ山
昭文社『水ノ山』
◎村田智俊 ○安倉正勝 ○奥比呂美
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 村田智俊まで
*定員22名
鳥取県側から静かなブナ林の登山道を経氷ノ山と扇ノ山へ登ります。歩行は共に3〜4時間の短いコース

ス。キャンプ場内のパンガローに泊まります。炊事用具・毛布あり。雨天決行
自然観察山行127
静岡
山伏から八幡橋経と竜爪山

期日 11月7日(日) 9日(月) 前後発1泊2日
集合 (7日) JR岐阜駅23時00分
コース (7日) 岐阜駅(バス) (8日) (バス) 笹山登山口―牛首峠―山伏小原―山伏―大谷嶺―八幡橋―安倍峠(バス) 梅ヶ島温泉(泊)
(9日) 梅ヶ島温泉(バス) 穂積神社―薬師岳―文殊岳―栗岳―穂積神社(バス) 岐阜駅(解放)
*帰路に浴衣します。
費用 約27000円(岐阜駅からバス・宿泊代等)
地図 2万5千―梅ヶ島・清水・和田島
◎鷺見守康
申込み 〒504-0828 各務原市蘇原村雨町1の

19の5 鷺見守康まで
*定員20名(10月22日まで)

安倍山系最奥の山伏から八幡橋を縦走し、翌日は南端の竜爪山を歩きます。雨天決行
三重の山70
飯南・宮の谷渓谷(中級向き)
期日 11月8日(日) 日帰り
集合 飯高町「道の駅・飯高駅」(R166) 8時30分
コース 「道の駅・飯高駅」(車) 宮の谷林道終点―扇折谷出合―扇折滝―扇折谷出合―宮の谷林道(車) 道の駅(解放)
費用 1500円
地図 昭文社『大台ヶ原・大杉谷・高見山』
係 尾崎美五 ○稲垣逸夫
申込み 〒519-0311 鈴鹿市大久保町2065 稲垣逸夫まで
*マイカー山行
余裕があれば高滝へも
雨天決行
三重・竜仙山(一般向き)
期日 11月9日(日) 日帰り

集合 ①近鉄名古屋駅地下7時25分/②近鉄・JR伊勢市駅9時13分

コース 伊勢市駅(バス) 野添―ゴミ焼却場入口―貯水槽―竜仙山―船越峠―野添(バス) 伊勢市駅(解放16時30分頃)
費用 約4500円(名古屋から車)
地図 2万5千―五ヶ所浦
◎小出良春
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで
*集合地を明記ください
山頂から五ヶ所浦の眺望はすばらしい。下山は船越峠を避けて野添に戻ります。雨天中止
鈴鹿を歩く180
藤原岳・頭陀の窟(健脚向き)
期日 11月9日(日) 日帰り
集合 茶屋川林道野手前へリポート広場8時00分
コース 広場(車) 茨川―尾根―主峰線―藤原岳―天狗岩―頭陀ヶ平―白船峠―真ノ谷―頭陀の窟―三筋の滝―滝ノ次川(解放)
費用 交通費各自
地図 昭文社『御在所・竜仙・伊吹』
係 若野 明 ○山田景三
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで
*マイカー山行
茶屋川・真ノ谷・藤原岳の秋を楽しみます。茨川から尾根に取りつき藤原岳を縦走。白船峠から真ノ谷において頭陀の窟・三筋の滝から茨川へ。雨天中止
但馬南部・行者山(中級向き)
期日 11月9日(日) 日帰り
集合 JR西明石駅西出口7時40分
コース 西明石駅(バス) 多々良木―行者岳―岩屋観音―岩津(バス) 西明石駅(解放18時頃)
費用 約4500円(バス代等)
地図 2万5千―但馬新井
◎古賀慶一 ○岡田 昇
申込み 〒675-0112 加古川市平岡町山の上684の33・17A03 古賀慶一まで
*定員22名

この山にふさわしい季節を選びました。自然林岳頂上に富んだコースです。雨天中止

フアミリーハイイク31
北摂・美女谷からボンボン山 (一般向き)
期日 11月13日(日) 日帰り
集合 JR高槻駅南・松坂屋前市バスのりば9時00分
コース 高槻駅(バス) 川久保―川久保溪谷―ボンボン山―釈迦岳―大沢―水無瀬溪谷―若山神社―若山台(バス) 阪急水無瀬駅
費用 約6000円(高槻駅より)
地図 昭文社『北摂・京都西山』
係 木村太郎 ○中村友昭
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで
美女谷と呼ばれる水源の森自流水無瀬川上流を歩き、秋色深まるボンボン山へ登る。雨天中止
室生・三結ヶ岳から飯盛塚山 (一般向き)
期日 11月13日(日) 日帰り
集合 近鉄室生口大野駅9時15

分(9時25分発バス乗車)
コース 室生口大野駅(バス)室生寺→天王橋→カトラ林道→尾根出合→三結ヶ岳→飯盛塚山→カトラ池→唐戸峠止堂→高井(バス)松原駅(解散15時頃)

費用 約2500円(鶴橋駅起点)
地図 2万5千→大和大野・初瀬
係 ◎西上利和 ○中村英雄 ○井上由記晴
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

湖北・東山(中級向き)
期日 11月15日(日) 日帰り
集合 JRマキノ駅8時50分
コース マキノ駅(バス)小荒路→万字越→東山→海津大崎宅造地→湖岸道路→海津一区(バス)マキノ駅(解散15時40分頃)

室生寺から南に位置するマイナーな山ですが、深まりゆく秋の季節にふさわしい静かな山歩きが楽しめます。雨天中止
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

週末ハイイク53
比良・釣瓶岳(一般向き)
期日 11月15日(日) 日帰り
集合 JR近江高島駅8時55分(8時59分発バスに乗車)
コース 近江高島駅(バス)畑→ヨコタ峠→釣瓶岳→広谷口(バス)比良駅(解散)

山田明男まで
*マイカーの方はその旨
*集合地を明記ください
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

北山ちよつと歩き51
芦生最北の山々(一般向き)
期日 11月19日(日) 日帰り
集合 JR京都駅八条口団体バスのりば7時00分
コース 京都駅(バス)生杉ゲート→三國峠→野田畑ヒーク→上谷→サワ谷出合→中山橋→地蔵峠→生杉ゲート(バス)京都駅(解散18時頃)

自然観察山行128
奥美濃・湧谷山(一般向き)
期日 11月15日(日) 日帰り
集合 JR大垣駅8時40分
コース 大垣駅(バス)遊らんど坂内スキー場→十字山→湧谷山→十字山→スキー場(バス)大垣駅(解散)

比良を歩く27
鹿ヶ瀬道から岩阿沙利山・音羽山
期日 11月16日(日) 日帰り
集合 JR近江高島駅8時55分
申込み 〒504-0828 各務原市蘇原村雨町1の19の5 警員守康まで
*定員30名
*集合地を明記ください
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

新ハイキング関西まで
紅葉の尾根道を約10分ほど歩き、ナガオの屋根から広谷へくだります。雨天中止
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

約5000円(マキノ駅よりバス代)
地図 2万5千→海津
係 ◎金谷 昭 ○磯部 純
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

週末ハイイク53
比良・釣瓶岳(一般向き)
期日 11月15日(日) 日帰り
集合 JR近江高島駅8時55分(8時59分発バスに乗車)
コース 近江高島駅(バス)畑→ヨコタ峠→釣瓶岳→広谷口(バス)比良駅(解散)

山田明男まで
*マイカーの方はその旨
*集合地を明記ください
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

北山ちよつと歩き51
芦生最北の山々(一般向き)
期日 11月19日(日) 日帰り
集合 JR京都駅八条口団体バスのりば7時00分
コース 京都駅(バス)生杉ゲート→三國峠→野田畑ヒーク→上谷→サワ谷出合→中山橋→地蔵峠→生杉ゲート(バス)京都駅(解散18時頃)

自然観察山行128
奥美濃・湧谷山(一般向き)
期日 11月15日(日) 日帰り
集合 JR大垣駅8時40分
コース 大垣駅(バス)遊らんど坂内スキー場→十字山→湧谷山→十字山→スキー場(バス)大垣駅(解散)

比良を歩く27
鹿ヶ瀬道から岩阿沙利山・音羽山
期日 11月16日(日) 日帰り
集合 JR近江高島駅8時55分
申込み 〒504-0828 各務原市蘇原村雨町1の19の5 警員守康まで
*定員30名
*集合地を明記ください
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

若狭の山
御嶽山(美濃町) (一般向き)
期日 11月22日(日) 日帰り
集合 美濃町役場9時30分
コース 美濃町佐橋区へ移動→園吉城址から南へ尾根を登る→頂上から宮代区へ下り→佐橋区へ戻る
費用 交通費各自
地図 2万5千→早瀬
係 ◎高島伸浩
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで
雨天代行 *マイカー山行

約3000円(バス代)
地図 昭文社「京都北山」
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで
残り少ないブナ原生林でクマの棲息地を歩きます。雨天中止
平白ふれあいハイイク
湖西・大谷山(一般向き)

約3500円(大垣駅からバス代)
地図 2万5千→美濃広瀬
係 ◎警員守康
申込み 〒504-0828 各務原市蘇原村雨町1の19の5 警員守康まで
*定員30名
*集合地を明記ください
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

約5000円(京都からバス代)
地図 2万5千→海津
係 ◎金谷 昭 ○磯部 純
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

週末ハイイク53
比良・釣瓶岳(一般向き)
期日 11月15日(日) 日帰り
集合 JR近江高島駅8時55分(8時59分発バスに乗車)
コース 近江高島駅(バス)畑→ヨコタ峠→釣瓶岳→広谷口(バス)比良駅(解散)

山田明男まで
*マイカーの方はその旨
*集合地を明記ください
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

北山ちよつと歩き51
芦生最北の山々(一般向き)
期日 11月19日(日) 日帰り
集合 JR京都駅八条口団体バスのりば7時00分
コース 京都駅(バス)生杉ゲート→三國峠→野田畑ヒーク→上谷→サワ谷出合→中山橋→地蔵峠→生杉ゲート(バス)京都駅(解散18時頃)

自然観察山行128
奥美濃・湧谷山(一般向き)
期日 11月15日(日) 日帰り
集合 JR大垣駅8時40分
コース 大垣駅(バス)遊らんど坂内スキー場→十字山→湧谷山→十字山→スキー場(バス)大垣駅(解散)

比良を歩く27
鹿ヶ瀬道から岩阿沙利山・音羽山
期日 11月16日(日) 日帰り
集合 JR近江高島駅8時55分
申込み 〒504-0828 各務原市蘇原村雨町1の19の5 警員守康まで
*定員30名
*集合地を明記ください
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

若狭の山
御嶽山(美濃町) (一般向き)
期日 11月22日(日) 日帰り
集合 美濃町役場9時30分
コース 美濃町佐橋区へ移動→園吉城址から南へ尾根を登る→頂上から宮代区へ下り→佐橋区へ戻る
費用 交通費各自
地図 2万5千→早瀬
係 ◎高島伸浩
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで
雨天代行 *マイカー山行

約10000円(タクシール)

(バス8時59分発)
コース 近江高島駅(バス)鹿ヶ瀬道→沙羅寺→鶴川越→岩阿沙利山→鳥越峠→音羽山(音羽山)→日吉神社→近江高島駅(解散16時頃)

費用 約2100円(京都から)
地図 2万5千→北小松・勝野
係 ◎昭文社「比良山系」
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

奈良・葛城古道(一般向き)
期日 11月16日(日) 日帰り
集合 ①近鉄名古屋駅地下6時25分/②近鉄御所駅9時55分
コース 御所駅(バス)東佐味→峯山→百体観音→東佐味→高天彦神社→九谷聖寺→一言主神社→九谷聖寺→猿目橋(バス)御所駅(解散16時30分頃)

約5000円(名古屋からバス代)

龍野市西方の山々を一回に分けて訪ねます。晩秋の池では時を忘れてのんびりと。距離はありますが比較的ゆったりとしたコースです。初心的の方歓迎。雨天中止
*定員20名
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

約3000円(京都からバス代)
地図 2万5千→海津
係 ◎寺井恒夫 ○川上久登
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

約3000円(京都からバス代)
地図 昭文社「京都北山」
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

約3000円(バス代)
地図 昭文社「京都北山」
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

約10000円(タクシール)

地図読み山行60

京都北山・大尾山(一般向き)
期日 11月23日(日) 日帰り
集合 JR堅田駅8時40分
コース 堅田駅(バス)南庄一滝
寺一太尾山一御木峠一野
村岐一大原(解放)

新ハイキング関西支部と合同。
比叡山北部のピークに登り、大原
にくいだります。滝寺門前の紅葉が
美しい。地形図とコンパスの使い
方を勉強しながら歩きます。初心
者歓迎。シルバーⅢ型コンパスを
持参ください。雨天中止

鈴鹿を歩く181
鬼ヶ牙・臼杵岳(健脚向き)
期日 11月23日(日) 日帰り
集合 安楽越広場8時30分
コース 広場(車)三ツ瀧口広場
一鬼ノ牙東峰一南峰一鬼

自然観察山行129

美濃・屏風山と三森山
(一般向き)
期日 11月29日(土)30日(日)
1泊2日
集合 (29日) JR岐阜駅9時
10分

コース (29日)岐阜駅(バス)
笹平一貝崎台一屏風山一
仲ヶ平(バス)岩村(自)
(30日)宿(バス)岩村
ダム登山口一三森神社一
奥の院一三森山一水晶山
一丸丸駐車場(バス)岐
阜駅(解放)

費用 約25000円(岐阜駅
からバス・宿泊代等)
地図 2万5千・瑞浪・岩村
係 ◎鷺見守康
申込み 〒504-0828
各務原市蘇原村雨町1の
19の5 鷺見守康まで
*定員20名(10月29日ま
で)

ヶ牙一北峰一長坂の頭一

尾根尾根一舟石一臼杵岳
一かもしか高原一安楽越
(解放)
費用 交通費各自
地図 昭文社「御在所・雲間・
伊吹」

巨岩の林立する鬼ヶ牙から奥境
尾根に登り、南麓鹿の展望を楽し
みながら臼杵岳 かもしか高原、
安楽越へくだります。雨天中止

三河・御堂山から砥神山
(一般向き)
期日 11月23日(日) 日帰り
集合 JR名古屋駅中央改札口
8時20分
コース 名古屋駅(電車)三河大
塚駅一観音堂一御堂山一
相楽キャンプ場一砥神山一
登山口一三河三谷駅
(電車)名古屋駅(解放
14時52分)
費用 約21000円(貸空ラリー
バス使用・名古屋から)

雨天決行

京都北山・箕粟ヶ岳(一般向き)
期日 11月30日(日) 日帰り
集合 ①JR名古屋駅中央改札
口6時10分/②叡山電鉄
出町柳駅9時20分

コース 出町柳駅(電車)鞍馬駅
一餘原一登山口一箕粟ヶ
岳一箕粟坂一岩倉駅一地
下鉄国際会館駅(電車)
京都駅(解放16時45分)
費用 約4000円(貸空ラリー
バス使用・名古屋から)
地図 昭文社「京都北山」
係 ◎小出良春
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10

京都市山歩き112
金尾羅山から翠葉山・焼杉山
(一般向き)
期日 12月7日(日) 日帰り
集合 JR京都駅正面8時00分
コース 京都駅(バス)戸寺一江

地図 2万5千・小坂井

係 ◎小出良春
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
三河湾の展望と双耳峰の砥神山
への縦走です。雨天中止

京都北山歩き111
雲取山(一般向き)
期日 11月24日(日) 日帰り
集合 京阪出町柳駅バスのりば
7時40分
コース 出町柳駅(バス)花背高
原南一寺山峠一雲取峰一
雲取山一三ノ谷一芦生一
芦生峠一尾根道一滝谷峠
一三ノ瀧ユリ一叡電二ノ
瀧(電車)出町柳駅
(解放17時頃)
費用 約2000円(京都から)
地図 昭文社「京都北山」
係 ◎中西信行 ◎磯野重治
◎森脇良義
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
雲取山へ登り、芦生峠から尾根
道を二ノ瀧駅へくだります。やや
長くなりますがアップダウンは少

文神社一江文峠一琴平新
宮社一金尾羅山(三角点
往復)一翠葉山一天ヶ岳
分岐一焼杉山一南尾根
一中継アンテナ一大原草
生町一大原バス停(解放
16時頃)
費用 約10000円(京都から)
地図 昭文社「京都北山」
係 ◎村田智俊 ◎高比呂美
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
村田智俊まで
落ち葉散る初冬に大原背後の三
山を巡ります。雨天中止

ない。雨天中止

一足早い忘年会
奥播磨・岩谷山と大甲山
(一般向き)
期日 11月29日(土)30日(日)
1泊2日

集合 (29日) JR姫路駅南口
バスターミナル9時10分
コース (29日)姫路駅(バス)
岩谷山登山口一古城山一
岩谷山一三林(バス)福
知溪谷休養センター(自)
(30日)休養センター一
(バス)波賀町齊木一太
甲山一行者山一齊木(バ
ス)入湯(バス)姫路駅
(解放17時頃)
費用 約12000円(バス・
宿泊代等)
申込み 〒671-1262
姫路市余部区上余部50の
2の11 須藤岡 榎まで

一人では登れない晩秋の奥播磨
の岩谷山(7333)と大甲山
(10355)へ足を踏み入れま
せんか。雨天決行

地図 2万5千・電ヶ岳

係 ◎山田明男 ◎高原芳彦
申込み 〒503-0535
海津市南瀬町松山62の19
山田明男まで
*集合地を明記ください
*マイカーの方はその旨
明記ください

富士神社に参拝し、水鏡谷キャ
ンプ場で忘年会をします。お
酒を飲まれる方は必ず電車で来て
ください。飲酒運転禁止。
雨天決行

紀北・園城山(一般向き)

期日 12月7日(日) 日帰り
集合 ①近鉄名古屋駅地下6時
25分/②南海高野線紀伊
清水駅10時57分
コース 紀伊清水駅一学文路分岐
一園城神社一園城山一三
平神社一雲間一学文路駅
(電車)河内長野駅(解
放16時30分)
費用 約5000円(3・3・
3きっぷ使用・名古屋か
ら)

地図 2万5千・橋本
係 ◎小出良春
申込み 〒610-0121

城隍市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*集合駅を明記ください

実業之日本社の「関西里山・低山歩き」に紹介されている山です。園城山は倒木が激しく登るに苦労しますが360度の大展望です。山道は通らず地道を歩いて字又路におります。雨天中止

鈴鹿を歩く182
イワス・向山・男鬼山
(一般向き)

期日 12月7日(日) 日帰り
集合 河内柳葉橋手前広場8時30分

コース 広場(車)イワス取付広場イワス→広場(車)
男鬼山手前広場→向山→男鬼山→広場(昼食忘年会・解散)

費用 交通費各自
地図 昭文社「御在所・雲仙・伊吹」

係 ①岩野 明 ○山田登三
申込み 〒610-0121
城隍市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行
男鬼山周辺の忘れられた山、イワ

ス、男鬼山、向山を巡り、昼食忘年会(各自持参)を楽しく行います。雨天中止

但馬・西尾尾山(一般向き)
期日 12月7日(日) 日帰り
集合 JR西明石駅西出口7時40分

コース 西明石駅(バス)西尾尾山登山口→西尾尾山→東床屋山→糸井の大かつら(バス)西明石駅(解散19時頃)

費用 約4500円(バス代)
地図 2万5千→出石・直見
係 ①古賀慶二 ○岡田 昇
申込み 〒675-0112
加古川市平岡町山の上881の33・17A03
古賀慶二まで
*定員22名
うっすらと新雪(願望)を期待して再挑戦です。雨天中止

期日 12月11日(日) 日帰り
集合 神鉄有馬口駅9時30分
コース 有馬口駅→東山橋→猪ノ

鼻池→伏谷峠→逢ヶ山→仏ヶ峠→高尾山→湯檜谷山→灰形山→落葉山→有馬温泉駅(解散)

費用 約2000円(船山より)
地図 昭文社「六甲・摩耶・有馬」

係 ①木村太郎 ○中村友昭
申込み 〒610-0121
城隍市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

期日 12月11日(日) 日帰り
集合 近鉄信貴山下駅9時00分
コース 信貴山下駅→近畿自然歩道→信貴山バス停→本堂→信貴山城跡(山頂)→高安山→縦走路→十三塚→鐘の鳴る展望台→鳴川峠→黒草山駅(電車)鶴橋駅→「ばっばはうす」
(忘年会・解散19時頃)
費用 約5000円(天王寺駅起乗交通費・忘年会費)

期日 12月14日(日) 日帰り
集合 近鉄八木駅北口8時00分
コース 八木駅(バス)大又林道駐車場→明神滝→明神平→(往路)→大又林道駐車場(バス)八木駅(解散17時頃)

費用 約3000円(八木駅からバス代)
地図 昭文社「大台ヶ原」
係 ①村田智俊 ○安倉正勝
申込み 〒610-0121
城隍市寺田大群10の10
村田智俊まで
*定員22名
もう明神平には霧水の花が咲く頃です。のんびりと明神平周辺を散策します。雨天中止

台高・明神平(一般向き)
期日 12月17日(日) 日帰り
集合 JR亀岡駅8時30分
コース 亀岡駅→明智越→神明峠分岐→清和天皇陵→水尾→米貫道→落台→六丁峠→小倉山→嵐山駅(解散)

費用 約3500円(大垣駅からバス・資料代等)
地図 2万5千→大垣
係 ①鷺見守康
申込み 〒504-0828
各務原市蘇原町雨町の19の5 鷺見守康まで
*定員30名
まだ未整備ですが、六合への東海自然歩道を歩きます。下山後は希望者で忘年会を開きます。雨天中止

自然観察山行130
美濃・池田山(一般向き)
期日 12月20日(日) 日帰り
集合 JR大垣駅8時40分
コース 大垣駅(バス)池田の森→池田山→垂井峠→六合(バス)大垣駅(解散)

費用 約10000円(京都から)
地図 昭文社「京都北山」
係 ①奥山繁三
申込み 〒610-0121
城隍市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
今年最後の「ちよと歩き」はややロングコースです。途中保津峡駅からは帰れます。雨天中止

費用 約10000円(京都から)
地図 昭文社「京都北山」
係 ①奥山繁三
申込み 〒610-0121
城隍市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
今年最後の「ちよと歩き」はややロングコースです。途中保津峡駅からは帰れます。雨天中止

2万5千→信貴山
係 ①西上和昭 ○中村英雄
申込み 〒610-0121
城隍市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

「信貴山の里沙門さん」と親しまれ、庶民信仰のメッカ朝護孫子寺から信貴山に登り、十三塚など多くの史跡が点在する生駒縦走路を歩きます。*忘年会へ参加の方は「忘年会参加」と必ず記入ください。不参加の場合は解散16時頃小雨決行

週末ハイイク64(忘年会)
播州坂越・宝珠山ハイイク
(一般向き)
期日 12月13日(日) 日帰り
集合 JR赤穂線坂越駅9時40分

コース 坂越駅→妙見寺観音堂→宝珠山→宝珠山遊歩道→登山口→海の駅・しおきい市場→坂越駅(電車)播州赤穂駅(入浴・忘年会)

費用 交通費各自、忘年会費(約5000円)
地図 2万5千→相生・播州赤

17時頃
費用 約10000円(京都から)
地図 昭文社「京都北山」
係 ①奥山繁三
申込み 〒610-0121
城隍市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
今年最後の「ちよと歩き」はややロングコースです。途中保津峡駅からは帰れます。雨天中止

費用 約10000円(京都から)
地図 昭文社「京都北山」
係 ①奥山繁三
申込み 〒610-0121
城隍市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
今年最後の「ちよと歩き」はややロングコースです。途中保津峡駅からは帰れます。雨天中止

費用 約10000円(京都から)
地図 昭文社「京都北山」
係 ①奥山繁三
申込み 〒610-0121
城隍市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
今年最後の「ちよと歩き」はややロングコースです。途中保津峡駅からは帰れます。雨天中止

費用 約10000円(京都から)
地図 昭文社「京都北山」
係 ①奥山繁三
申込み 〒610-0121
城隍市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
今年最後の「ちよと歩き」はややロングコースです。途中保津峡駅からは帰れます。雨天中止

費用 約10000円(京都から)
地図 昭文社「京都北山」
係 ①奥山繁三
申込み 〒610-0121
城隍市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
今年最後の「ちよと歩き」はややロングコースです。途中保津峡駅からは帰れます。雨天中止

費用 約10000円(京都から)
地図 昭文社「京都北山」
係 ①奥山繁三
申込み 〒610-0121
城隍市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
今年最後の「ちよと歩き」はややロングコースです。途中保津峡駅からは帰れます。雨天中止

地 狩野東彦

申込み 〒610-0121
城隍市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

*11月30日まで
瀬戸内の港町の旧い町並と坂越湾を眺めながらのハイキングの後、赤穂で入浴後忘年会をします。
*忘年会参加希望者は申し込みハガキに「忘年会参加」と朱記願います。雨天決行

若狭の山
黒崎半島太陽の丘(三万町)
(初級向き)

期日 12月13日(日) 日帰り
集合 三方町役場9時30分
コース 食見へ移動→黒崎半島の森林浴コース→ペノラマ尾根→太陽の丘→展望コース→自然歩道から食見へ戻る

費用 交通費各自
地図 2万5千→西津
係 ①高島信浩
申込み 〒610-0121
城隍市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行

雨天決行

六甲
油コブシから六甲記念碑台
(一般向き)

期日 12月14日(日) 日帰り
集合 ①JR名古屋駅中央改札口6時10分②JR六甲道駅9時45分
コース 六甲道駅(バス)六甲ヶ原下→高羽道→油コブシ→六甲ヶ原山→山上駅→六甲記念碑台→前ヶ辻→アイスロード→六甲ヶ原下(バス)阪急・JR六甲道駅(解散16時頃)
費用 約2700円(資料18きき) ※使用・名古屋から有馬
地図 昭文社「六甲・摩耶・有馬」
係 ①小出良春
申込み 〒610-0121
城隍市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*集合駅を明記ください
油コブシは「ゆるやかな道」を登って行きます。記念碑台からアイスロードを経ての周回コースです。雨天中止

期日 12月17日(日) 日帰り
集合 JR亀岡駅8時30分
コース 亀岡駅→明智越→神明峠分岐→清和天皇陵→水尾→米貫道→落台→六丁峠→小倉山→嵐山駅(解散)

費用 約3500円(大垣駅からバス・資料代等)
地図 2万5千→大垣
係 ①鷺見守康
申込み 〒504-0828
各務原市蘇原町雨町の19の5 鷺見守康まで
*定員30名
まだ未整備ですが、六合への東海自然歩道を歩きます。下山後は希望者で忘年会を開きます。雨天中止

(コース変更あり)

静岡・高草山(一般向き)

期日 12月21日(日) 日帰り

集合 JR名古屋駅7時15分

コース 名古屋駅(電車)焼津駅

(バス)坂本一林聖院

高草山一池の平一三輪

(バス)焼津駅(電車)

名古屋駅(解放17時07分)

費用 約2700円(書券18きつ)

ぶ使用・名古屋から)

地図 2万5千ニ焼津

係 ◎小出良春

申込み 〒610-0121

城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで

茶畑のなか眼下に駿河湾や遠州

湖を見て歩きます。青春18きつ

ぶのない人はハガキに書いてくださ

い。用意します。雨天中止

鈴鹿を歩く183

スモトリコバ・左上田山・入道

ケ原 (やや健脚向き)

期日 12月23日(日) 日帰り

集合 国道421号線永源寺町

役場前8時30分

コース 広場(車)相合広場―ス

モトリコバ―左上田山―

山行報告 (7・8月号)

新ハイキングクラブ関西

大峰・稲村ヶ岳

(ファミリーハイック27)

7月3日(日) くもり時々雨

(集合) 下市口駅8・10・15(タク

シ) 母公堂前登山口9・10・

法力峠10・00・05・10・15

(昼食) 11・45―大日山12・15―

稲村ヶ岳12・45―山上13・15―

20・25―レンゲ辻14・00・05―林

道終点15・15―清浄大橋15・35―

45―湖川温泉16・35(入浴) 17・

35―湖川温泉バス停17・40・55

(バス)下市口駅19・15(解散)

法力峠を過ぎ樹間に大日山の鋭

峰が見える頃、雨までが歓迎して

くれた。オオヤマレンゲには少し

だけ、「山溪」が花の百名山に選

んだヤマアジサイには数知れず出

会えた。

(参加者) 榎木敏子 白晶中子

沖 伸 栗柄裕子 須藤浩子

竹田豊英 上西信子 田所真里子

高岡信男 永富律子 中尾美智子

入道ヶ原―巡視路―佐目

―広場(解散)

費用 交通費各自

地図 昭文社『御在所・雲仙・

伊吹』

係 ◎狩野 明 ○山田景三

申込み 〒610-0121

城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで

*マイカー山行

ほとんど歩く人はいないカクレ

グラか北西の相合におりている尾

根を登り、スモトリコバ、左上田

山(P700m)、入道ヶ原から

佐目の集落へくだります。

雨天中止

紀泉・お菊山(一般向き)

期日 12月28日(日) 日帰り

集合 ①JR名古屋駅中央改札

口6時10分/②JR天王

寺駅(解放17時17分)

分発に乗車

コース 天王寺駅(電車)長滝駅

―新滝ノ池―大山―殿尾

山―お菊山―林道―種河

神社―新家駅(電車)天

王寺駅(解放17時17分)

費用 約2300円(書券18きつ)

ぶ使用・名古屋から)

松田和恵 岩本彩子 中澤ちず子
本間昭恵 網 徳保 勝元益次郎
緒方由子 山根邦枝 柏木峯子
○中山峰雄 ◎木村太郎(計24名)

越美・金草岳

(自然観察山行122)

7月5日(日) くもり時々雨

(集合) JR大垣駅8・40(バス

冠峰11・15・20―松尾峠12・15

(昼食) 12・45―白倉岳13・30―

金草岳13・45・14・00―松尾峠14・

45―ソバコマタ林道出合―ソバコ

マタ林道入口16・45・17・00(バ

ス)大垣駅19・15(解散)

梅雨期の曇天で下山時には雨も

降り出した。それでも往路は見晴

らしがきき、白山、美濃や越前の

山並がよく見えた。昨年、暴風で

撤退した金草岳にようやく登頂し

た。

(参加者) 伊藤 直 大須賀 實

近江秀子 岡田直規 菅 キヤウ

金森節子 川上久堅 久保田順一

木村光江 朽名生石 安田文美江

小谷和子 西條良彦 三上須美恵

繁田広美 角田一江 森 美香子

竹田豊英 谷 久雄 森本真智子

平田輝美 堀田輝子 若林文夫

三角幸子 宮西和子

2万5千ニ樽井・岩出

係 ◎小出良春

申込み 〒610-0121

城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで

*集合駅を明記ください

大山・殿尾山・お菊山は自然林

が豊かで尾根筋は展望が開けてい

ます。雨天中止

年末にロングコースを歩く

京都北山・二ノ瀬駅から嵐山駅

(中級向き)

期日 12月28日(日) 日帰り

集合 叡電出町橋駅7時20分

コース 出町橋駅(電車)二ノ瀬

駅―夜泣峠―山寺橋―小

峠―水室神社―城山―京

見峠―上ノ水峠―沢山―

沢ノ池―高尾―高尾谷池

―直指庵―大覚寺―JR

嵯峨嵐山駅(解放18時07分)

費用 約1000円(京都から)

地図 昭文社『京都北山』

係 ◎村田智俊

申込み 〒610-0121

城陽市寺田大群10の10

村田智俊まで

コースは一部林道がありますが、

ほとんど登山道を歩きます。北山

佐々木三三代 ○田中 明
○長尾一合 ◎警見守康(計約20名)

大峰奥駈・弥山から大普賢岳

(週末ハイック50)

7月5日(日) 6日(日) 1泊2日

(5日) 雨のちくもり (集合)

近鉄大和上市駅9・25・30(タク

シ) 行者還トンネル西口10・

40・55―奥駈道出合11・55(昼食

12・30) 弁天の森12・55―聖宝の

宿務13・20・30―弥山小屋14・30

(泊) 6日 雨のちくもり 弥山小屋

6・40―聖宝の宿務7・15・20―

行者還登山道出合8・05・15―

ノタワ8・40―行者還小屋9・40

・50―行者還岳10・20・30―七曜

岳11・35・40―七ツ池12・00(昼

食) 12・30―園見岳12・40―弥勒

岳13・30―大普賢岳13・50・14・

00―小普賢岳14・20―日本ヶ原15・

00・05―筆ノ窟15・15・20―和佐

又ヒシッテ16・00・40(タクシ)

大和上市駅17・15(解散)

弥山小屋に荷物をデポして弥山

と八経ヶ岳を往復した。目当ての

オオヤマレンゲは開花が遅れてい

たが、開花したばかりの香りのよ

い花や蘭花直前の白い影らんだっ

の里山をめぐるロングコースに挑

戦してみます。雨天中止

大阪・蘇鉄山と天保山

(初級向き)

期日 12月30日(日) 日帰り

集合 ①JR名古屋駅中央改札

口6時10分/②南海堺駅

南出口10時20分

コース 堺駅―蘇鉄山―神明神社

―堺駅(電車) 大阪港駅(解

散12時20分)

費用 約3300円(書券18きつ)

ぶ使用・名古屋から)

地図 2万5千ニ堺・大阪西南

部

係 ◎小出良春

申込み 〒610-0121

城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで

*集合駅を明記ください

蘇鉄山(6・855m)は1等三

角点のある日本一低い山、天保山

(4・555m)は日本一低い山として

て聞え高い。話の種として一度

訪れてみてはいかがでしょう。

天保山は自由参加です。雨天中止

ばみを見ることができた。行者還

小屋は新装されて快適な避難小屋

になっていた。大普賢岳までの稜

線は風があったので雨具でも苦に

ならず足並みを揃えて歩けた。霧

に濡れたフナ林が見事だった。

(参加者) 小松志信 市橋千代子

上田久子 南 利憲 竹内喜久子

森 晴代 村川幸忠 砂原恵美子

入江武史 馬龍忠男 石倉真佐子

上西信子 山本京子 小崎由利子

松村雅子 川田洋子 加納由紀子

吉本泰一 榎原良彦 萩野美紀恵

田口寿一 田口富子 ○瓜取利明

◎狩野東彦 (計24名)

三周ヶ岳(美濃の山3)

7月6日(日) くもり時々小雨

(集合) JR大垣駅7・00(車)

池の又林道終点夜々ヶ池登山口駐

車場8・30・40―幽玄の滝9・45

―夜叉ヶ池10・20・45―三周ヶ岳

11・50(昼食) 12・50―夜叉ヶ池

13・45―登山口駐車場14・50(車)

大垣駅16・45(解散)

強い雨で中止しようかと思っ

て現地に行けば小雨となり、結局

山頂まで行った。濡れたササでず

ぶ濡れ状態になったが、池から山

頂まで80本余のササユリが見ら

れてきれいだった。

(参加者) 丹下由子 伊藤重美子
鳥居信吾 山村恭男 宍倉喜久江
後藤久美子 武藤由美子
◎高野秀彦 ◎山田明男(計9名)

元蔵谷(鈴鹿を歩く172)
7月6日(日) 小雨のちくもり

(集合) 元蔵谷林道手前広場8・
30(元蔵谷林道) 50(元蔵谷) 9・
20(大滝) 10(00) 10(仏谷分岐) 10・40
1(左戻分岐) 11・30(源流) 12・10(1
大岩) 12・40(昼食) 13・30(猪足
谷林道) 14・20(集合広場) 16・20
(解散)

大滝は白くて太い瀑布をおどら
せ轟音を響かせていた。明るい沢
に緑が映え、ナメ・トロ・滝の水
量も豊富で夏の沢を堪能。眺望の
大岩テラスでの昼食は楽しい。

(参加者) 後藤康幸 奥野太一郎
吉村 昭 栗本彩夫 奥野民恵
小林 隆 栗本敏子 網本美恵子
大石将美 永谷鉄治 南 智恵子
谷 守 櫻田勝利 石田真由美
今井武司 内田康夫 ○山田三三
◎若野 明 (計18名)

鈴鹿・三池岳
7月6日(日) 雨のち晴れ

(集合) 近鉄四日市駅8・55(電
車) 蕨野駅9・25(タクシー) 八
風射撃場9・52(お菊池) 11・22
(昼食) 11・55(八風峠) 12・32(1
三体) 13・04(射撃場) 14・05(タ
クシー) 蕨野駅14・43(電車) 四
日市駅15・02(解散)

ポンポンという射撃音を後に東
尾根を登って行く。春ならばイワ
カガミの花が咲く急登の尾根。お
菊池ではソリアオガエルの卵があっ
た。雨のやんだ栗木谷の清流を見
ながら下山した。

(参加者) 吉藤孝次 三上 勇
東中次夫 徳田陽子 岡本美子
岩田育士 林 正義 中尾美智子
多賀久子 若林文夫 庁 すろ子
水谷陽子 近田智子 ○藤崎流石
◎小出良春 (計15名)

コメカイ道から地蔵山
(比良を歩く24)

7月6日(日) くもり
(集合) JR堅田駅8・45(タク
シー) 朽木橋生9・20(地蔵峠・
フルベ岳分岐) 10・15(25) ササ峠
道台合10・45(50) 終点(堅田) 11・
15(18) ササ峠11・41(地蔵山) 11・
50(昼食) 12・20(畑) 13・20(56
(バス) JR近江高島駅14・17

(解散)

地蔵峠・フルベ岳の分岐からホ
トラ山の南を廻り、ササ峠道出合
から標高900mの積雲をたど
てイタワ峠北の縦断路に出るル
トをとった。しっとりした自然林
のなか、落ち葉のクッションが天
然のじゅうたんのよう思える心
地よい登りだった。縦断路に出て
からササ峠へのくだりは、一転し
て雨後の滑りやすい土道。畑の集
落に降りると、これまでに何度か
顔を合せている地元のおおに出
会った。バスの時間待ちのあいだ
貴 朽木の人が米買いに来て、1
俵(60kg)の米俵をかついで地蔵
峠を越えた話など、おもしろく聞
かせてもらった。

(参加者) 木村 豊 中嶋日出男
馬場昌盛 石田豊美 松尾陽子
宮野哲郎 山根弘美 伊東ナナ子
田中善雄 富岡慶子 古川裕子
蓮井洋子 ○宮下淳一
◎泰 康夫 (計14名)

六甲・布引ノ滝から穂高湖
(平日ふれあいハイク39)
7月8日(火) ◎寺井恒夫
*雨天のため中止しました。

鈴鹿・釈迦ヶ岳(三重の山68)

7月12日(土) 雨のち晴れ
(集合) 朝明バス停9・00(10
庵原の滝) 9・50(10・00) 松尾尾
根の頭12・00(昼食) 頂上へ自由
散策) 13・00(穂岳) 13・20(25)
ハート峰林道詰め14・25(朝明バス
停) 15・30(解散)

どしゃ降りのなかを出発。流あ
たりから小雨に。尾根はくもり。
そしてそこは赤トンボの国。猫岳
あたりからは靑空が広がった。ヘ
ビに驚いたり兎のこともをつかま
えて写真に撮ったり、ナツツバキ
の花を愛でたりした山だった。

(参加者) 永谷鉄治 岡本美子
筒井克治 石田真由美
◎稲垣逸夫 ◎尾崎英五(計10名)

紀東・猿子城山から横尾山

7月13日(日) 雨
(集合) 近鉄・南宮内新幹線9・
50(タクシー) 流畑ダム・ボテ峠
11・35(1城跡) 12・00(昼食) 12・
30(猿子城山) 12・37(十五丁石地
蔵) 12・57(横尾山) 13・45(穂高湖) 13・
55(穂高寺) 14・20(40) 横尾山バ
ス停15・10(解散)
バスが廃止されタクシーで流畑
ダムへ。雨具では暑いのでカサで

歩く。猿子城山は自然林のなか、
横尾山から猿子の展望はガスが谷
から吹き上げ、まるで水墨画の世
界だった。

(参加者) 永富律子 中尾美智子
前田栄三 徳田陽子 奥田英一郎
岩田育士 飯田光雄 伊東ナナ子
市野博文 荒木良子 草野智雅子
森 晴代 和田直樹 山根木恵子
柳川常雄 楠原良彦 山本博子
小田桐子 ○福澤 章
◎小出良春 (計20名)

但東・東尾尾山
(近畿百名山に登る第60回)

7月13日(日) 雨
(集合) JR新大阪駅7・40(45
(バス) 糸井深谷終点駐車場10・
40(糸井の大カツラ) 10・50(11・
00) 尾根道との分岐) 11・30(35)
床積の家並み小屋) 12・00(昼食)
12・40(東尾尾山) 12・50(13・00
糸井の大カツラ) 14・00(駐車場
14・10(20) (バス) よぶ通) 15・
30(入浴) 16・30(バス) 大阪駅
19・00(解散)
大カツラを見て雨のなか東尾尾
山を往復した。山頂には黄色の花
(キンシバイ?) が咲いていた。
雨のため西尾尾山からの縦走はあ

きらめた。

(参加者) 須藤陽子 松下美代子
澤田高治 青木一雄 佐野信江
白鳥忠子 片山克博 片山景代子
栗柄善吉 吉藤孝次 武部美美子
長尾節子 大西幸孝 中嶋日出男
入江武史 山根弘美 高岡富美子
小林 隆 三上 勇 斎藤よし子
岩崎健司 松井明忠 木村 豊
木下照子 平田輝美 多賀久子
福井清之 中井秀一 小川美奈子
磯野重治 小林 桂 田所真里子
妹尾一正 安倉正勝 ○奥比呂美
◎村田智俊 (計36名)

北アルプス
大目三山と立山三山

(自然観察山行123)
7月18日(日) 午後22日(祝)
前後発3泊4日
(18日) 雨 (集合) JR岐阜駅
23・00(バス)
(19日) くもり時々雨 (バス)
立山駅7・15(八郎坂) 称名滝
滝見台9・15(30) 大目岳登山口
9・55(午ノ首) 11・10(大目平山
荘) 12・15(19)
(20日) くもりのち雨 大目平山
荘6・30(大目小屋) 9・15(30)
大目岳9・40(大目小屋) 10・10(

20(中大目岳) 10・35(中間地点) 11・
15(昼食) 11・45(奥大目岳) 13・
10(剣ヶ峰) 16・15(19)
(21日) くもり時々雨 剣ヶ峰前小
屋8・05(雷鳥沢) 9・20(地蔵谷
温泉) 12・00(19)
(22日) 晴れのちくもり みくりに
が池温泉6・40(地蔵谷) 天狗早
7・40(獅子ヶ原) 8・45(一の
谷) 10・10(20) 茶臼ヶ原ホテル9・
50(10・10) (バス) グリーンハル
ク吉峰) 11・30(入浴) 昼食) 13・
00(バス) 岐阜駅17・20(解散)

梅雨明けには遠く、くわすか
に靑空が覗いたものは雨。大
目三山の縦走後半は強い風雨に見
舞われた。立山三山はカットした
が、個人ではなかなか歩くこと
ない八郎坂から称名滝、大目三山
天狗平から茶臼ヶ原は予定通り歩
けた。21日午後の自由時間を利用
して室堂自然観察会に参加した
人もいたりして、それなりに充実
した山行だった。
(参加者) 石田賢一 近江秀子
岡田直夫 沖 伸 加納由紀子
奥田剛夫 金森節子 桂 久美子
栗柄善吉 小松信信 田 明
谷 久雄 仲谷行司 長尾一令

宮本真幸 村井寿和 船本裕日子
若松 寛 ○狩野重彦
◎鷺見守康 (計20名)

穂高山のヒメス谷

(鈴鹿を歩く173)
7月20日(日) くもりのち雨
(集合) 八丁野広場8・20(車)
表参道取付広場8・40(ヒメス谷
8・50) ナメ大滝) 11・00(11・
35) 源流) 11・50(行者コバ) 12・05
(昼食) 12・40(山小屋) 13・05(1
広場) 13・35(解散)
谷に入るにつれ砂防ダムの急登。
V字の谷の麓下は滝・ナメ滝の連
続で、ザイルを張ってシャワーを
浴びての直登。ナメを主とする滝
群を飽きるほど味わうこと約3時
間。行者コバでは雨のなかカッパ
を着ての昼食中絶雨となり、早々
に山小屋までおいて二夜会。楽し
い山行となった。
(参加者) 後藤康幸 奥野太一郎
服部 晃 岩本彩子 石田真由美
三上伸夫 小林 隆 南 智恵子
小林 桂 永谷鉄治 網本美恵子
内田康夫 栗本敏夫 光川二美子
牧和夫 谷 守 櫻田勝利
原 光一 今井武司 奥野民恵
奥野重美 ○山田三三

三井鉱一 山根弘英 平田輝英
 中谷孝子 岩根健司 大西幸孝
 木村 豊 秋田植師 中嶋日出男
 加藤元彦 佐野信江 斉藤よし子
 多賀久子 馬場忠男 菅 キヤウ
 松田 久 川田洋子 植木敏子
 渡部和美 竹田元可 河原英代子
 中井秀一 磯部 純 市井ユリエ
 長尾節子 ○與比裕美
 ◎村田智俊 (計17名)

8月24日(日) 晴れ
 (集合) JR米原駅 9:00~05
 (電車) 武生駅 10:43~48 (バス)
 柳11・15 登山口 11:25 鷺滝 11:
 57 柳現山 12:37 (昼食) 13:15
 1 三軒神社 13:17 赤の鳥居 14:
 07 小次郎公園 14:22 35 武生
 駅 14:57 15:32 (電車) 米原駅
 17:52 (解散)
 柳谷にかかる五流も水量は少な
 く、山頂に着くまで暑さでバテそ
 うだった。山頂には4人ほどの
 サークルがいた。
 (参加者) 阪上義次 草野智雅子
 岩田哲士 粟木光雄 森 美香子
 藤本桂吉 河本英敏 岡本美千子
 入江武史 小田潤子 岡本美千子
 小林 桂 小林博子 吉戸喜久江

栗橋君子 林 信男 岩本いずゞ
 白根湧子 近田智子 船本信子
 森 晴代 黒河内東彦明
 佐々木三千代 ○市野博文
 ◎小出良春 (計25名)

☆ キトラ・東山・旭山・ヒキノ
 (鈴鹿白山岳)
 8月24日(日) くもり時々晴れ
 (集合) 三岐大駅 8:15 紅葉
 尾ひろせや酒店 9:15 (車) 寶川
 トンネル入口 9:35 キトラ 10:
 40 東山 11:20 旭山 11:50 稜
 線上 12:00 (昼食) 12:30 ヒノ
 キ 13:30 旭山 14:45 山の神峰
 15:10 宮の谷 山道車止 16:00
 寶川トンネル入口 16:20 (解散)
 コースは少し長くて疲れました
 が、夏の美少女に出会えて満足し
 ました。(記録・後藤久美子)
 (参加者) 島居信吾 南 智恵子
 段下由子 栗本敏夫 山野志保江
 山田妙子 馬場孝子 後藤久美子
 若林文夫 後藤康幸 西村文男
 本間 隆 服部 堯 森野直義
 原 光一 原 幸子 池田繁美
 金谷 昭 ○吉村 昭
 ◎山田明男 (計20名)

比良・白滝山
 (ファミリーハイック28)
 8月28日(木) ◎木村太郎
 *リーダーの勤務の都合で中止
 しました。

越美・能郷白山
 (自然観察山行126)
 8月30日(日) くもり
 (集合) JR大垣駅 9:00 (バス)
 温泉峠 11:40 肩(標高1530
 辺) 12:50 能郷白山 13:40 (昼
 食) 14:10 温泉峠 15:30 16:
 00 (バス) 大垣駅 18:50 (解散)
 登山者が少なく、大集団でもあ
 まり支障のない季節なので、バス
 を一台にして総勢39名で歩く。
 もり空だが、白山や蒲井・岐阜両
 県の山々の景観が楽しめた。
 (参加者) 石田高教 藤野美紀重
 伊藤 直 入江武史 小椋きぬ子
 岩根健司 岡田直規 小嶋由利子
 沖 伸 朽名生石 岸 さみ子
 栗橋吉吉 栗橋君子 中尾美智子
 斎藤芳美 繁田広美 船本裕巳子
 竹田博美 田中 明 三上須美恵
 中川美子 中谷孝子 武藤由美子
 使谷礼司 馬場直盛 森 美香子
 藤鶴浩司 細野政也 堀江房麿
 前田一代 宮内和子 村川春忠
 柳 礼子 山本京子 由田郁代

臨田和洋 ○島居信吾
 ◎吉藤孝次 ◎鷺見守康 (計39名)
 兵庫丹波・五台山
 8月31日(日) 晴れ
 (集合) JR大阪駅 9:20 25
 (電車) 石生駅 10:58 11:05
 (タクシー) 岩滝寺 11:20 独結
 の滝 11:38 不二の滝 11:45 小
 峠 12:20 小野寺山 12:53 五台
 山 13:05 (昼食) 13:45 鴨内峠
 14:10 幸生橋手前 15:10 (タク
 シー) 石生駅 15:25 31 (電車)
 大原駅 17:05 (解散)
 朝方までの雨で藤の目染谷の水
 量は多くて、独結の滝と不二の滝
 は壮观だった。小野寺山と五台山
 とともに展望よく丹波の山々がよく
 見えた。
 (参加者) 山根弘英 小椋きぬ子
 川田洋子 楠原良彦 水本加津栄
 柳川常雄 市野博文 松井明忠
 大谷章子 石田豊美 河本美千子
 前田初雄 林 信男 広田不佐子
 木寺直子 井上義子 渡邊靖子
 多賀久子 小野典子 岡本美千子
 入江武史 上阪知子 中尾美智子
 藤野重治 妹尾一正 ○福岡 章
 ◎小出良春 (計27名)

新ハイキングクラブ関西
 入金の案内

当会は雑誌「新ハイキング関西
 の山」(隔月刊・年6号発行)の
 定期購読者を中心にしたハイキン
 グの集いです。
 この雑誌は紀行文やコースガイ
 ドなどで、関西のハイキングコー
 スや山の情報を発信しています。
 山の知識を深め、健康な身体をつ
 くり、自然のなかを歩く喜びをと
 もに広げましょう。
 「新ハイキングクラブ」は昭和
 25年発足以来、東京を中心に50年
 間余、好評のうちに活動していま
 す。関西は平成3年発足で13年目
 に入りますが、すでにたくさん
 の会員で活動しています。
 会員は当会の山行例会に優先し
 て参加できます。この山行例会を
 通じて正しい山歩きを、楽しい山
 仲間たちと味わいませんか。
 リーダー(係)はすべて無償の
 奉仕で、各自で切符を買い茶代を
 払い、宿泊料もすべてワリカンで
 す。
 会員には「新ハイキング関西の
 山」を毎月お送りします。
 四季の自然に触れながら歩き、

若々しい心と健康をいつまでも持
 続するのはすばらしいことです。
 これから始めてみたい人も、す
 でにベテランの人もみなさんご入会
 いただけます。
 入会金 500円(バッグ代)
 年会費 3000円(送料共)
 入金の申し込み(随時)はこの
 雑誌に挿入の振替用紙をご利用
 ください。氏名(ふりがな)及び用
 何号からの送本かを忘れずに記
 入ください。
 なお、定期購読をご希望される
 方も会員になっていただきますと、
 毎月確実にお手元に届きますので
 便利です。
 切手530円分をお送りになれ
 ば、「新ハイキング関西の山」見
 本誌1冊送ります。
 ○山行リーダー募集
 リーダーは2ヶ月に1~2回程
 度の山行例会を計画・実施してい
 ただきます。
 無償の奉仕ですが、やりがいも
 あり、楽しいものです。経験のある
 方や、やってみたいと思われる
 方は、新ハイキング関西までご連絡
 ください。マニュアル「リーダー
 必読」をご参考を送ります。

- 新入会員(定期購読者)紹介
 新しいお仲間のみなさんです。
 会員番号48992番から49008
 番まで
- 【愛知】 伊藤和代 阿部田 忠
 - 【福井】 牧田正弘
 - 【滋賀】 中嶋 勝
 - 【京都】 朝田直雄 植田セイ子
 - 【大阪】 松本健司
 - 【奈良】 夜久充子 田中恒夫
 - 【和歌山】 川崎敏雄 大槻一夫
 - 【兵庫】 仲嶋 保 大園加代子
 - 【兵庫】 中浜孝子 近藤健策
 - 【兵庫】 和田文夫 (17名)

訂正とお詫び
 72号(初秋) 13ページ上段6行
 目「長原の花見」は「長谷の花見」
 が正しい。
 72号(初秋) 26ページ上段7行
 目「春菜」は「春木」が正しい。
 72号(初秋) 44ページ中段6行
 目から7行目「弘安八年(1118
 5)である。」は「弘安八年(1
 2185)である。」が正しい。
 72号(初秋) 52ページ下段21行
 目「広島県名山」は「広島県百
 名山」が正しい。(編集部)

